

薬剤師のための

**ドーピング防止
ガイドブック**

2015年版

日本薬剤師会

和歌山県薬剤師会

日本体育協会(ドーピング防止部会ドーピングデータベース作業班)

序

ドーピングは、公正さを基本とするスポーツ競技において重大なルール違反であるというだけでなく、選手の健康自体にも影響を及ぼす可能性のある危険な行為であり、世界的に注目されている問題です。また、医薬品の適正使用という観点からもドーピングは見過ごせるものではありません。医薬品の供給を担う薬剤師として、アンチ・ドーピング活動への貢献は非常に重要であると考えております。

その一方で、ドーピングを目的に禁止物質を使用したのではなく、悪意なく市販のかぜ薬などを服用したために、ドーピング陽性と判定されることが危惧されます。例えば、興奮薬として禁止されるメチルエフェドリンを含むかぜ薬は数多く販売されており、スポーツドクター等の支援が十分受けられない選手の中には、自分でこのような製品を購入し、ドーピングを意図せずに使用してしまうことがあるかもしれません。このような「うっかりドーピング」を未然に防止するうえで、地域で医薬品の提供に関わっている薬剤師の活用は、極めて効果的な手段と言えるでしょう。2003年の静岡国体における静岡県薬剤師会の活動を受けて開始した、日本薬剤師会のアンチ・ドーピング活動も今年で12年目に入りました。この間に開催された国体においては、地元薬剤師会と薬剤師の皆様のご尽力により、関係団体からもその活動について高い評価を頂き、アンチ・ドーピング活動における薬剤師の存在感と期待感は確実に高まってまいりました。そして、この活動は本年の国体開催県である和歌山県にも引き継がれ、薬剤師の新たな職能として更なる浸透が図られるものと期待しております。

(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が立ち上げ、本会も協力する「公認スポーツファーマシスト認定制度」も早や7年目を迎えました。競技者等からのドーピングに関する相談に応じ、医薬品及びスポーツに関する知識を活用し適切なアドバイスを行うことで、競技者が安心して医薬品を購入、使用できる手助けを行うスポーツファーマシストには、各界から大きな期待が寄せられています。引き続き本制度のさらなる発展を目指して、本会も積極的に協力していく所存です。

本年1月1日より発効された新しい「世界アンチ・ドーピング規程」(WADA Code)では、競技者やサポートスタッフに対するより明確な役割と責務が課されました。この中で、競技者は医療従事者に対して、自らが禁止物質等を使用してはならない義務を背負っていることを伝達するとともに、自らが受ける医療処置について、WADA Codeに基づき規範や規則に違反しないよう責任を負うこととされています。競技者がこの責任を果たすために、医薬品の専門家である薬剤師が担う役割及びその存在は、今後ますます必要不可欠なものになると考えられます。

また、学習指導要領が改訂され、学校におけるアンチ・ドーピング教育の充実が提言されている中で、学校教育の場においても、医薬品の適正使用の教育・啓発や薬物乱用防止活動も含めた、薬剤師によるアンチ・ドーピング教育・啓発活動は非常に重要な任務であります。

本書「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック」は、アンチ・ドーピング活動の一貫として、日本体育協会ドーピング防止部会ドーピングデータベース作業班から提供頂いた情報に基づいて、2004年より作成しており、薬剤師のアンチ・ドーピング活動の参考書として多くの方から高い評価を頂いております。本書が、薬局をはじめとする幅広い場所で積極的に活用され、健全なスポーツ競技の実現を目指す多くの方々の医薬品適正使用に貢献することを願っております。

末筆ながら、本書の作成作業に格別のご協力を賜りました、日本薬剤師会ドーピング防止対策委員会委員諸氏並びに情報の提供をご快諾下さった日本体育協会ドーピング防止部会ドーピングデータベース作業班の皆様、和歌山県薬剤師会、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会実行委員会、和歌山県体育協会、長崎県薬剤師会の皆様のご労苦に、心より厚く御礼を申し上げます。

2015年5月

公益社団法人日本薬剤師会
会長 山本 信夫

発刊によせて

昨年お伝えしたように、全面的に改訂された2015年版世界アンチ・ドーピング規程が年初に発効致しました。規程の解説は本書の目的ではありませんが、本書を活用する上で知っておいていただきたい点を以下にご紹介申し上げます。

正式には必ずWADAの原文、またはJADA様ご提供の和訳でご確認ください。

2.10章 (ドーピング違反で罰則を受けている) 特定の対象者との関わりの禁止。

10.2.1章 意図的と立証された非特定物質ドーピング違反に対する4年間の資格停止。

10.5.1.2章 「重大な過誤又は過失がないこと」に基づく資格停止期間の短縮。

特定対象者のドーピング違反が確定するとその事実が公示されますが、2.10には検査実施当局が所管するコーチ、医師、薬剤師、検査所職員やドーピング検査の結果評価に関わる者が、それら対象者と接触し、不正行為に関与したと立証された場合には処罰対象となることが新たに明記されました。情報提供者は相談相手を特定できないまま問い合わせを受ける場合がありますが、2.10はいかなる状況においても情報提供によって違反に関わらないよう注意を喚起しています。また10.2と10.5章は、違反が立証された際に、その起因物質が特定物質、非特定物質のいずれであるか、あるいは意図的と立証されたか、自身が意図的でないと立証できるか(非特定物質で汚染された製品の意図的でない使用等)のそれぞれについて、検査実施当局が罰則を適用する際の指針を明確に示しています。製品汚染の問題は国内の承認医薬品のみを対象とする際にほとんど問題にならないと思われませんが、海外ではドーピング物質を含むことがラベルに表示されていない不正・不良医薬品が原因で違反と判定される事例が相次いでいるため、個人輸入品や海外から持ち帰った医薬品の使用可否を外見だけで判断し助言するのは避けた方が良いでしょう。上記のように、医薬品の問い合わせに対してはTUE許可申請が必要な医薬品なのか、競技前に十分な休薬期間をおけば競技会外時に使用可能なのか、あるいは競技会外で検査対象とはならないものの、薬物五法等の規制により使用できない法規制物質かなどの正しい識別が求められています。

「意図的でない(unintentional)」という用語が「うっかり(inadvertent)」とは異義語であることにもご注意ください。

罰則の判断は薬剤師の役割ではありませんが特定物質と非特定物質の違いが万が一の場合に選手の処遇に大きく影響するということを、最新の禁止表国際基準でご確認いただき、スポーツ選手が安心して医薬品を使用できるようご協力いただければ幸いです。

公益財団法人日本体育協会アンチ・ドーピング部会

目次

1. 本書について	1
2. 2015年WADA禁止表掲載のドーピング禁止薬物の作用と禁止医薬品例	4
3. 2015年WADA禁止表の主要な変更の要約と注釈	18
4. 特に気をつけたい一般用医薬品・要指導医薬品と健康食品・サプリメント	23
5. 使用可能薬リスト/一般用医薬品・要指導医薬品: OTC DRUGS etc	
(1) 解熱鎮痛薬	26
(2) 解熱鎮痛薬【坐剤】	27
(3) 総合感冒薬	27
(4) 鎮咳・去痰薬	28
(5) 鎮咳・去痰薬【トローチ/ドロップ】	28
(6) 胃腸薬	29
(7) 消化薬	30
(8) 便秘治療薬	30
(9) 整腸薬・下痢止め	31
(10) アレルギー用薬(鼻炎内服薬を含む)	31
(11) 点鼻薬	32
(12) 吐き気・乗り物酔い予防薬	33
(13) 催眠・鎮静薬	33
(14) 鉄欠乏性貧血用薬	34
(15) 痔疾用薬	34
(16) 女性用薬(膣カンジダ関連薬)	34
(17) 目薬	35
(18) うがい薬・口腔内殺菌薬・口内炎用薬	36
(19) 皮膚外用薬	37
6. 使用可能薬リスト/医療用医薬品: ETHICAL DRUGS	
(1) 解熱・鎮痛・抗炎症薬	42
(2) 中枢性筋弛緩薬	44
(3) 酵素製剤(消炎・繊維素溶解)	44
(4) 鎮咳・去痰薬	44
(5) 気管支拡張・喘息治療薬	45
(6) アレルギー治療薬	46
(7) 抗めまい薬(乗り物酔い予防)	47
(8) 胃腸薬	47
(9) 総合消化酵素	49
(10) 便秘治療薬	49
(11) 止痢・整腸薬	49

(12) 頻尿・過活動膀胱治療薬	50
(13) 肝疾患治療薬	50
(14) 高脂血症用薬	51
(15) 血圧降下薬	51
(16) 抗狭心薬	52
(17) 催眠・鎮静・抗不安薬	53
(18) 抗精神病薬(悪心・嘔吐)	54
(19) 抗うつ薬	54
(20) 抗てんかん薬	54
(21) 自律神経系作用薬	55
(22) 鉄欠乏性貧血薬	55
(23) 痛風・高尿酸血症治療薬	55
(24) 糖尿病用薬	56
(25) 抗菌薬・抗生物質	57
(26) 化学療法剤	58
(27) 抗真菌薬	58
(28) 抗ウイルス薬	59
(29) ワクチン(保険適用外)	59
(30) 甲状腺疾患治療薬	59
(31) 経口避妊薬(保険適用外)	60
(32) 卵胞、黄体、混合ホルモン	60
(33) 痔疾用薬	61
(34) 耳鼻咽喉科用薬	61
(35) 眼科用薬	62
(36) 口腔用薬	63
(37) 皮膚外用薬	63
(38) 消毒薬	65
7. 歯科領域で汎用される医療用医薬品 2015 年版	66
8. 使用可能薬リスト 2015 年版 携帯用	71
9. よくある質問(日本アンチ・ドーピング機構作成)	74
10. 医薬品の使用可否検索の手順について	77
11. 薬剤師会ドーピング防止ホットライン	79
ドーピング禁止薬に関する問合せ用紙(薬剤師会ホットライン用)	
12. 和歌山県薬剤師会 ドーピング防止ホットライン	81
13. 索引(使用可能薬リスト掲載医薬品の一覧表(50 音順))	82

1. 本書について

1. 作成の経緯

2003年静岡県で開催された「NEW!!わかふじ国体」から国体におけるドーピング検査が初めて行なわれました。ドーピングとは競技能力を高めるために薬物などを使用することで、健全なスポーツの発展を妨げる「ずるく」「危険」な行為です。その一方で、故意に使用した訳ではなく、不注意のうっかりミスで検査にひっかかってしまう場合もあります。市販されている風邪薬や胃腸薬などには禁止物質を含むものが少なくなく、「風邪気味だから」、「胃が痛いから」などと安易に使用してドーピング違反と判断され、その結果、重い罰則が科せられてしまうことがあります。

このような『うっかりドーピング』を防ぐため、静岡県薬剤師会は、2003年に『薬局におけるアンチ・ドーピングガイドブック』を作成し、アンチ・ドーピング活動を行ないました。翌年、日本薬剤師会は「アンチ・ドーピングに関する特別委員会」を設置し、2004年「彩の国まごころ国体」、2005年「晴れの国おかやま国体」、2006年「のじぎく兵庫国体」、2007年「秋田わか杉国体」、2008年「チャレンジ！おおい国体」、2009年「トキめき新潟国体」、2010年「ゆめ半島千葉国体」、2011年「おいでませ！山口国体」、2012年「ぎふ清流国体」、2013年「スポーツ祭東京 2013」、2014年「長崎がんばらんば国体」、そして、今年「紀の国わかやま国体」をモデル事業と位置付け、「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック」を毎年作成し、今回、2015年版「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック」が出来上がりました。

2. 2015年禁止表について

国際レベルのあらゆるスポーツにおけるドーピング行為は1999年に設立された世界アンチ・ドーピング機構(WADA)が監視しています。2004年1月1日、これまでのオリンピックムーブメントドーピング防止規程(OMADC)に代わり、スポーツ界の統一規則として、WADAが世界アンチ・ドーピング規程(WADA code)を発効し、2009年1月1日、2015年1月1日に改訂し、禁止される薬物は、この国際基準の禁止表が利用されています。

禁止表は、毎年改訂され「紀の国わかやま国体」では2014年9月にすでに公開され、2015年1月1日に発効した禁止表が適用されます。

新しい禁止表は、大きな変更はありませんが、主なポイントを下記に示します。なお、2014年禁止表との違いはJADAのウェブサイトに掲載(本書18ページ)されています。

http://www.playtruejapan.org/downloads/prohabited_list/2015_ProhibitedList_JP_20150514.pdf

●2015年禁止表改訂に伴う留意すべき主なポイント

- 1.今回は大きな変更はなく、マイナーな改訂です。
- 2.「S2.ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質」において、キセノンやアルゴンのようなHIF活性化因子が特定されました。これらは2014年期中に禁止表に掲載されたこともあり、2015年も改訂される可能性があるため、JADAウェブサイトで確認してください。
- 3.「S2.ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質」において、血小板由来血漿製剤(Platelet Derived Plasma preparations)は禁止されないことが確認されています。

○治療使用特例(TUE)の提出について

禁止物質であっても治療目的であれば、所定の手続きによって使用が認められることがあります(「治療使用特例(TUE)」)。手続きの詳細は、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)のウェブサイト(<http://www.realchampion.jp/process/tue>)をご参照ください。

3. 本書の使い方

「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック」には、「使用可能薬リスト(一般用医薬品 19 薬効群)」、「使用可能薬リスト(医療用医薬品 38 薬効群)」だけでなく、「2015年WADA禁止表掲載のドーピング禁止物質の作用と禁止医薬品例」、「特に気をつけたい一般用医薬品・要指導医薬品と健康食品・サプリメント」、「よくある質問」、「国体ホットラインサービスについて」などを掲載し薬局店頭において常時使用できるようにしました。

医薬品が使用可能であるかを判断する場合には、まず、索引にて成分名や販売名を探します。

○索引の一覧表に掲載がある場合

まず、該当ページの一般用医薬品、または医療用医薬品の「はじめに」を読みます。次に、薬効群別に掲載してある四角に囲まれた(注意)を読み、〈使用可能薬例〉の表の中から成分名や販売名を確認します。

○索引の一覧表に掲載がない場合

「索引に掲載されていないから使用可能薬ではない」という訳ではありません。すべての使用可能薬を掲載しているのではないので、まず、禁止物質に該当しないかを禁止表にて確認し、該当しない、もしくはわからない場合は、最寄りの薬剤師会ホットラインにご確認ください。使用可能の可否に迷ったり、不明な点がある場合も、決して、安易な判断はしないでください。

なお、本書 4 ページから 25 ページまで(黄色い紙のページ)は、2015 年 WADA 禁止表と禁止医薬品の例、特に気をつけたい一般用医薬品(禁止薬物を含む製品)などが掲載されております。この部分には禁止医薬品が多く掲載されておりますので、間違えないように特にご注意下さい！！

4. 最後に

ドーピングは医薬品集等に掲載されている薬効ではなく、いわゆる薬の裏の作用を期待し、また、毎年禁止表は発効されるため、とてもわかりにくくなっています。しかし、「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック」は「使用可能薬を探す」ことを目的に、販売名と薬効別の販売上の注意を記載しており、薬剤師としての利用価値は高くなっています。薬局等における薬剤師の先生方は、このガイドブックを利用し、日頃の業務の一環として『うっかりドーピング』の防止に取り組むことができます。

2009 年から公認スポーツファーマシスト制度が始まり、現在、約 6,500 人が認定されています。その知識も学び、国体だけでなく、2020 年東京オリンピックに向けてアンチ・ドーピング活動を、これまでのような安全使用の確保とは視点を異にした活動を行い、また、運動生理に基づいた体の仕組み、運動の効果及び運動指導方法を習得し、運動支援ができる薬剤師としてスポーツ界はもとより、一般社会に対しても薬剤師の新職能として貢献していただければと期待します。

ドーピング防止対策委員会

「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック」作成

ワーキンググループ委員 大石順子

文献

- 1) The World Anti-Doping Agency : 2015 World Anti-Doping Code
- 2) The World Anti-Doping Agency : The 2015 Prohibited List
- 3) アンチ・ドーピング活動と薬剤師, 日本薬剤師会雑誌, 56, 959-961(2004)
- 4) 公認スポーツファーマシスト <http://www.playtruejapan.org/sportspharmacist/index.html>
- 5) 認定運動支援薬剤師ウエルネスファーマシスト <http://www.ime.or.jp/wph/index.html>

● **スポーツファーマシスト**

最新のアンチ・ドーピング規則に関する正確な情報・知識を持ち、競技者を含めたスポーツ愛好家などに対し、薬の正しい使い方の指導、薬に関する健康教育などの普及・啓発を行う JADA 公認の薬剤師。

スポーツファーマシスト検索

<http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php>


Sports Pharmacist スポーツファーマシスト
| プライバシーポリシー | よくある質問 | お問い合わせ |

お薬に関するお問い合わせは
全国のスポーツファーマシストがお答えします。

■ マップから絞り込み



<p>■ 住所から絞り込み</p> <p>都道府県: 都道府県を選択 ▼ 郵便番号: <input style="width: 100%;" type="text"/></p> <p>住所入力: <input style="width: 100%;" type="text"/></p> <p style="font-size: x-small;">入力例: 渋谷区 等</p>	<p>■ 勤務先名で絞り込み</p> <p><input style="width: 100%;" type="text"/></p> <p style="font-size: x-small;">入力例: ○○薬局 等</p> <p>業種:</p> <p><input type="checkbox"/> 病院・診療所勤務 <input type="checkbox"/> 薬局勤務</p> <p><input type="checkbox"/> ドラッグストア勤務 <input type="checkbox"/> 製薬企業勤務</p> <p><input type="checkbox"/> 大学勤務 <input type="checkbox"/> その他</p>	<p>■ その他絞り込み</p> <p><input type="checkbox"/> 土・日/祝日 対応可 <input type="checkbox"/> 夜間対応可(17時~)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校薬剤師 <input type="checkbox"/> 英語対応可</p> <p><input type="checkbox"/> 手話通訳可</p>
--	--	---

※認定スポーツファーマシストのうち、情報掲載にご賛同いただいた方のみ掲載しています。 ※本ページを営業や勧誘等の営利目的で利用することはご遠慮ください。 ※検索して得た情報の転用・転載を禁止します。 ※掲載内容に関する責任は掲載者にあり、いかなる場合もスポーツファーマシスト事務局では責任を負いかねますので、予めご了承ください。 ※本ページに関するお問い合わせは [こちら](#) から

2. 2015年WADA禁止表掲載のドーピング禁止薬物の作用と禁止医薬品例

WADA 禁止表では、大会中に実施する「競技会検査」および不定期に実施する「競技会外検査」の対象となる物質を2つに分類し、さらに「禁止物質」、「禁止方法」、「特定競技において禁止される物質」について、具体的かつ詳細に規定している。競技会検査ではすべての禁止物質、禁止方法が対象である。この他にも禁止物質ではないが、濫用の動向を把握する目的で調査対象とする薬物を「監視プログラム」として定めている。

2015年禁止表では、すべての禁止物質は、蛋白同化薬及びホルモンの各分類、並びに禁止表に明示された興奮薬、ホルモン調節薬および代謝調節薬の一部を除き、「特定物質」(下記参照)とされる。禁止方法は特定物質とはされない。

特定物質:いかなる意味においても、その他のドーピング物質と比べ重要性が低い、又は、危険性が低いと判断されるべきではない。むしろ、これらの物質は、単に、競技力向上以外の目的のために競技者により摂取される可能性が高いというに過ぎないものである。競技者又はその他の人が、「重大な過誤又は過失がないこと」を立証できるときには、資格停止期間は、競技者又はその他の人の過誤の程度により、最短で資格停止期間を伴わない譴責とし、最長で2年間の資格停止期間とする。

WADA禁止表(2015年)

常に禁止される物質と方法 (競技会(時)&競技会外)	競技会(時)に禁止される 物質と方法(競技会(時))
[禁止物質] S0. 無承認物質 S1. 蛋白同化薬 S2. ベータ2ホルモン、成長因子、関連物質および標的物質 S3. ベータ2作用薬 S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬 S5. 利尿薬および隠蔽薬	[禁止物質] S6. 興奮薬 S7. 麻薬 S8. カンナビノイド S9. 糖質コルチコイド
[禁止方法] M1. 血液および血液成分の操作 M2. 化学的および物理的操作 M3. 遺伝子ドーピング	特定競技において禁止される 物質(主に競技会(時)) P1. アルコール P2. ベータ遮断薬

I. 常に禁止される物質と方法(競技会(時)および競技会外)

[禁止物質]

S0. 無承認物質

禁止表のどのセクションにも対応せず、人体への治療目的使用が現在どの政府保健医療当局でも承認されていない薬物(例えば、前臨床段階、臨床開発中、あるいは臨床開発が中止になった薬物、デザイナードラッグ、動物への使用のみが承認されている物質)は常に禁止される。

したがって、動物用薬でもその成分が人体への使用が認められている物質のみの製剤の場合は「S0.無承認物質」には該当しないが、動物用薬は、ドーピングとは関係なく、人体への使用が禁止されている。

S1. 蛋白同化薬

1. 蛋白同化男性化ステロイド薬(AAS)

- 外因性のスタノゾールなど合成蛋白同化ステロイド薬のほか、天然の男性ホルモンである内因性のテストステロンやプラステロン(デヒドロエピアンドロステロン、DHEA)を例示。

- ・ いわゆる筋肉増強剤として、筋力の強化と筋肉量の増加によって運動能力を向上させ、同時に闘争心を高める目的で使用され、様々な投与方式で大量に使用されるため禁止。
- ・ 肝臓癌など致命的な有害作用が発生。脂質異常症、HDL コレステロールの低下、血圧上昇など心血管系障害の発症も示唆。
- ・ 女性では多毛、嚙声などの男性化や痤瘡が発現。
- ・ 男性では女性化乳房、無精子症、インポテンツが発現。

2. その他の蛋白同化薬

- ・ 臨床では気管支拡張薬として気管支喘息等の治療に投与するクレムブテロールが、筋肉増強薬として使用されることから禁止。
- ・ ゼラノールは、動物に肥育ホルモンとして利用され、体重増加など成長促進作用を有するので禁止。
- ・ 選択的アンドロゲン受容体調節薬(SARMs)は、筋萎縮症の治療とアンドロゲン代替治療のために開発中。作用機序からドーピング物質とされている。

○外因性 AAS の禁止医薬品例

成分名	販売名(メーカー):例示
1-アンドロステンジオール	—
1-アンドロステンジオン	—
ボランジオール	—
ポラステロン	—
ボルデノン	—
ボルジオン	—
カルステロン	—
クロステボール	—
ダナゾール	ボンゾール(田辺三菱):子宮内膜症・乳腺症治療薬
デヒドロクロロメチルテストステロン	—
デソキシメチルテストステロン	—
ドロスタノロン	—
エチルエストレノール	—
フルオキシメステロン	—
ホルメボロン	—
フラザボール	—
ゲストリノン	—
4-ヒドロキシテストステロン	—
メスタノロン	—
メステロロン	—
メタンジエノン	—
メテノロン	プリモボラン(バイエル)他:蛋白同化ホルモン
メタンドリオール	—
メタステロン	—
メチルジエノロン	—
メチル-1-テストステロン	—
メチルノルテストステロン	—
メチルテストステロン	エナルモン錠(あすか-武田)他、OTC:男性ホルモン製剤
メトリボロン(メチルトリエノロン)	—
ミボレロン	—
ナンドロロン	デカ・デュラミン(富士):蛋白同化ホルモン
19-ノルアンドロステンジオン	—
ノルボレトン	—

ノルクロステボール	—
ノルエタンドロロン	—
オキサボロン	—
オキサンドロロン	—
オキシメステロン	—
オキシメロン	—
プロスタノゾール	—
キンボロン	—
スタノゾロール	—
ステンボロン	—
1-テストステロン	—
テトラヒドロゲストリノン	—
トレンボロン	—

○外因的に投与した場合の内因性 AAS の禁止医薬品例

成分名	販売名(メーカー):例示
アンドロステンジオール	—
アンドロステンジオン	—
ジヒドロテストステロン	—
プラステロン(デヒドロエピアンドロステロン、DHEA)	レボスパ静注用(イセイ-ポーラ):子宮頸管熟化薬
テストステロンおよびその代謝物と異性体	エナルモン注(あすか-武田)他、OTC:男性ホルモン製剤

○その他の蛋白同化薬の禁止医薬品例

成分名	販売名(メーカー):例示
クレンプテロール	スピロペント(帝人)他:気管支拡張薬
選択的アンドロゲン受容体調節薬(SARMs、アンダリン、オスタリン等)	—
チボロン	日本未発売:骨粗鬆症薬
ゼラノール	—
ジルパテロール	—

S2. ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質

- ・ エリスロポエチン等は赤血球生成促進因子であるため酸素運搬能が上昇し、持久力が必要な運動種目では運動能力の強化につながるため禁止。
- ・ 成長ホルモンは脂肪組織におけるトリグリセリドの加水分解、肝臓でのグルコース排泄促進作用などを有するが、筋肉増強を期待する乱用はアレルギー症状や糖尿病を誘発し、大量投与で末端肥大症などの有害作用が発現するため禁止。
- ・ 絨毛性ゴナドトロピン(CG)及び黄体形成ホルモン(LH)は、男子不妊症や男性の下垂体性性腺機能不全の治療に投与され、男性ホルモンの産生量を増加させるため、男性においてのみ禁止。
- ・ コルチコトロピン類(ACTH)は副腎皮質を刺激し、血中の糖質コルチコイド、鉱質コルチコイドを上昇させ弱い男性ホルモンの分泌促進作用を有するため禁止。
- ・ 低酸素誘導因子(HIF)安定薬の FG-4592 は、腎性貧血治療薬として開発中。コバルトは、HIF 安定薬だが、シアノコバラミン(ビタミン B12)は禁止されない。

○ペプチドホルモン、成長因子および関連物質の禁止医薬品例

成分名	販売名(メーカー):例示
1.エリスロポエチン受容体作働薬: 1.1 赤血球新生刺激物質 ダルベポエチン(dEPO) エリスロポエチン(EPO)	ネスプ(協和発酵キリン) エスポー(協和発酵キリン)他

S3. ベータ2作用薬

- ・ 気管支拡張薬であるが、交感神経興奮作用、蛋白同化作用による筋組織量の増加を期待して使用されるため、すべてのベータ2作用薬が常時使用禁止。ただし、吸入サルブタモール(24時間で最大1600 μ g)、吸入ホルモテロール(24時間で最大投与量54 μ g)および吸入サルメテロールが、製造販売会社によって推奨される治療法に従って使用される場合は除かれる。
- ・ 尿中サルブタモールが1000ng/mL、あるいは尿中ホルモテロールが40ng/mLを超える場合は、治療を意図した使用とはみなされず、管理された薬物動態研究を通してその異常値が上記の最大治療量以下の吸入使用の結果であることを競技者が立証しないかぎり、違反が疑われる分析報告として扱われることになる。
- ・ サルブタモールとホルモテロールについては、利尿薬もしくは隠蔽薬と併用する場合、治療使用特例(TUE)が、利尿薬もしくは隠蔽薬に加え、競技会(時)および競技会外の状況に応じて必要となる。

S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬

- ・ アロマトーゼ阻害薬、選択的エストロゲン受容体調節薬等は、乳癌治療薬、骨粗鬆症治療薬、排卵誘発剤として使われるが、抗エストロゲン作用を有するため禁止。
- ・ バゼドキシフェン(ビビアント錠:骨粗鬆症治療薬)も選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)として禁止されるため注意。
- ・ ミオスタチン阻害薬は、筋肉の増強を抑制するミオスタチンを阻害することにより、筋力向上等が期待できるため禁止。
- ・ インスリンは筋肉におけるグルコースの利用とアミノ酸の貯蔵を促進し、蛋白の合成を刺激し分解を抑制するため禁止。その他の糖尿病用薬であるSU系、ビッグアナイド系、インスリン抵抗性改善薬、食後血糖改善薬、DPP-4阻害薬、GLP-1受容体作動薬は禁止されない。
- ・ トリメタジジンは、心臓代謝の調節薬として禁止される。

○抗エストロゲン作用を有する薬物の禁止医薬品例

成分名	販売名(メーカー):例示
1.アロマトーゼ阻害薬 アミノグルテチミド	—
アナストロゾール	アリミデックス(アストラゼネカ)他:乳癌治療薬
アンドロスタ-1,4,6-トリエン-3,17-ジオン(アンドロスタトリエンジオン)	—
4-アンドロステン-3,6,17-トリオン(6-オキシ)	—
エキセメスタン	アロマシン(ファイザー)他:乳癌治療薬
ホルメスタン	—
レトロゾール	フェマーラ(ノバルティス-中外):乳癌治療薬
テストラクトン	—
2.選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)	
ラロキシフェン	エビスタ(イーライリリー):骨粗鬆症治療薬
タモキシフェン	ノルバデックス(アストラゼネカ)他:乳癌治療薬
トレミフェン	フェアストン(日本化薬)他:乳癌治療薬
3.その他の抗エストロゲン作用を有する薬物	
クロミフェン	クロミッド(塩野義-富士)他:排卵誘発剤
シクロフェニル	セキノビット(あすか-武田):排卵誘発剤
フルベストラント	フェソロデックス(アストラゼネカ):乳癌治療薬
4.ミオスタチン機能を修飾する薬物	
ミオスタチン阻害薬	—

5.代謝調節薬: 5.1 AMP 活性化プロテインキナーゼ (AMPK) の 活性化薬 ベルオキシソーム増殖因子活性化受容体 デルタ (PPAR δ) 作働薬	AICAR 等 GW1516 等 (* 治験薬)
5.2 インスリン類	インスリン (各社)
5.3 トリメタジジン	バスタレル F (京都薬品-日本セルヴィエ、大日本 住友)

S5. 利尿薬および隠蔽薬

- 利尿薬、デスマプレシン、血漿増量物質 (グリセロール、およびアルブミン、デキストラン、ヒドロキシエチルデンプン、マンニトールの静脈内投与等)、プロベネシドおよび類似の生物学的効果を有するものは禁止される。
- 利尿薬が血圧降下薬や浮腫治療薬以外に乱用されるため禁止される理由に下記が考えられる。
 - ① 排出する尿量を増加させ尿中に排泄する禁止薬物や代謝物の尿中濃度を下げて禁止物質の検出を逃れること。
 - ② 柔道、ボクシング、重量挙げなどの体重別種目で競技成績を有利に導くため、体水分の排泄を促して体重を急速に減量すること。
- 2014 年から、バソプレシン V2 受容体拮抗薬 (バブタン類) が利尿薬の例として追加された。
- 利尿薬が含有されている高血圧症治療配合剤も多数発売されているため、注意が必要。
- 歯科麻酔におけるフェリプレシンの局所投与は禁止されない。
- ドロスピレノン (ヤーズ配合錠: エチニルエストラジオールとの配合剤。月経困難症治療薬) は禁止物質ではない。
- パマブロム (Pamabrom) (日本未発売) は弱い利尿作用を有するが禁止物質ではない。海外ではアセトアミノフェンとの配合剤が OTC 医薬品として販売されている。
- 局所使用のドルゾラミドおよび布林ゾラミドは禁止されない。
- α 還元酵素阻害薬は 2009 年より禁止物質から除外された。
- 常に、あるいは競技会 (時) それぞれの場合に応じて、利尿薬もしくは隠蔽薬とともに、閾値水準が設定されている物質 (ホルモテロール、サルブタモール、カチン、エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン) がいかなる用量でも競技者の検体から検出される場合は、競技者に対して、利尿薬もしくは隠蔽薬に加え、閾値水準が設定されている物質についても治療使用特例 (TUE) が承認されていない限り、違反が疑われる分析報告として扱われることになる。

○利尿薬・隠蔽薬の禁止医薬品例

成分名	販売名 (メーカー): 例示
デスマプレシン	デスマプレシン (協和発酵キリン)、 ミニリンメルト (フェリング-協和発酵キリン)
プロベネシド	ベネシッド (科研): 尿酸排泄促進薬
血漿増量物質	
グリセロール	グリセリン浣腸 (各社)、グリセオール注 (中外) 他
アルブミン (静脈内投与)	赤十字アルブミン (日赤) 他
デキストラン (静脈内投与)	低分子デキストラン L 注 (大塚製薬工場-大塚) 他
ヒドロキシエチルデンプン (静脈内投与)	サリンヘス輸液 (フレゼニウスカービジャパン) 他
マンニトール (静脈内投与)	マンニット T 注 (テルモ) 他
成分名	販売名 (メーカー): 例示
アセタゾラミド	ダイアモックス (三和化学)
アミロリド	—
ブメタニド	ルネトロン (第一三共)
カンレノン	—
クロルタリドン	—

エタクリン酸	—
フロセミド	ラシックス(サノフィ-日医工)他
インダパミド	ナトリックス(京都-日本セルヴィエ、大日本住友)他
メラゾン	—
スピロラクトン	アルダクトン A(ファイザー)他
チアジド類	フルイトラン(塩野義)他
トリアムテレン	トリテレン(京都-大日本住友)他
パプタン類	サムスカ(大塚)、フィズリン(大塚)

【禁止方法】

M1. 血液および血液成分の操作

下記の事項が禁止される。

1. 自己血、他者血(同種血)、異種血又はすべての赤血球製剤をいかなる量でも循環系へ投与するあるいは再び戻すこと。
2. 酸素摂取や酸素運搬、酸素供給を人為的に促進すること(過フルオロ化合物、エファプロキシラール(RSR13)、修飾ヘモグロビン製剤(ヘモグロビンを基にした血液代替物質、ヘモグロビンのマイクロカプセル製剤等)が含まれるが、これらに限定するものではない)。但し、酸素自体の補給は除く。
3. 血液あるいは血液成分を物理的あるいは化学的手段を用いて血管内操作すること。

例えば、人体から採取した血液にオゾンを溶解させ、その血液を再び戻す「オゾン療法(血液クレンジング)」は禁止される。

M2. 化学的および物理的操作

下記の事項が禁止される。

1. ドーピング・コントロールで採取された検体の完全性及び有効性を変化させるために改ざん又は改ざんしようとすることは禁止される。これらには尿のすり替え、尿の改質(蛋白分解酵素等)などが含まれるが、これらに限定するものではない。
2. 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程(救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む)、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

○ 静脈内注入および/または静脈注射の考え方

1. 禁止物質を含む点滴が治療のために必要な場合は、TUEが必要。
2. 禁止物質を含まず、6時間あたり50mL以内の静脈注射は禁止ではなく、TUE不要。
3. 禁止物質を含まなくても、静脈内注入および/または6時間あたり50mLを超える量の静脈注射は禁止。しかし、医療機関の受診過程(救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む)、外科手術、または臨床的検査において正当に行われるものは禁止ではない。

したがって、3.の場合においてTUE申請は、

1. 医療機関の受診過程(救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む)、外科手術、または臨床的検査において正当に行われるものは禁止ではなく、TUE不要。
2. 医療機関を受診せずに点滴する場合は、TUE申請が必要。
3. 点滴の場所が医療機関であっても、第3者からみて正当性に疑問が生じる場合は、TUE申請が必要。

M3. 遺伝子ドーピング

下記の競技能力を高める可能性のある事項は禁止される。

1. 核酸のポリマーまたは核酸類似物質の移入;
2. 正常なあるいは遺伝子を修飾した細胞の使用

II. 競技会(時)に禁止される物質と方法

S6. 興奮薬

- すべての興奮薬(関連するすべての光学異性体(例えば、*d*体および/*l*体)を含む)は、局所/眼科用に使用されるイミダゾール誘導体と2015年監視プログラムに含まれる興奮薬を除いて、禁止される。
- 中枢神経系を刺激して敏捷性を高め、疲労感を低減して競争心を高める効果を有するが、疲労の限界に対する正常な判断力を失わせ、ときには競技相手に危害を与えかねないため禁止。
- アンフェタミンは有害な中枢神経興奮作用をもち、オリンピック大会の自転車競技で本剤に起因する死亡事故が発生しているため禁止。
- エフェドリンは中枢神経興奮作用をもち、大量投与で精神を高揚させ、血流を増加させるため禁止。
- 2010年より、プソイドエフェドリンが禁止物質に追加された(特定物質)。
- 多くの一般用医薬品等の感冒・鼻炎用薬には、エフェドリンやメチルエフェドリン、プソイドエフェドリンなどが配合されている。
- ダイエットサプリメントとして乱用されるエフェドラ、シブトラミンで死亡例が増加している。
- 2011年より、メチルヘキサミンは特定物質として禁止されることになった。メチルヘキサミンはサプリメントとしてよく販売されており、“ゼラニウム油”、“ゼラニウム根エキス”等と呼ばれることがあるため注意。

○興奮薬の禁止医薬品例

<a. 非特定物質>

成分名	販売名(メーカー):例示
アドラフィニル	—
アンフェプラモン	—
アンフェタミン	—
アンフェタミニル	—
アミフェナゾール	—
ベンフルオレックス	—
ベンジルピペラジン	—
ブロマンタン	—
クロベンゾレックス	—
コカイン	コカイン塩酸塩(塩野義、武田):麻薬
クロプロパミド	—
クロテタミド	—
フェンカミン	—
フェネチリン	—
フェンフルラミン	—
フェンプロボレックス	—
フォンツラセタム[4-フェニルピラセタム(カルフェドン)]	—
フルフェノレックス	—
メフェノレックス	—
メフェンテルミン	—
メソカルブ	—
メタンフェタミン(<i>d</i> 体)	ヒロポン(大日本住友):覚せい剤
p-メチルアンフェタミン	—
モダフィニル	モディオダール(アルフレッサ-田辺三菱)
ノルフェンフルラミン	—
フェンジメトラジン	—

フェンテルミン	—
プレニラミン	—
プロリンタン	—

〈b. 特定物質〉

成分名	販売名(メーカー):例示
ベンズフェタミン	—
カチン *尿中濃度 5 μ g/mL を超える場合は禁止	—
カチノンおよび類似物(メフェドロン、メテドロン、 α -ピロリジノバレロフェノン等)	—
ジメチルアンフェタミン	—
エフェドリン *尿中濃度 10 μ g/mL を超える場合は禁止	エフェドリン塩酸塩(各社)他:気管支拡張薬
エピネフリン(アドレナリン) *局所使用(鼻、眼等)あるいは局所麻酔薬との同時投与は禁止されない。	ボスミン(第一三共)他:強心薬、 エピペン(ファイザー):アナフィラキシー補助治療薬
エタミバン	—
エチルアンフェタミン	—
エチレフリン	エホチール(日本ベーリンガー)他:昇圧薬
ファンプロファゾン	—
フェンブトラゼート	—
フェンカンファミン	—
ヘプタミノール	—
ヒドロキシアμφエタミン(パラヒドロキシアμφエタミン)	—
イソメテプテン	—
レブメタンフェタミン	—
メクロフェノキサート	ルシドリール(共和)他:脳循環代謝改善薬
メチレンジオキシメタンフェタミン	—
メチルエフェドリン *尿中濃度 10 μ g/mL を超える場合は禁止	メチエフ(田辺三菱)他:気管支拡張薬
メチルヘキサミン(ジメチルペンチルアミン)	—
メチルフェニデート	リタリン(ノバルティス)他:精神刺激薬
ニケタミド	—
ノルフェネフリン	—
オクトパミン	—
オキシロフリン(メチルシネフリン)	—
ペモリン	ベタナミン(三和化学):精神刺激薬
ペンテトラゾール	—
フェネチルアミンおよびその誘導体	—
フェンメトラジン	—
フェンプロメタミン	—
プロピルヘキセドリン	—
プソイドエフェドリン *尿中濃度 150 μ g/mL を超える場合は禁止	ディレグラ(サノフィ)、OTC:鼻炎用薬等
セレギリン	エフピー(エフピー)他:パーキンソン病治療薬
シブトラミン	—
ストリキニーネ	ホミカエキス(各社)、OTC:胃腸薬等
テナンフェタミン(メチレンジオキシアンフェタミン)	—
ツアミノヘプタン	—

S7. 麻薬

- ・ 麻薬は鎮痛、鎮静による精神・心理機能の向上とリラクゼーション、また、陶酔感、多幸福感を期待して使用されるため禁止。
- ・ 日本では、麻薬及び向精神薬取締法にて規制されている物質がある。
- ・ 副作用として、呼吸抑制、呼吸麻痺、依存性、血圧降下、ショック、めまい、眠気、嘔吐、虚脱、便秘、筋萎縮、視調節障害が見られる。
- ・ モルヒネ／コデイン比は監視プログラムにて競技会(時)のみ監視される。
- ・ このセクションには国内法の麻薬以外の物質が含まれる。

○禁止表に掲載され明確に禁止されている物質

成分名	販売名(メーカー):例示	分類
ブプレノルフィン	レペタン(大塚)、ザルバン(日新)、ノルspan(ムンディ-久光)	非麻薬性鎮痛薬
デキストロモラミド	—	
ジアモルヒネ(ヘロイン)	—	
フェンタニル及び誘導體	アブストラル(協和発酵キリン-久光)、アルチバ(ヤンセン)、イーフェンバツカル(帝國-大鵬)、デュロテップMT(ヤンセン)、タラモナル(第一三共プロファーマ)、フェンタニル(各社)、フェントス(久光-協和発酵キリン)、ワンデュロパッチ(ヤンセン)	麻薬
ヒドロモルフォン	—	
メサドン	メサペイン(帝國-テルモ)	麻薬
モルヒネ	塩酸モルヒネ(各社)、オプソ(大日本住友)、アンペック(大日本住友)、プレペノン(テルモ)、MS コンチン(塩野義)、カディアン(大日本住友)、ピーガード(田辺三菱)、モルペス(藤本)、MS ツワイシロン(帝國-日本化薬)、モヒアト(武田)、パシーフ(武田)他	麻薬
オキシコドン	オキシコンチン(塩野義)、オキノーム(塩野義)、オキファスト(塩野義)、パビナール(武田)、パビナール・アトロピン(武田)他	麻薬
オキシモルフォン	—	
ペンタゾシン	ソセゴン(丸石)、トスパリアル(小林化工)、ペルタゾン(あすか-日本化薬)、ペンタジン(第一三共)	非麻薬性鎮痛薬
ペチジン	オピスタン(田辺三菱)他	麻薬

S8. カンナビノイド

- ・ 世界各国において、さまざまな呼称で street drug として使われている。
- ・ 国内で問題となっている危険ドラッグには合成大麻と称するものがある。
- ・ 思考、知覚、気分を異常に変化させ、多幸福感、高揚感を期待して使用されるため禁止。
- ・ 憂うつ感、被暗示性の増強、錯乱、幻覚を伴うことがある。選手が競技に対する不安や焦りから逃避する目的で嗜癖に陥る危険性がある。
- ・ 天然・合成を問わず、9-テトラヒドロカンナビノール(THC)や THC 類似のカンナビノイド類(例:ハシシュ、マリファナ、“スパイス”、JWH018、JWH073、HU-210 等)は禁止される。
- ・ 大麻草 Cannabis sativa の葉を乾燥したものがマリファナ、樹脂がハシシュである。主な成分はテトラヒドロカンナビノール(THC)、カンナビロール等。
- ・ 大麻取締法にて規制。

S9. 糖質コルチコイド

- ・ エネルギー代謝を活性化させ、競技力向上を狙って使用される。あるいは、陶酔感を期待して使用されるため禁止。
- ・ 炎症を抑える作用があるので、ケガをしても競技を継続できてしまうことがあるので注意。
- ・ 感染の増悪、続発性副腎機能不全、消化性潰瘍が発現。
- ・ 使い方(申請の種類)
 - 経口使用、静脈内使用、筋肉内使用または経直腸使用はすべて禁止。治療目的の使用の場合、TUE 申請が必要。
 - 上記(経口使用、静脈内使用、筋肉内使用または経直腸使用)以外の使用経路は禁止されない。

糖質コルチコイドが競技会検査で検出されると、使用経路について検査主催機関から照会があるので、上記の禁止された使用経路以外で使用した場合は、医療記録を提示できるよう備えておく必要がある。

コラム:アンチ・ドーピングをより徹底するために

2020 年に向けてアンチ・ドーピングをより徹底するためには、問い合わせを受けた薬の使用可否を判断してアドバイスするだけでなく、最近の動向を把握し、問題となる処方や市販製品について注意を配り、あらかじめ取り得る対策をアドバイスできる積極的な対応が望まれるところです。

WADA の最新の統計によれば、違反を示す結果(AAF)として報告される頻度の高い禁止物質のクラスは、蛋白同化男性化ステロイド薬、興奮薬、利尿薬と隠蔽薬、糖質コルチコイドおよびカンナビノイドで、それらの物質で世界の全違反のおよそ 95%を占めています。また国内での頻度は低いものの、持久系競技では、ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質、スポーツ選手にしばしば処方される頻度が比較的高いベータ2 作用薬の事例が報告されており、日頃それらの物質に注意することで大部分の意図的でないドーピングが防止できると期待されます。

個別のドーピング物質について着目すると、蛋白同化男性化ステロイド薬の AAF ではテストステロンとスタノゾールがおよそ 70%、以下デヒドロクロロメチルテストステロン、19-ノルアンドロステロン(ナンドロロン代謝物)、メタンジエノン、ボルデノン、ドロスタノロンで AAF の 90%を占めています。デヒドロクロロメチルテストステロンは旧東独で開発され既に数十年前に発売が中止された無承認医薬品、ボルデノンはヒトでの使用が禁止される動物用医薬品であるにも関わらず、スポーツ界に根強く流通しているため、ヒトの処方薬に気を配るだけではアンチ・ドーピング対策は十分ではありません。

そのほか、ホルモンと関連物質では絨毛性ゴナドトロピン(CG)と EPO 関連物質、ベータ2 作用薬ではテルブタリン、フェノテロールというように、各グループの上位数種類について注意徹底することで大部分のドーピングを未然に防ぐことができると期待されます。

一方、ここ数年、既存の物質の化学構造を改変した、いわゆるデザイナードラッグと呼ばれる一連の無承認物質が次々と登場しており、スポーツでの死亡例や、一般社会では濫用者による交通事故などが度々社会問題として報告されるようになってきました。それら原因物質の多くは合成カンナビノイドや無承認の興奮薬で、WADA の禁止表に照らして明確に禁止されています。

日本でもドーピング物質を含む製品が正規、非正規に流通しているので注意してください。

Ⅲ. 特定競技において禁止される物質

P1. アルコール

- ・ アルコール(エタノール)は、下記の競技種目において競技会(時)に限って禁止。
- ・ ドーピング違反が成立する閾値は血中アルコール濃度 0.10g/L と同等の濃度である(通常 1～1.5mg/mL で大脳皮質の抑制がとれて多弁、陽気になる。1.5mg/mL 以上で運動失調を来たす。4.5mg/mL 以上で呼吸抑制のため死に至る)。
- ・ 検出方法は、呼気分析および/または血液分析。

航空スポーツ(国際航空連盟:FAI)

アーチェリー(国際アーチェリー連盟:WA)

自動車(国際自動車連盟:FIA)

モーターサイクル(国際モーターサイクル連盟:FIM)

パワーボート(国際パワーボート連盟:UIM)

P2. ベータ遮断薬

- ・ ベータ遮断薬は、下記の競技種目において競技会(時)に限って禁止。指示がある場合は競技会外においても禁止される。
- ・ 静穏作用のため選手の不安解消や「あがり」の防止、また、心拍数と血圧の低下作用で心身の動揺を少なくするため禁止。

アーチェリー(国際アーチェリー連盟:WA)(競技会外においても禁止)

自動車(国際自動車連盟:FIA)

ビリヤード(全ての種目)(世界ビリヤード・スポーツ連合:WCBS)

ダーツ(世界ダーツ連盟:WDF)

ゴルフ(国際ゴルフ連盟:IGF)

射撃(国際射撃連盟:ISSF、国際パラリンピック委員会:IPC)(競技会外においても禁止)

スキー/スノーボード(国際スキー連盟:FIS)ージャンプ、フリースタイル(エアリアル/ハーフパイプ)、スノーボード(ハーフパイプ/ビッグエアー)

水中スポーツ(世界水中連盟:CMAS)コンスタント-ウェイト アプネア(フィンありフィンなし)、ダイナミックアプネア(フィンありフィンなし)、フリーイマージョン アプネア、ジャンプ ブルー アプネア、スピアフィッシング、スタティック アプネア、的射およびバリアブル ウェイト アプネア

○禁止表に掲載されているベータ遮断薬

成分名	販売名(メーカー):例示
アセブトロール	アセタノール(サノフィ)
アルプレノロール	スカジロール(寿)
アテノロール	テノーミン(アストラゼネカ)他
ベタキシロール	ケルロング(サノフィ)、ベトプティック点眼液(日本アルコン)他
ビソプロロール	メインテート(田辺三菱)、ビソノテープ(トーアイエイヨー-アステラス)他
ブノロール	—
カルテオロール	ミケラン(大塚)他
カルベジロール	アーチスト(第一三共)他
セリプロロール	セレクトール(日本新薬)他
エスモロール	ブレビブロック(丸石)
ラベタロール	トランデート(GSK)他
レボブノロール	ミロル点眼液(杏林-科研)他
メチプラノロール	—
メトプロロール	セロケン(アストラゼネカ)他
ナドロール	ナディック(大日本住友)
オクスプレノロール	—
ピンドロール	カルビスケン(アルフレッサ)他
プロプラノロール	インデラル(アストラゼネカ)他
ソタロール	ソタコール(ブリistol):抗不整脈
チモロール	チモプトール点眼液(MSD-参天)他

2015 年監視プログラム

WADA は、署名当事者及び各国政府との協議に基づき、禁止表に掲載されていないが、スポーツにおける濫用のパターンを把握するために監視することを望む物質について監視プログラムを策定しなければならない。

1. 興奮薬: 競技会(時)のみ ブプロピオン、カフェイン、ニコチン、フェニレフリン、フェニルプロパノールアミン、ピプラドロール、シネフリン
2. 麻薬: 競技会(時)のみ ヒドロコドン、ミトラギニン、モルヒネ/コデイン比、タペンタドール、トラマドール
3. 糖質コルチコイド:
競技会(時) (経口使用、静脈内使用、筋肉内使用または経直腸使用以外の投与経路)
競技会外 (すべての投与経路)
4. テルミサルタン: 競技会(時)および競技会外
5. メルドニウム: 競技会(時)および競技会外

文献

- 1) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構: 世界アンチ・ドーピング規程 2015 年禁止表国際基準, 2015

3. 2015 年 WADA 禁止表 主要な変更の要約と注釈

常に禁止される物質と方法(競技会(時)および競技会外)

禁止物質

S1. 蛋白同化薬

- 現在の科学的命名法を反映して変更した。
- 5β -アンドロスタン- $3\alpha,17\beta$ -ジオールをテストステロンの代謝物の例として追加した。

変更のポイント

- 現在の科学的命名法によって、いくつかの物質の科学名が変更されました。
例: 19-ノル-17 α -プレグナ-4-エン-17-オール → 19-ノルプレグナ-4-エン-17 α -オール
- テストステロンの代謝物の一例として、 5β -アンドロスタン- $3\alpha,17\beta$ -ジオールが追加されました。

S2. ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質

- このセクションのタイトルを変更した: 合成アナログもこのセクションで禁止されることを反映してタイトルに模倣物質を追加した。
- 以前の禁止表のそれぞれのセクションですでに禁止されていた全ての物質は、2015 年禁止表でも修正後の適切なセクションの中で禁止物質の例として提示されているので留意されたい。
- 非赤血球新生 EPO 受容体作働薬を追加して、ESA のサブセクションを拡大した。
- 加えて HIF 安定化薬のサブセクションを別のパラグラフに置いて、これらの薬物の増加する重要性を強調し、キセノンやアルゴンのような HIF 活性化因子を特定した。シアノコバラミン(ビタミン B12)は禁止されないことを留意されたい。
- 絨毛性ゴナドトロピン(CG)および黄体形成ホルモン(LH)の放出因子の例を今回特定した。
- コルチコトロピン放出因子の例を今回追加した。
- GH 放出因子をより正確なカテゴリーに分け、それらの異なった薬理的性質を示すためにそれぞれのカテゴリーの例を追加した。
- IGF-1 はその他の成長因子の区分へ移動した。
- 血小板由来血漿製剤は禁止されないことに留意されたい。

変更のポイント

- 2014 年禁止表では、本項は「ペプチドホルモン、成長因子および関連物質」のセクション名でしたが、2015 年禁止表では、合成アナログも禁止されることを反映するため、「ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質」のセクション名に変更されました。
- 2014 年禁止表の本項で禁止されていたすべての物質は、2015 年禁止表でも禁止されます。
- ARA-290、アジアロ EPO、カルバミル化 EPO 等の非赤血球新生 EPO 受容体作働薬が追加され、赤血球新生刺激物質(ESAs)のサブセクションが拡大されました。
- 2015 年禁止表では、ESAs と低酸素誘導因子(HIF)安定薬が別項とされて、コバルト、FG-4592 等の具体例が追記され、かつアルゴン、キセノン等の HIF 活性化因子が特定され記載されています。また、HIF 安定薬の例のひとつとして、コバルトが追記されていますが、シアノコバラミン(ビタミン B12)は禁止されません。
- 絨毛性ゴナドトロピン(CG)および黄体形成ホルモン(LH)の放出因子の例として、ブセレリン、ゴナドレリン、トリプトレリン等が追記されました。
- コルチコトロピン放出因子の例として、コルチコレリン等が追記されました。
- 成長ホルモン放出因子をより詳細なカテゴリーに分けて、それぞれの具体例が追記されました。なお、インスリン様成長因子(IGF-1)は、その他の成長因子のカテゴリーに移動されました。

- 2010 年禁止表の本項において、「血小板由来製剤(血小板濃厚血漿、“血液スピニング”等)の筋肉内投与」が禁止されていましたが、2011 年禁止表において削除されて以降、2015 年禁止表においても禁止されません。

S4.ホルモン調節薬および代謝調節薬

- トリメタジジンは例示されているいくつかの興奮薬にその化学構造が類似していることに基づいて、従来 S6.b に分類されていた。心臓代謝の調節薬として薬理的に分類されるため、新たに S4.5 にサブセクションを設けて、ここへ移動した。
- AMPK 活性化薬は現在の命名法を反映して記載し直した。

変更のポイント

- トリメタジジンは、2014 年 WADA 禁止表では「S6.興奮薬」の「b.特定物質」として禁止されていましたが、薬理的に心臓代謝の調節薬に分類されるため、本項の代謝調節薬のカテゴリーに移動されました。
- 現在の命名法を反映して、AMPK 活性化薬の名称が変更されました。

S5.利尿薬および隠蔽薬

- 利尿薬が隠蔽薬としてだけでなく、特に急激な体重減少のような他の目的にも乱用されうることを反映し、“その他の”を削除してタイトルとこれに続くパラグラフを変更した。
- 最後のパラグラフを書き換えて明確化した。以前の禁止表の原理と過程は変更していない。

変更のポイント

- 利尿薬が体重減少等の目的でも乱用されるうることを鑑み、本項のタイトルとそれに続くパラグラフが変更されました。
- 利尿薬もしくは隠蔽薬と閾値水準が設定されている物質を併用する場合の取り扱いについて、2015 年禁止表ではより明確に記載されましたが、その原理と過程は以前と同様です。

禁止方法

M2.化学的および物理的操作

- 医学的に必要があれば、静脈内注入および／または 6 時間あたりで 50mL を超える静脈注射が許可される状況を説明するために、文に“外科手術”を追加した。

変更のポイント

- 静脈内注入に関する文言は、2014 年禁止表の「静脈内注入および／または 6 時間あたりで 50mL を超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、また臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。」から、2015 年禁止表では以下の文言に変更され、医学的に必要があれば許可される状況を説明するために、より明確に変更されました。
“静脈内注入および／または 6 時間あたりで 50mL を超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。”

競技会(時)に禁止される物質と方法

S6.興奮薬

- 明確にするために、局所／眼科用に使用されるイミダゾール誘導体を、非禁止物質の興奮薬として例示した。
- 当初 S6.a にあったフェンメトラジンは、フェンブトラゼート(S6.b)からフェンメトラジンへ代謝されるので、S6.b へ移動した。
- フェネチルアミン由来の不法なデザイナー興奮薬の数が増加していることに対処するために、フェネチルアミン誘導体全体が禁止されていることを明確に記載した。
- トリメタジジンは新たに設けたセクション S4.5.3 へ移動した。

変更のポイント

- イミダゾール誘導体の局所使用は、2014 年禁止表においても禁止されない旨記載されていましたが、2015 年禁止表では、「局所／眼科用に使用されるイミダゾール誘導体」は禁止されない旨の記載となり、より明確に例示されました。
- フェンメトラジンは、フェンブトラゼート(S6.b)の代謝物であることから、S6.a から S6.b に移動されました。
- フェネチルアミンはその誘導体も含めて全て禁止されます。
- トリメタジジンは、2014 年 WADA 禁止表では S6.b.に該当する禁止物質とされていましたが、薬理的に心臓代謝の調節薬に分類されるため、「S4.ホルモン調節薬および代謝調節薬」の代謝調節薬のカテゴリーに移動されました。

S9.糖質コルチコイド

- グルココルチコステロイドは現在の命名法と使用を反映して、グルココルチコイドと記載した。

変更のポイント

- 本項は、日本語訳に変更はありません。

特定競技で禁止される物質

P1.アルコール

- 世界空手道連盟(WKF)の要望に従い、空手はアルコールが禁止される競技のリストから削除した。

変更のポイント

- 空手において、アルコールは禁止されません。

P2.ベータ遮断薬

- 世界水中連盟(CMAS)を、その要望どおり、特定種目においてベータ遮断薬の使用を禁止する国際連盟のグループに追加した。

変更のポイント

- 特定の水中スポーツにおいて、ベータ遮断薬が禁止されることになりました。

2015年監視プログラム 主要な変更の要約と注釈

監視プログラム

- 明確な結論へ導く十分なデータの集積に伴い、プソイドエフェドリン(150 μ g/mL 未満)の監視は、2015年は中止する。
- テルミサルタンは、明らかなPPAR δ 部分作動薬(S4.5.1で禁止)の性質を持つ非定型アンジオテンシンII受容体拮抗薬であるため、乱用を評価するために監視プログラムに追加した。
- メルドニウムは潜在的な心臓作用を持つ薬物であるため、乱用を評価するために監視プログラムに追加した。

変更のポイント

- プソイドエフェドリン(150 μ g/mL 未満)は、監視プログラムから削除されました。尿中濃度150 μ g/mLを超える場合は、「S6.興奮薬」の「b.特定物質」として禁止されます。
- テルミサルタン、メルドニウムが監視プログラムに追加されました。

詳しくは、WADA ホームページ(<http://www.wada-ama.org/>)をご参照下さい。

出典

- 1) <https://wada-main-prod.s3.amazonaws.com/resources/files/wada-2015-prohibited-list-summary-of-modifications-en.pdf>
- 2) http://www.playtruejapan.org/downloads/prohabited_list/2015_ProhibitedList_JP_20141212.pdf

(注意事項)WADA Code は英文版が原本となります。本規程の英文と和文に差異がある場合には、英文が優先されます。

4. 特に気をつけたい一般用医薬品・要指導医薬品と健康食品・サプリメント

1) 胃腸薬に注意

胃腸薬にはストリキニーネ(禁止物質)を含有する生薬ホミカが成分として含まれているものがあります。ストリキニーネ(ホミカ)は興奮薬として禁止され、検出されれば直ちに違反です。胃腸薬を使う場合はホミカ(ストリキニーネ)が含まれていないことを確認しましょう。

(例) 使ってはいけない胃腸薬

パンジラス顆粒(テイカ製薬-白石薬品)	ワクナガ胃腸薬 G(湧永製薬)
救胆(島伊兵衛薬品)	金魚胃腸薬(大和合同製薬)
済仁(森本製薬)	赤玉はら薬(大和合同製薬) など

2) 滋養強壮薬に注意

滋養強壮薬には、禁止物質である蛋白同化薬(テストステロン)及びホルモンの関連物質を含む漢方薬、また、禁止物質であるストリキニーネ(ホミカ)が含まれているものがあります。そして、医薬品以外のいわゆる健康食品として、滋養強壮目的の錠剤やドリンク剤が多数市販されており、これらの中にテストステロン等の関連物質が含まれている可能性も否定できません。**国体期間中に限らず、普段から使用しないようにしましょう。**

* 蛋白同化薬及び関連物質には、テストステロン、メチルテストステロンの他に、生薬成分である、海狗腎(カイクジン)、麝香(ジャコウ)、鹿茸(ロクジョウ)などがあります。

(例) 使ってはいけない滋養強壮薬:蛋白同化薬(テストステロン)及びホルモンの関連物質を含む

活カ・M(東南製薬)	オットピン-S(ヴィタリス製薬-あかひげ薬局)
外用ホルモン塗布剤オットピン(ヴィタリス製薬-大和製薬・愛)	強カパロネス(日新製薬・滋)
金蛇精(糖衣錠)(摩耶堂製薬-大和製薬・愛)	マヤ金蛇精(カプセル)(摩耶堂製薬)
グローミン(大東製薬工業-大木製薬)	トノス(大東製薬工業-大東薬品工業)
プリズマホルモン精(原沢製薬工業-宝仙堂)	プリズマホルモン錠(原沢製薬工業-宝仙堂)
プリズマホルモン軟膏(原沢製薬工業)	ヘヤーグロン(大東製薬工業-ワン・ツー)
ダンテルモンMパスター(原沢製薬工業) など	

(例) 使ってはいけない滋養強壮薬:ストリキニーネ(ホミカ)を含む

ハンピロン(日本薬品-あかひげ薬局)	マヤ金蛇精(カプセル)(摩耶堂製薬) など
--------------------	-----------------------

3) 毛髪・体毛用薬に注意

毛髪・体毛用塗り薬では、男性ホルモンが配合されているものがあり、禁止されています。

国体期間中に限らず、普段から使用しないようにしましょう。

(例) 使ってはいけない体毛用薬:蛋白同化薬(テストステロン)及び関連物質を含む

ペレウス(協和新薬-森下仁丹)	マイクロゲン・パスタ(啓芳堂製薬) など
-----------------	----------------------

参考: 一般用医薬品ではありませんが、円形脱毛症の場合には、糖質コルチコイドの内服が用いられることがあり、TUE 申請が必要になります。

4) 鎮咳去痰薬に注意

ベータ 2 作用薬は常時禁止です。市販の鎮咳去痰薬に含まれるトリメトキノール、メキシフェナミンにはベータ 2 作用があり禁止物質とみなされます。**国体期間中に限らず、普段から使用しないようにしましょう。**

(例) 使ってはいけない鎮咳去痰薬:ベータ 2 作用薬を含む

アスクロン(大正製薬)	エスエスブロン液 Z(エスエス製薬)
強力アスメトン(第一三共ヘルスケア)	新カネドリン錠(廣昌堂-ノーエチ薬品)
新セキコデチンカプセル(至誠堂製薬)	新トニン咳止め液(佐藤製薬)
セキエース(ダイト-北海道厚生農業共同組合連合会)	セキオール(第一薬品工業)
セキカット(ダイト)	フストールシロップ A(オール薬品工業) など

5) 漢方薬に注意

漢方薬を構成する生薬には、それぞれたくさんの成分が含まれており、1つ1つの成分が禁止物質にあたるかどうか特定するのは困難です。漢方薬にも明らかに禁止物質を含むものがあり、例として、麻黄にはエフェドリン(特定物質)やメチルエフェドリン(特定物質)、プソイドエフェドリン(特定物質)、ホミカにはストリキニーネ(特定物質)、そして前述の滋養強壮薬には蛋白同化作用を示す成分が含まれています。また、半夏にも微量ですがエフェドリン類が含まれるので、注意が必要です。さらに名前が同じでも製造会社、原料の産地、収穫の時期などで成分が違うことがあります。また、カタカナ表記で西洋薬と間違えてしまうような漢方薬もあります。

○漢方薬の TUE 申請について:一般的に漢方薬を使用しなくても疾患の治療が可能な場合、TUE 国際基準の付与基準に該当せず、承認されません。また、漢方薬が含有する禁止物質が特定できない場合 TUE 申請ができません。TUE は物質を申請して、その物質に対して治療使用特例が認められます。漢方薬の方剤名は物質名ではありませんので、方剤名で TUE 申請はできません。

6) 風邪薬に注意

多くの総合感冒薬(いわゆる風邪薬)には禁止物質のエフェドリンやメチルエフェドリン等が含まれているため、注意が必要です。

7) その他の注意する医薬品

○鼻炎用薬:市販の鼻炎用薬には興奮薬として禁止されるプソイドエフェドリンが配合されていることが多く、注意が必要です。

○鼻づまりの点鼻薬、点眼薬:ナファゾリン等の血管収縮剤は、点鼻・点眼を含む局所使用が許されていますが、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性があります。また、点鼻薬は連用により鼻づまりを悪化させる恐れがあります。

○アレルギーの内服薬:市販のアレルギー用薬には禁止物質が配合されていることが多く、注意が必要です。

8) 健康食品・サプリメントに注意

国内外で多数の健康食品・サプリメントが入手できますが、世界アンチ・ドーピング機構はスポーツでのサプリメントの使用を推奨していません。

国立スポーツ科学センターはスポーツで使用できるダイエタリーサプリメントとして、炭水化物やたんぱく、ビタミン、ミネラルなどの栄養主成分とするもので、日常の食事から十分な量を摂取できない場合にそれらを補うもの、およびエルゴジェニックエイドとって運動量増加を助ける栄養素、水分、電解質などの成分を挙げています。

海外では、ラベルに表示しないまま不正に興奮薬やステロイドなどの医薬品成分を添加したサプリメント製品が多数流通し、そのような製品による陽性も毎年報告されているため、製造基準や製品管理の品質が不明な製品の使用は避けることが賢明です。

また、サプリメントの定義は国によって異なり、海外でサプリメントとして販売されているからといって日本国内の製品と同じとは限らないことにも留意しておく必要があります。

○海外の製品

* 6-オキソ(4-アンドロステン-3,6,17-トリオン)や、ゼラニウム油あるいはゼラニウム根エキスとして表示されているメチルヘキサミンを含む栄養サプリメントが販売されています。

* 2004年3月、米国食品医薬品局(FDA)はアンドロステンジオン配合サプリメントの販売を自主的に中止するよう通知し、2004年4月には「エフェドラ(エフェドリン類)」成分を含むサプリメントの販売を禁止しました。しかし、これらがまだ流通している可能性は否定できず、また、エフェドラの代わりにダイエットサプリメントとして登場した「ビターオレンジサプリメント」にはシネフリン(監視プログラム)が含まれています。

* 中国製ダイエット食品による死亡例を含む肝機能障害が国内で多数報告されていますが、これらには2007年禁止表に掲載された興奮薬のシブトラミンやマジンドールが含まれているものがあったことが判明しています。

○胎盤由来成分

美容や若返りを効能としてうたっている製品には、胎盤由来成分などの禁止物質が含まれる可能性があります。

○ビタミン、ビタミン様物質(コエンザイム Q10、L-カルニチンなど)

ビタミン、コエンザイム Q10 や L-カルニチンなどのビタミン様物質は禁止されていません。しかし、これらに種々の強壯剤を配合した製剤、特に外国製品には禁止物質を含むものがあります。

○アミノ酸

アミノ酸含有のスポーツドリンクが流行です。アミノ酸そのものはドーピング物質ではありませんが、スポーツドリンクには製品によってさまざまな天然物(ホルモン性の天然・合成成分)を添加したものもありますから注意が必要です。

○機能性表示食品

2015年4月より機能性表示食品制度が始まり、6月から市販されます。機能性成分の中に禁止物質に該当するものがあるのか現時点では不明ですが、届け出た内容は消費者庁のウェブサイトで公開されていますので確認してください。

サブリー・トクホ相談 Q&A(静岡県薬剤師会編、(株)南山堂 発行)も併せてご参照ください。

(参考)JADAにより認定されたスポーツドリンク、エネルギーアシスト系食品等の競技者が使用する機会が多い飲料及び食品があります。これらは更新されますので、下記の(公財)日本アンチ・ドーピング機構のホームページを参照してください。

<http://www.playtruejapan.org/qualified/>



JADA マーク



JADA 認定商品マーク

5. 使用可能薬リスト / 一般用医薬品・要指導医薬品: OTC DRUGS etc

はじめに

- 禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法(添付文書記載の用法・用量)を守れば許可される国内の一般用医薬品・要指導医薬品(一部、医薬部外品を含む)の例をあげました。
- 禁止物質には「常に禁止される物質(競技会(時)及び競技会外)」と「競技会(時)に禁止される物質」があります。
- 主に健康なスポーツ選手が急性の病気に対して使用する内服薬、外用薬をあげています。
- 生薬や植物由来成分等は、その全ての詳細な内容成分を把握することが困難なため、これらを含む製品は、基本的に使用可能薬には掲載していません。
- 名前全体が完全に一致することを確かめてください。ほとんど同じ名前でも、接頭語として「新」がついたり、接尾語として「錠」や「会社名」、アルファベットがついているだけで、成分の組成が異なることもあります。
- JAPIC 一般用医薬品集 2015 を参考に、現在市販されていると思われる製品をあげています。(一部、薬局店頭では入手しづらい製品もあります。)
- **ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。**

(1) 解熱鎮痛薬

(注意)

- カフェインは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
アスピリン	バイエルアスピリン	佐藤製薬
アスピリン・合成ヒドロタルサイト	バファリン A	ライオン
アセトアミノフェン	タイレノール A 小児用バファリン C II バファリンルナ J こどもリングルサット	ジョンソン・エンド・ジョンソン ライオン ライオン 佐藤製薬
アセトアミノフェン・ジベンゾイルチアミン	ノーシンホワイトジュニア	アラクス
アセトアミノフェン・イブプロフェン	グレラン・ビット	武田薬品
アルミノプロフェン	ルミフェン	佐藤製薬
イブプロフェン	イブ フェリア リングルアイビー200	エスエス製薬 武田薬品 佐藤製薬
イブプロフェン・ブチルスコポラミン臭化物	エルペインコーワ	興和新薬
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン S ユニペインL	第一三共ヘルスケア 小林薬品

(2) 解熱鎮痛薬【坐剤】

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
アセトアミノフェン	アルピニーA 坐剤 こどもパブロン坐薬 キオフィーバ	エスエス製薬 大正製薬 樋屋奇応丸

(3) 総合感冒薬

● かぜ薬についての基本的な考え方

カフェインなどが禁止物質から外れたため、禁止物質を含む総合感冒薬は少なくなった。しかし、依然多くの総合感冒薬にはエフェドリン類などの禁止物質が含まれており、注意が必要である。また、カフェインは禁止物質からは外れたが、モニタリング物質として使用をモニターされる。

いずれにせよ、かぜのウイルスに直接作用する薬はないので、症状にあわせて禁止物質を含まない薬を選択し、使用する方が安全である。

(注意)

- 多くの総合感冒薬には禁止物質が含まれている。
→エフェドリン類など多くの禁止物質が含まれている。
- エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄、半夏(いずれもエフェドリン類を含む)は競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)
→よく使われる漢方薬(葛根湯・小青竜湯など)には禁止物質(麻黄)が含まれている。
→漢方のかぜ薬は穏やかと思われがちだが、麻黄にはエフェドリン類などの禁止物質が含まれている。
- 似たような名前で処方異なるものに注意。名前が完全に一致することを確認する。
(例)○ストナアイビー、×ストナアイビージェル
→「ストナアイビー」は使用可能であるが、「ストナアイビージェル」にはメチルエフェドリンが含まれている。
- 2010年より、プソイドエフェドリンが禁止物質として再導入された。
- ベンザブロック、ルルシリーズのほとんどには、禁止物質(メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄)が含まれている。
→ベンザブロック、ルルシリーズは一般的な総合感冒薬であるため注意。
- カフェイン、フェニルプロパノールアミンは2004.1.1禁止物質からモニタリング物質に変更となり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。
→カフェインだけでなく、フェニルプロパノールアミンもモニタリング物質に該当する。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
イブプロフェン・ジヒドロコデインリン酸塩・グアヤコールスルホン酸カリウム・ジフェニルピラリン塩酸塩・無水カフェイン	ストナアイビー	佐藤製薬
アセトアミノフェン・サリチルアミド・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ノスカピン塩酸塩水和物・カフェイン水和物・アスコルビン酸	新エスタック 12 新エスタック「W」	エスエス製薬 エスエス製薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・アセトアミノフェン・無水カフェイン・ペントキシベリンクエン酸塩・グアヤコールスルホン酸カリウム	新ルルエース	第一三共ヘルスケア
アセトアミノフェン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・カフェイン水和物	ニシミドン液小児用	日新製薬・滋

(4) 鎮咳・去痰薬

(注意)

- エフェドリン、麻黄、半夏(いずれもエフェドリン類を含む)、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、メキシフェナミン、トリメキノールは禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2 作用薬、S6.興奮薬)
→メキシフェナミン、トリメキノールはWADA 禁止表に名称の記載はないが、ベータ2 作用があるため、類似の化学構造または類似の薬理効果を有するものとして禁止される。普段から使用しないようにする。
- カフェイン、フェニルプロパノールアミンは2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり現在は禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。
→鎮咳去痰薬にもモニタリング物質が含まれているものがある。
- コデインは、2004.1.1 からモルヒネ/コデイン比が監視プログラムとなり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ジヒドロコデインリン酸塩・リゾチーム塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩	新ルビカップ	日水製薬
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物・ジプロフィリン・リゾチーム塩酸塩	コンタックせき止め ST	GSK
レカルボシステイン・ブロムヘキシン塩酸塩	クールワン去たんソフトカプセル ストナ去たんカプセル エフストリン去たん錠	杏林製薬 佐藤製薬 大昭製薬
ジメモルファンリン酸塩・ブロムヘキシン塩酸塩・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩・リゾチーム塩酸塩・無水カフェイン	新パブロンせき止め液	大正製薬
ジヒドロコデインリン酸塩・グアイフェネシン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・無水カフェイン	新ブロン液エース	エスエス製薬
ジヒドロコデインリン酸塩・グアイフェネシン・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩・無水カフェイン	エスベナンせきどめ内服液エース	白石薬品
チベピジンヒベンズ酸塩・リゾチーム塩酸塩・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ニッシンせき止め顆粒	日新薬品

(5) 鎮咳・去痰薬【トローチ/ドロップ】

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
塩化セチルピリジニウム・デキストロメトルファンフェノールフタリン塩	エフストリントローチ コデステシントローチ	大昭製薬 プロダクト・イノベーション、 アクシス
デキストロメトルファンフェノールフタリン塩・グアヤコールスルホン酸カリウム・セチルピリジニウム塩化物水和物	コデミン Gトローチ セキトローチ タイワケシノールトローチ テラポニンセキトローチ ノドロップコフ ベンザブロックトローチ	日新薬品 三宝製薬、福地製薬 大和製薬・愛 日新薬品 日新薬品 武田薬品
ノスカピン・グアヤコールスルホン酸カリウム・塩化セチルピリジニウム	新エスベナントローチ	白石薬品

(6) 胃腸薬 <①胃炎・胃潰瘍、②腹痛(鎮痙・鎮痛薬)、③健胃・総合胃腸薬(配合薬)>

(注意)

- ホミカ(ストリキニーネを含む)は競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
- 似たような名前で処方が異なるものに注意。
(例)○ワクナガ胃腸薬 U、×ワクナガ胃腸薬 G
→「ワクナガ胃腸薬 U」は使用可能であるが、「ワクナガ胃腸薬 G」にはホミカが含まれている。
- 局所麻酔薬(オキセサゼイン:スイッチ OTC)は 2004.1.1 から使用可能。
→局所麻酔薬は以前は禁止されていたが、2004 年禁止表から削除され、使用可能となった。

<使用可能薬例> * : 医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
① 胃炎・胃潰瘍		
ラニチジン塩酸塩・ケイ酸アルミン酸マグネシウム・酸化マグネシウム・水酸化アルミナマグネシウム	アバロン Z 大正胃腸薬 Z	大正製薬 大正製薬
ファモチジン	ガスター10、ガスター10 S 錠 ガスター10(散) ガスター10 内服液 ガストック 10 ベッセン H2	第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア キョーリンリメディオ 新新薬品
ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	イノセアワンブロック	佐藤製薬
② 腹痛(鎮痙・鎮痛薬)		
ブチルスコポラミン臭化物	ストマオフ糖衣錠 ブスコパン A 錠 ブチスコミン ブスポン S	ゼリア新薬 エスエス製薬 佐藤製薬 小林薬品
ブチルスコポラミン臭化物・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	ブスコパン M カプセル	エスエス製薬
ジサイクロミン塩酸塩・乾燥水酸化アルミニウムゲル・酸化マグネシウム	コランチル A 顆粒	塩野義製薬
チキジウム臭化物	ストパン	大正製薬
オキセサゼイン	サクロン Q マクト OZ ロミノン三宝 Oz	エーザイ ジェーピーエス製薬 三宝製薬
③ 健胃・総合胃腸薬(配合薬)		
ロートエキス・スクラルファート水和物・合成ヒドロタルサイト・ケイ酸アルミン酸マグネシウム・アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン	スクラート胃腸薬(顆粒)	ライオン
トロキシピド・アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・ロートエキス 3 倍散 C・炭酸水素ナトリウム・ケイ酸マグネシウム・沈降炭酸カルシウム	イノセアバランス	佐藤製薬
ロートエキス・銅クロロフィリンカリウム・水酸化マグネシウム・無水リン酸水素カルシウム	サクロン S	エーザイ
ラクトミン(アシドフィルス菌)・ピフィズス菌・ラクトミン(フェカリス菌)・糖化菌(納豆菌)・アミロリシン-5・サンプローゼ F・セルロシン A.P.	パンシロン N10	ロート製薬
ピレンゼピン塩酸塩水和物・炭酸水素ナトリウム・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム・ピオチアスターゼ 2000	ガストール錠 ガストール細粒	エスエス製薬 エスエス製薬

水酸化マグネシウム	ミルマグ液 スイマグ	エムジーファーマ 三保製薬研究所
セトラキサート塩酸塩・ロートエキス3倍散・沈降炭酸カルシウム・水酸化マグネシウム	第一三共胃腸薬コアブロック散剤 第一三共胃腸薬コアブロック錠剤	第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア
アズレンスルホン酸ナトリウム・アルジオキサ・合成ヒドロタルサイト・ロートエキス散・沈降炭酸カルシウム	ワクナガ胃腸薬 U	湧永製薬
乾燥酵母	エビオス錠*	アサヒフードアンドヘルスケア
ラクトミン(乳酸菌)・糖化菌(納豆菌)・ピオチアスターゼ・乾燥酵母	ビオラクターゼ*	米田薬品
ウルソデオキシコール酸・有孢子性乳酸菌	新タントーゼ錠 L*	テイカ製薬
宮入菌(酪酸菌)末・ウルソデオキシコール酸	ミヤリサン U 錠*	ミヤリサン製薬

(7) 消化薬

<使用可能薬例> * : 医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ピオチアスターゼ 2000・リパーゼ AP12・ニューラーゼ	新ピオチアス*	天野商事
ピオチアスターゼ 2000・ニューラーゼ・ウルソデオキシコール酸	ワカモト消化薬*	わかもと製薬

(8) 便秘治療薬

- (注意)
- 女性用の便秘治療薬に注意。カタカナ表記でも漢方薬の製品がある。
(例) × 新ココアポ A 錠・S 錠
→「新ココアポ A 錠・S 錠」は防風通聖散という漢方薬であり、禁止物質である麻黄(エフェドリン類)を含有する。また、防風通聖散は、最近では皮下脂肪の分解等を目的に使用される事が多くなり、「ナイシトール 85」、「ココスリム」のような製品名でも販売されている。
 - グリセロール(グリセリン)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
センノシド・ビスコジル	カイペール C ラクトール S	アラクス カイゲンファーマ
ビスコジル	コーラック カイラックス ツージーQ	大正製薬 日新薬品 小林製薬
ビスコジル・ジオクチルソジウムスルホサクシネート(DSS)・塩酸ピロドキシン	サトラックスエース	佐藤製薬
ピコスルファートナトリウム水和物	コーラックソフト ピコラックス	大正製薬 佐藤製薬
ピコスルファートナトリウム水和物・ビフィズス菌・ラクトミン(乳酸菌)	ビオフェルミン便秘薬	武田薬品
酸化マグネシウム	アクアナチュラル便秘薬 スラーリア便秘薬	フジックス ロート製薬
炭酸水素ナトリウム・無水リン酸二水素ナトリウム	コーラック坐薬タイプ 新レシカルボン坐剤 S	大正製薬 ゼリア新薬

(9) 整腸薬・下痢止め

<使用可能薬例> * : 医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
塩酸ロペラミド	イノック下痢止め シグナル下痢止め トメダインコーワフィルム ペロット下痢止め ロペラマックサット	湧永製薬 エスエス製薬 興和新薬 ゼリア新薬 佐藤製薬
ベルベリン塩化物水和物・ロートエキス・タンニン酸アルブミン・ウルソデオキシコール酸	新タントーゼ A	第一三共ヘルスケア
ロートエキス3倍散・タンニン酸ベルベリン	ストツパ下痢止め EX 小中学生用ストツパ下痢止め EX	ライオン ライオン
カゼイ菌・ビフィズス菌	ヤクルト BL 整腸薬*	ヤクルト本社
ビフィズス菌・ラクトミン	わかもと整腸薬*	わかもと製薬
ラクトミン(フェカリス菌・アシドフィルス菌)・ビフィズス菌・ジメチルポリシロキサン	ラツパ整腸薬 BF*	大幸薬品
宮入菌(酪酸菌)末	強ミヤリサン(錠)*	ミヤリサン製薬
コンク・アシドフィルス菌末・コンク・ビフィズス菌末・コンク・フェカリス菌末	新ビオフェルミン S 錠* 新ビオフェルミン S 細粒*	武田薬品 武田薬品

(10) アレルギー用薬(鼻炎内服薬を含む)

(注意)

- メチルエフェドリン、プソイドエフェドリンは競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)
- カフェイン、フェニルプロパノールアミン、フェニレフリンは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。
→アレルギー用薬にもモニタリング物質が含まれている。
- 市販のアレルギー用薬には禁止物質やモニタリング物質を配合する薬が多い。
→生薬を配合するものにも注意が必要。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
メキタジン	ストナリニ・ガード ポジナール M 錠	佐藤製薬 ノーエチ薬品
メキタジン・リボフラビン・ピリドキシン塩酸塩・ニコチン酸アミド	ピロット A 錠	全薬工業
ジフェンヒドラミン塩酸塩	レスタミンコーワ糖衣錠	興和新薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グルコン酸カルシウム水和物・アスコルビン酸散	タミナス A 錠	湧永製薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・グルコン酸カルシウム水和物	プラタギン	三宝製薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸カリウム・リン酸ピリドキサル	アレギトール	日邦薬品
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸カリウム・ピリドキシン塩酸塩・グルコン酸カルシウム水和物	アレルギーール錠	第一三共ヘルスケア

クロルフェニラミンマレイン酸塩・ヨウ化イソプロバミド・ブロメライン	コンタック 600ST	GSK
ケトチフェンマル酸塩	コンタック 600 ファースト ザジテン AL 鼻炎カプセル ヒストミン鼻炎カプセル Z	GSK ノバルティスファーマ 小林薬品
アゼラスチン塩酸塩	スカイナーAL錠	エーザイ
エピナスチン塩酸塩	アレジオン 10	エスエス製薬
フェキソフェナジン塩酸塩	アレグラ FX	久光製薬
セチリジン塩酸塩	コンタック鼻炎 Z ストナリニ Z	GSK 佐藤製薬
エバスチン	エバステル AL	興和新薬
ペミロラストカリウム	アレギサール鼻炎	田辺三菱

(11)点鼻薬

(注意)

- 多くの点鼻薬には、ナファゾリン(イミダゾール誘導体)などの血管収縮剤や糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質またはその関連物質が含まれている。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
 - ナファゾリン、テトラヒドロゾリン等のイミダゾール誘導体は、点鼻を含む局所使用が認められている。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
クロモグリク酸ナトリウム・ナファゾリン塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩	ナザールブロック	佐藤製薬
ナファゾリン塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ベンザルコニウム塩化物	クールワン鼻スプレー	杏林製薬
ナファゾリン塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩・塩酸リドカイン・ベンゼトニウム塩化物	新ルル点鼻薬	第一三共ヘルスケア
塩酸テトラヒドロゾリン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ベンゼトニウム塩化物・リドカイン	ベンザ鼻炎スプレー	武田薬品
オキシメタゾリン塩酸塩	ナシビン M スプレー	佐藤製薬
ケトチフェンマル酸塩	ザジテン AL 鼻炎スプレーα	ノバルティスファーマ
ケトチフェンマル酸塩・ナファゾリン塩酸塩	パブロン点鼻クイック	大正製薬
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	コンタック鼻炎スプレー<季節性アレルギー専用> ナザール AR<季節性アレルギー専用>	GSK 佐藤製薬

(12)吐き気・乗り物酔い予防薬

(注意)

- 吐き気・乗り物酔いの予防薬には、カフェインを含むものが多数ある。
- カフェインは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
塩酸メクリジン	ケーシック 学童用ケーシック センペア S トラベラソフト	米田薬品 米田薬品 大正製薬 グレンツメディカル
塩酸メクリジン・ピリドキシリン塩酸塩	スカイラブソフト	伊丹製薬
塩酸メクリジン・スコポラミン臭化水素酸塩水和物	乗り物酔い止め QD 錠 センペア こどもセンペア S タケダ乗り物酔い止め	第一三共ヘルスケア 大正製薬 大正製薬 武田薬品
塩酸メクリジン・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシリン塩酸塩	アネロンチュアブル	エスエス製薬
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩・スコポラミン臭化水素酸塩水和物	トラベルミン チュロップぶどう味 トラベルミン チュロップレモン味	エーザイ エーザイ
塩酸メクリジン・ジプロフィリン	トリブラ S 錠	大木製薬
ジメンヒドリナート・ジプロフィリン・スコポラミン臭化水素酸塩水和物・ピリドキシリン塩酸塩	ポード錠	森下仁丹
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン	トラベルミン マイトラベル錠	エーザイ 興和

(13)催眠・鎮静薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ジフェンヒドラミン塩酸塩	グ・スリーP ドリエル ナイトール ネオデイ プロリズム	第一三共ヘルスケア エスエス製薬 GSK 大正製薬 カイゲンファーマ

(14) 鉄欠乏性貧血用薬

(注意)

- 生薬由来成分が配合されている鉄剤は注意。
→成分が確認できるかチェックする。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
フマル酸第一鉄・硫酸銅・硫酸コバルト・硫酸マンガン・塩酸ピリドキシン・シアノコバラミン・アスコルビン酸・酢酸トコフェロール・葉酸・銅クロロフィリンカリウム・銅クロロフィリンナトリウム	エミネトン	佐藤製薬
シアノコバラミン・チアミン硝化物・リボフラビン・ピリドキシン塩酸塩・ニコチン酸アミド・アスコルビン酸・トコフェロール酢酸エステル・葉酸・フマル酸第一鉄・リン酸水素カルシウム・硫酸銅・硫酸コバルト	マスチゲン-S錠	日本臓器製薬
溶性ピロリン酸第二鉄・シアノコバラミン・葉酸	ファイチ ヘマニック	小林製薬 全薬工業

(15) 痔疾用薬

(注意)

- 多くの痔疾用の坐薬・軟膏には、血管収縮剤や糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質が含まれている。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用はすべて禁止、それ以外の投与経路については禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
リドカイン・グリチルレチン酸・アラントイン・トコフェロール酢酸エステル	ボラギノール M 軟膏 ボラギノール M 坐剤	武田薬品 武田薬品
クロルフェニラミンマレイン酸塩・トメントール・塩酸リドカイン・塩酸テトラヒドロリン・ベンザルコニウム塩化物	プリザクールジェル	大正製薬
リドカイン・酸化亜鉛・クロルヘキシジン塩酸塩・アラントイン・グリチルレチン酸・トコフェロール酢酸エステル・トメントール	レック H 軟膏 レック H 坐剤	湧永製薬 湧永製薬

(16) 女性用薬(膣カンジダ関連薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
クロトリマゾール	エンペシド L	佐藤製薬
オキシコナゾール硝酸塩	オキナゾール L100 フェミニーナ 膣カンジダ錠	田辺三菱製薬 小林製薬
ミコナゾール硝酸塩	メディトリート メディトリートクリーム	大正製薬 大正製薬
イソコナゾール硝酸塩	メンソレータムフレディ CC 膣錠 メンソレータムフレディ CC クリーム	ロート製薬 ロート製薬

(17) 目薬 <①感染症、②ビタミン類・疲れ目、③人工涙液・ドライアイ、④洗眼液、⑤花粉症・抗アレルギー>

(注意)

- ナファゾリンなど(イミダゾール誘導体)の血管収縮剤は、点眼を含む局所使用が認められている。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
① 感染症		
スルファメキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・タウリン・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	抗菌アイリスα	大正製薬
スルファメキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム	新サルファ・ルビー ノアール SG ノアールワン SG	日邦薬品 佐藤製薬 佐藤製薬
スルファメキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム	マイティア抗菌目薬 ユニーサルファ目薬	武田薬品 小林薬品
スルファメキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・タウリン	サンテ抗菌新目薬	参天製薬
スルファメキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・酢酸 d-α-トコフェロール	ロート抗菌目薬 EX	ロート製薬
② ビタミン類・疲れ目		
塩酸テトラヒドロゾリン・ネオスチグミンメチル硫酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・コンドロイチン硫酸ナトリウム・タウリン	アイリス Rinc	大正製薬
ネオスチグミンメチル硫酸塩・イブシロン-アミノカブロン酸・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・酢酸 d-α-トコフェロール・タウリン・パンテノール	サンテ 40 プラス	参天製薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・シアノコバラミン・タウリン	サンテドウ	参天製薬
シアノコバラミン・ピリドキシン塩酸塩・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・タウリン	ポポンピュメリ目薬 R	塩野義製薬
タウリン・酢酸 d-α-トコフェロール・ピリドキシン塩酸塩・L-アスパラギン酸カリウム・ネオスチグミンメチル硫酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩	ロートゴールド 40	ロート製薬
③ 人工涙液・ドライアイ		
塩化ナトリウム・塩化カリウム	アイブルーCL ソフトサンティア	カイゲンファーマ 参天製薬
塩化ナトリウム・塩化カリウム・リン酸二水素ナトリウム	アスパラ目薬ソフト	田辺三菱製薬
塩化ナトリウム・塩化カリウム・ヒドロキシエチルセルロース	なみだロートコンタクト	ロート製薬
塩化ナトリウム・塩化カリウム・ブドウ糖	New マイティア CL	武田薬品

コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・塩化ナトリウム・L-アスパラギン酸カリウム・タウリン	スマイルコンタクトピュア	ライオン
塩化ナトリウム・塩化カリウム・タウリン	アイリス CL-I ネオ	大正製薬
④ 洗眼薬		
イブシロン-アミノカプロン酸・クロルフェニラミンマレイン酸塩・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・ピリドキシン塩酸塩・トコフェロール酢酸エステル	アイボン c	小林製薬
イブシロン-アミノカプロン酸・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・L-アスパラギン酸カリウム	アルガード目すっきり洗眼薬 α	ロート製薬
L-アスパラギン酸カリウム・タウリン・イブシロン-アミノカプロン酸・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・パンテノール・酢酸 d-αトコフェロール	スマイルアミノウォッシュ	ライオン
イブシロン-アミノカプロン酸・クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・ピリドキシン塩酸塩・タウリン	フレッシュアイ AG	第一三共ヘルスケア
グリチルリチン酸二カリウム・ビタミン B6・酢酸 d-αトコフェロール・L-アスパラギン酸カリウム・タウリン・コンドロイチン硫酸ナトリウム	ロート C キューブアミノモイスト	ロート製薬
⑤ 花粉症・抗アレルギー		
クロモグリク酸ナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩	アイブルーAG II アイラート AG サンテアルフリー新目薬 ビュークリア AL クール フォスターALG	カイゲンファーマ 全薬工業 参天製薬 ゼリア新薬 キョーリンリメディオ
クロモグリク酸ナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	エーゼットアルファ	ゼリア新薬
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン AL 点眼薬	ノバルティスファーマ
ケトチフェンフマル酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・タウリン	アイリス AG ガード	大正製薬
アシタザノラスト水和物	アイフリーコーワ AL	興和新薬
ベミロラストカリウム	ノアール P ガード点眼液	佐藤製薬
トラニラスト	ロートアルガードプレテクト	ロート製薬

(18)うがい薬・口腔内殺菌薬・口内炎用薬

<使用可能薬例> * : 医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ポビドンヨード	浅田飴のどクールスプレー イソジンうがい薬 ネオヨジンうがいぐすり フィニッシュコーワ	浅田飴 明治 岩城製薬 興和新薬
クロルヘキシジングルコン酸塩	うがい薬コロロ SP	サラヤ

アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	セピーAZ のどスプレークール パブロンうがい薬 AZ ルルのどスプレー	ゼリア新薬 大正製薬 第一三共ヘルスケア
セチルピリジニウム塩化物水和物	ヴィックスメディケイテッドドロップ B・C・GF・L・O・R・U* のどぬーるスプレークリアミント a*	大正製薬 小林製薬
セチルピリジニウム塩化物水和物・クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸ニカリウム	ペレックストローチ	大鵬薬品
リゾチーム塩酸塩・グリチルリチン酸ニカリウム・デカリニウム塩化物	ノバポン L トローチ	田辺三菱製薬
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・グリチルリチン酸・セチルピリジニウム塩化物水和物	サトウ口内軟膏	佐藤製薬

(19)皮膚外用薬

<①殺菌消毒薬、②しもやけ・あかぎれ用薬、③液体絆創膏、④鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬、⑤殺虫剤、⑥毛髪用薬、⑦化膿性疾患用薬、⑧抗真菌薬、⑨抗ウイルス薬>

(注意)

- 多くの軟膏には糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質が含まれているが、2005.1.1 から皮膚外用薬としての糖質コルチコイドは使用可能になった。
→糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用はすべて禁止、それ以外の投与経路については禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。

<使用可能薬例> * :医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
① 殺菌消毒薬		
ポビドンヨード	イソジンきず薬 イソジン軟膏 ケンエーイオダイン	明治 明治 健栄製薬
オキシドール	オキシドール	各社
ベンザルコニウム塩化物	オスバン S ラビネット P	武田薬品 健栄製薬
クロルヘキシジングルコン酸塩	ヒビスコール S	サラヤ
セチルピリジニウム塩化物水和物・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ジブカイン塩酸塩・ナファゾリン塩酸塩	キズアワワ	小林製薬
ベンザルコニウム塩化物・ナファゾリン塩酸塩・ジフェンヒドラミン塩酸塩・ジブカイン塩酸塩	新レブメント-FN	湧永製薬
ベンゼトニウム塩化物・アラントイン・クロルフェニラミンマレイン酸塩	マキロン S	第一三共ヘルスケア
ベンゼトニウム塩化物・アラントイン	ムヒのきず液	池田模範堂
② しもやけ・あかぎれ用薬		
白色ワセリン	白色ワセリン	各社
ヘパリン類似物質	HP クリーム アットノン	ノバルティスファーマ 小林製薬
ヘパリン類似物質・ジフェンヒドラミン	メンソレータムヘパソフトクリーム	ロート製薬

③ 液体絆創膏		
ピロキシリン	サカムケア a	小林製薬
ピロキシリン・d-カンフル	コロスキン	東京甲子社
④ 鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬		
インドメタシン	貼るアクテージ L バンテリンコーワ新ミニパット	武田薬品 興和新薬
インドメタシン・トメントール	サロンパス EX バンテリンコーワ液 W バンテリンコーワクリーム LT	久光製薬 興和新薬 興和新薬
ケトプロフェン・トメントール	オムニードケトプロフェンパップ	テイコクファルマケア
フェルビナク	ナボリン フェルビナク 70 パスタイム FX7 パスタイム FX7-L フェイタスシップ	エーザイ 祐徳薬品 祐徳薬品 久光製薬
フェルビナク・トメントール	ゼノールエクサム FX ゼノールエクサム SX ゼノールエクサム液ゲル	大鵬薬品 大鵬薬品 大鵬薬品
ジクロフェナクナトリウム	イブアウターゲル イブアウターテープ イブアウターパップ L ジクロテクトゲル ジクロテクトテープ ジクロテクトテープ L ジクロテクトローション ボルタレン AC ゲル ボルタレン AC テープ ボルタレン AC テープ L ボルタレン AC ローション	エスエス製薬 エスエス製薬 エスエス製薬 大正製薬 大正製薬 大正製薬 大正製薬 大正製薬 ノバルティスファーマ ノバルティスファーマ ノバルティスファーマ ノバルティスファーマ
サリチル酸グリコール・dl-メントール・グリチルレチン酸	アイスラブゲル	ロート製薬
サリチル酸グリコール・トメントール・トコフェロール酢酸エステル	トクホン E	大正製薬
サリチル酸メチル・トメントール・dl-カンフル・ノナン酸バニルアミド・クロルフェニラミンマレイン酸塩・チモール	アンメルツヨココヨ	小林製薬
サリチル酸メチル・トメントール・ハッカ油・dl-カンフル・ノニル酸ワニルアミド・トコフェロール酢酸エステル	メンフラ A	大正製薬
サリチル酸グリコール・トメントール・ノニル酸ワニルアミド・トコフェロール酢酸エステル・グリチルリチン酸	チール A	大正製薬
クロタミトン・ジフェンヒドラミン塩酸塩・グリチルレチン酸・アラントイン・イソプロピルメチルフェノール・トコフェロール酢酸エステル	オイラックスソフト	第一三共ヘルスケア
ジフェンヒドラミン塩酸塩・リドカイン・グリチルレチン酸・バンテノール・トコフェロール酢酸エステル	近江兄弟社メンターム EX ソフト	近江兄弟社

リドカイン・トコフェロール酢酸エステル・ジフェンヒドラミン塩酸塩・イソプロピルメチルフェノール	フェミニーナ軟膏 S	小林製薬
ジフェンヒドラミン・グリチルレチン酸・トメントール・dl-カンフル・イソプロピルメチルフェノール	ムヒ S	池田模範堂
ジフェンヒドラミン塩酸塩・パンテノール・トコフェロール酢酸エステル・グリチルレチン酸	ムヒソフト GX ムヒソフト GX 乳状液	池田模範堂 池田模範堂
クロタミトン・ジフェンヒドラミン・グリチルレチン酸・イソプロピルメチルフェノール・トコフェロール酢酸エステル	ユースキン N ユースキン I ユースキン I ローション	ユースキン製薬 ユースキン製薬 ユースキン製薬
ジフェンヒドラミン塩酸塩・酸化亜鉛・グリチルレチン酸	レスタミンコーワパウダークリーム	興和新薬
ウフェナマート・ジフェンヒドラミン・グリチルレチン酸	ロバック U	武田薬品
⑤ 殺虫薬		
ディート	キンカン虫よけスプレー P* サラテクト FA ムヒの虫よけムシペール PS ムヒの虫よけムシペール α	金冠堂 アース製薬 池田模範堂 池田模範堂
⑥ 毛髪用薬		
ミノキシジル	リアップ リアップ X5 リアップレディ	大正製薬 大正製薬 大正製薬
⑦ 化膿性疾患用薬		
イブプロフェンピコノール	エバユースにきび薬 フキディア フレッシングアクネクリーム	第一三共ヘルスケア 小林製薬 久光製薬
イブプロフェンピコノール・イソプロピルメチルフェノール	ペアアクネクリーム W	ライオン
クロルヘキシジングルコン酸塩	オロナイン H 軟膏	大塚製薬
コリスチン硫酸塩・バシトラシン	ドルマイシン軟膏	ゼリア新薬
デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	レダマイシン軟膏	武田薬品
⑧ 抗真菌薬		
アモロルフィン塩酸塩	ダマリンエース ダマリンエース液 トークール トークール液	大正製薬 大正製薬 杏林製薬 杏林製薬
ラノコナゾール	ウィンダム液 ウィンダム軟膏 ウィンダムクリーム	第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア
ブテナフィン塩酸塩・クロタミトン・グリチルレチン酸・トメントール・ベンザルコニウム塩化物	スコルバ EX	武田薬品
ブテナフィン塩酸塩・塩酸リドカイン・dl-カンフル	ラマストーン MX2 ラマストーン MX2 液 ラマストーン MX2 ゲル	佐藤製薬 佐藤製薬 佐藤製薬
テルビナフィン塩酸塩	ラミシール AT 液 ラミシール AT クリーム	ノバルティスファーマ ノバルティスファーマ

テルビナフィン塩酸塩・ジフェンヒド ラミン塩酸塩・グリチルレチン酸・イ ソプロピルメチルフェノール	バリアクト Hi 液 バリアクト Hi クリーム	ゼリア新薬 ゼリア新薬
オキシコナゾール硝酸塩・リドカ イン・クロタミトン・グリチルレチ ン酸・トメントール	ニュータムシチンキゴールド a	小林製薬
ビホナゾール	エーワン L エーワン L クリーム エーワン L スプレー	三友薬品 三友薬品 三友薬品
ミコナゾール硝酸塩・クロタミ トン・リドカイン・グリチルレチン酸 ニカリウム・尿素	ダマリン L ダマリン S	大正製薬 大正製薬
⑨ 抗ウイルス薬		
アシクロビル	アクチビア軟膏 ヘルペシア軟膏	GSK 大正製薬
ビダラビン	アラセナ S アラセナ S クリーム	佐藤製薬 佐藤製薬

6. 使用可能薬リスト / 医療用医薬品:ETHICAL DRUGS

はじめに

- 禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法(添付文書記載の用法・用量)を守れば許可される国内の医療用医薬品の例をあげました。
- 禁止物質には「常に禁止される物質(競技会(時)及び競技会外)」と「競技会(時)に禁止される物質」があります。
- 使用可能薬リストの医薬品は、主要な製品を記載してあります。「他」と書いてあるものは、記載以外にも医薬品があることを意味します。メーカー名は(製造販売-発売・販売)です。
- ジェネリック医薬品(後発医薬品)は、先発医薬品と同一の有効成分を含有し、基本的には変わりません。
- 生薬や植物由来成分等は、その全ての詳細な内容成分を把握することが困難なため、これらを含む製品は、基本的に使用可能薬には掲載していません。
- ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。

(1)解熱・鎮痛・抗炎症薬<①非ピリン系解熱鎮痛薬、②配合剤、③非ステロイド性抗炎症薬、④片頭痛治療薬>

● かぜ薬についての基本的な考え方

カフェインなどが禁止物質から外れたため、禁止物質を含む総合感冒薬は少なくなった。しかし、カフェインは禁止物質からは外れたが、モニタリング物質として使用をモニターされる。

いずれにせよ、かぜのウイルスに直接作用する薬はないので、症状に合わせて禁止物質を含まない薬を選択し、使用する方が安全である。

(注意)

- エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄、半夏(いずれもエフェドリン類を含む)は競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)
- よく使われる漢方薬(葛根湯・小青竜湯など)には禁止物質(麻黄)が含まれている。
→漢方のかぜ薬は穏やかと思われがちだが、麻黄にはエフェドリン類などの禁止物質が含まれている。
- カフェインは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 非ピリン系解熱鎮痛薬	
アセトアミノフェン (パラセタモール)	アニルメ(長生堂-日本ジェネリック)、カロナール(昭和薬化工)他
② 配合剤(頭痛、感冒など)	
アスピリン・ダイアルミネート	バファリン配合錠 A330(ライオン-エーザイ)他
アンチピリン・カフェイン・クエン酸	ミグレニン(各社)
シメトリド・無水カフェイン	キョーリン AP2 配合顆粒(杏林)
サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・プロメタジンメチレンジサリチル酸塩	PL 配合顆粒(塩野義)、幼児用 PL 配合顆粒(塩野義)、ピーエイ配合錠(全星-全星、田辺三菱、田辺製薬販売、沢井、ニプロ)、トーワチーム配合顆粒(東和)他

サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・クロルフェニラミンマレイン酸塩	ペレックス配合顆粒(大鵬)、小児用ペレックス配合顆粒(大鵬)
イソプロピルアンチピリン・アセトアミノフェン・アリルイソプロピルアセチル尿素・無水カフェイン	SG 配合顆粒(塩野義)
③ 非ステロイド性抗炎症薬	
ー酸性抗炎症薬ー	
アスピリン	アスピリン(各社)
アセメタシン	ランツジールコーワ錠(興和-興和創薬)
アンピロキシカム	フルカムカプセル(ファイザー)他
アンフェナクナトリウム水和物	フェナゾックスカプセル(Meiji Seika ファルマ)
イブプロフェン	ブルフェン(科研)他
インドメタシン	インテバン SP(帝國)他
インドメタシンファルネシル	インフリー(エーザイ)
エトドラク	オステラック錠(あすか-武田)、ハイペン錠(日本新薬)他
オキサプロジン	アルボ錠(大正-大正富山)
ケトプロフェン	アネオール坐剤(岩城)、エパテック坐剤(ビオメディクス)他
ザルトプロフェン	ソレトン錠(日本ケミファ)、ペオン錠(ゼリア)他
ジクロフェナクナトリウム	ナポール SR カプセル(久光)、ボルタレン(ノバルティス)他
スリンダク	クリノリル錠(日医エ-杏林)
セレコキシブ	セレコックス錠(アステラス)
ナブメトン	レリフェン錠(三和化学)
ナプロキセン	ナイキサン錠(田辺三菱-田辺製薬販売)
ピロキシカム	バキソ(富山化学-大正富山)他
ブラノプロフェン	ニフラン(田辺三菱)他
フルルビプロフェン	フロベン(科研)他
メフェナム酸	ポンタール(第一三共)他
メロキシカム	モービック錠(日本ベーリンガー)他
モフェゾラク	ジソペイン錠(田辺三菱)
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン(第一三共)他
ロルノキシカム	ロルカム錠(大正-大正富山)
ー塩基性抗炎症薬ー	
エピリゾール(メピリゾール)	メブロン顆粒(第一三共)
チアラミド塩酸塩	ソランタール錠(アステラス)
ーその他ー	
プレガバリン	リリカカプセル(ファイザー)
ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	ノイロトロピン錠(日本臓器)
④ 片頭痛治療薬	
ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩	ジヒデルゴット錠(ノバルティス)、ヒポラール錠(あすか-武田)他
エルトリプタン臭化水素酸塩	レルパックス錠(ファイザー)
スマトリプタンコハク酸塩	イミグラン(GSK)他
ゾルミトリプタン	ゾーミッグ(アストラゼネカ)
ナラトリプタン塩酸塩	アマージ錠(GSK)
リザトリプタン安息香酸塩	マクサルト(杏林-エーザイ)
塩酸ロメリジン	テラナス錠(MSD)、ミグシス錠(ファイザー)

(2) 中枢性筋弛緩薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
アフロクアロン	アロフト錠(田辺三菱-田辺製薬販売)他
エペリゾン塩酸塩	ミオナール(エーザイ)他
クロルフェネシンカルバミン酸エステル	リンラキサー錠(大正-大正富山)他
チザニジン塩酸塩	テルネリン(ノバルティス)他

(3) 酵素製剤(消炎・繊維素溶解)

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
プロナーゼ	エンピナース・P(科研)
リゾチーム塩酸塩	ノイチーム(サンノーバー-エーザイ)、レフトーゼ(日本新薬)、アクディーム(あすか-武田)他

(4) 鎮咳・去痰薬

(注意)

- エフェドリン、麻黄、半夏(いずれもエフェドリン類を含む)、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、メキシフェナミン、トリメキノールは禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2作用薬、S6.興奮薬)
→メキシフェナミン、トリメキノールはWADA禁止表に名称の記載はないが、ベータ2作用があるため、類似の化学構造または類似の薬理効果を有するものとして禁止される。普段から使用しないようにする。
- コデインは、2004.1.1 からモルヒネ/コデイン比が監視プログラムとなり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
—中枢性鎮咳薬— エブラジノン塩酸塩	レスプレン錠(中外)
クロペラスチン	フスタゾール(田辺三菱)
クロフェダノール塩酸塩	コルドリン(日本新薬)
コデインリン酸塩水和物	コデインリン酸塩(各社)
ジメモルファンリン酸塩	アストミン(アステラス)他
チペピジンヒベンズ酸塩	アスベリン(田辺三菱-田辺製薬販売)他
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	メジコン散・錠(塩野義)他

デキストロトルファン臭化水素酸塩水和物・クレゾールスルホン酸カリウム	メジコン配合シロップ(塩野義)、メゼック配合シロップ(テバ)
ベントキシベリンクエン酸塩	トクレスパンスールカプセル(大日本住友)他
ベンプロペリンリン酸塩	フラベリック錠(ファイザー)
－去痰薬－ L-カルボシステイン	ムコダイン(杏林)他
アンブロキシソール塩酸塩	ムコソルバン(帝人)、アンブロン細粒(ザイダスファーマ)、ムコサル(日本ベーリンガー)他
フドステイン	クリアナール(田辺三菱)他
ブロムヘキシソール塩酸塩	ビスソルボン錠・細粒・シロップ(日本ベーリンガー)他

(5) 気管支拡張・喘息・COPD 治療薬

(注意)

- ベータ2作用薬は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2作用薬)
- 禁止物質「ベータ2作用薬」のうち、喘息および運動誘発性喘息発作の予防と治療を目的とした吸入サルブタモール(24時間で最大1600 μ g)*、吸入ホルモテロール(24時間で最大54 μ g)**および吸入サルメテロールが製造販売会社によって推奨される治療法に従って使用される場合は禁止されず、TUE申請も不要。
*尿中サルブタモールが1000ng/mLを超える場合は違反が疑われる分析結果として扱われる。
**尿中ホルモテロールが40ng/mLを超える場合は違反が疑われる分析結果として扱われる。
→サルタノールインヘラー、ベネトリン吸入液、アイロミールエアゾール、シムビコートタービュヘイラー(ブデソニドとの配合剤)、アドエアエアゾール、アドエアディスク(いずれもフルチカゾンプロピオン酸エステルとの配合剤)、フルティフォームエアゾール(フルチカゾンプロピオン酸エステルとの配合剤)、セレベントロタディスク、セレベントディスク、オーキシスタービュヘイラー(*)の10製品が上記3成分を含有する吸入薬。(*)ホルモテロールは24時間で最大18 μ g。
- 糖質コルチコイドの吸入使用は禁止されない。
- エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄、半夏(いずれもエフェドリン類を含む)は禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－キサンチン誘導体－ アミノフィリン水和物	ネオフィリン原末・錠(サンノーバーエーザイ)
テオフィリン	テオドール(田辺三菱)、ユニフィルLA錠(大塚)、テオロング(エーザイ)、スロービッド(サンド)他
－ロイコトリエン拮抗薬－ ザフィルルカスト	アコレート錠(アストラゼネカ)
プラナルカスト水和物	オノン(小野)他
モンテルカストナトリウム	キプレス(杏林)、シングレア(MSD)

ー抗コリン薬(吸入)ー イプラトロピウム臭化物水和物	アトロベントエロゾル(帝人)
オキシトロピウム臭化物	テルシガンエロゾル(日本ベーリンガー)
グリコピロニウム臭化物	シーブリ吸入用カプセル(ノバルティス)
チオトロピウム臭化物水和物	スピリーバ(日本ベーリンガー)

＜使用可能薬例(吸入ベータ2作用薬、吸入ベータ2作用薬+吸入糖質コルチコイド、吸入糖質コルチコイド)＞

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ー吸入ベータ2作用薬ー サルブタモール硫酸塩	サルタノールインヘラー(GSK)、アイロミールエアゾール(大日本住友)、ベネトリン吸入液(GSK)
サルメテロールキシナホ酸塩	セレベント(GSK)
ホルモテロールフマル酸塩水和物	オーキシスタービューヘイラー(アストラゼネカ-Meiji Seika ファルマ)
ー吸入ベータ2作用薬 +吸入糖質コルチコイドー サルメテロールキシナホ酸塩 ・フルチカゾンプロピオン酸エステル	アドエア(GSK)
ホルモテロールフマル酸塩水和物 ・ブデソニド	シムビコートタービューヘイラー(アストラゼネカ-アステラス)
ホルモテロールフマル酸塩水和物 ・フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルティフォームエアゾール(杏林)
ー吸入糖質コルチコイドー シクレソニド	オルベスコインヘラー(帝人)
ブデソニド	パルミコート(アストラゼネカ)
フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルタイド(GSK)
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	キューバールエアゾール(大日本住友)
モメタゾンフランカルボン酸エステル	アズマネックスツイストヘラー(MSD)

(6)アレルギー治療薬

(注意)

- 糖質コルチコイドの経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用は競技会(時)禁止。
(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドは投与形態により申請方法が異なる。経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用は TUE 申請、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
- プソイドエフェドリンは競技会(時)禁止物質(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)で、尿中濃度 150 µg/mL を超える場合は禁止される。
→プソイドエフェドリンが配合されているディレグラ配合錠(サノフィ)がアレルギー性鼻炎治療薬として販売されている。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

＜使用可能薬例＞

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ー抗ヒスタミン薬ー クレマスチンフマル酸塩	タベジール(ノバルティス)、テルギン G(高田-マルホ)他
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ポララミン錠・散・シロップ・ドライシロップ(高田)他
クロルフェニラミンマレイン酸塩	アレルギーン散(第一三共)、クロダミンシロップ(日医工)、ネオレスタミンコーワ散(興和-興和創薬)、ヒスターール(ザイダスファーマ)他

ジフェンヒドラミン塩酸塩	ベナ錠(佐藤)、レスタミンコーワ錠(興和-興和創薬)
シプロヘプタジン塩酸塩水和物	ペリアクチン(日医工)他
プロメタジン	ヒベルナ散・糖衣錠(田辺三菱)、ピレチア(高田)
メクタジン	ゼスラン(旭化成)、ニポラジン(アルフレッサ)他
ー抗アレルギー薬ー	
アゼラスチン塩酸塩	アゼプチン(エーザイ)他
エバステン	エバステル(大日本住友-Meiji Seika ファルマ)他
エピナスチン塩酸塩	アレジオン(日本ベーリンガー)他
エメダスチンフマル酸塩	レミカットカプセル(興和-興和創薬)他
オキサトミド	セルテクト(協和発酵キリン)他
オロパタジン塩酸塩	アレロック(協和発酵キリン)他
クロモグリク酸ナトリウム	インタール(サノフィ)他
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン(ノバルティス)、ジキリオンシロップ(日医工-高田)他
スプラタストシル酸塩	アイピーディ(大鵬)他
セチリジン塩酸塩	ジルテック(ユーシービー-第一三共、GSK)他
トラニラスト	リザベン(キッセイ)他
トラネキサム酸	トランサミンカプセル・錠・散・シロップ(第一三共)他
ヒドロキシジン	アタラックス(ファイザー)他
フェキソフェナジン塩酸塩	アレグラ(サノフィ)他
プラナルカスト水和物	オノン(小野)他
ベポタスチンベシル酸塩	タリオン(田辺三菱)
ホモクロルシクリジン塩酸塩	ホモクロミン錠(エーザイ)他
ラマトロバン	バイナス錠(バイエル-日本新薬)
レボセチリジン塩酸塩	ザイザル錠(GSK)
ロラタジン	クラリチン(MSD-塩野義)他

(7) 抗めまい薬(乗り物酔い予防)

- (注意)
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ジフェニドール塩酸塩	セファドール(日本新薬)他
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン	トラベルミン配合錠(サンノーバー-エーザイ)
ジメンヒドリナート	ドラマミン錠(陽進堂)
ベタヒスチンメシル酸塩	メリスロン錠(エーザイ)他

(8) 胃腸薬<①胃炎・胃潰瘍、②腹痛(鎮痙薬・粘膜分泌抑制薬)、③胃腸機能調整薬>

- (注意)
- 局所麻酔薬(オキセサゼイン等)は2004.1.1から使用可能となった。
 - 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 胃炎・胃潰瘍	
－H₂受容体拮抗薬－	
シメチジン	タガメット錠・細粒(大日本住友)、カイロック細粒(藤本)他
ニザチジン	アシノン錠(ゼリア)他
ファモチジン	ガスター錠・D錠・散(アステラス)他
ラニチジン塩酸塩	ザンタック錠(GSK)他
ラフチジン	プロテカジン(大鵬)他
ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	アルタットカプセル・細粒(あすか-武田)他
－プロトンポンプ阻害薬－	
エソメプラゾール	ネキシウムカプセル(アストラゼネカ-第一三共)
オメプラゾール	オメプラール錠(アストラゼネカ)、オメプラゾン錠(田辺三菱)他
ラベプラゾールナトリウム	パリエット錠(エーザイ)他
ランソプラゾール	タケプロンカプセル・OD錠(武田)他
－酸中和薬－	
乾燥水酸化アルミニウムゲル・水酸化マグネシウム	マーロックス懸濁用配合顆粒(サノフィ)、マルファ(東洋製化-小野)他
合成ケイ酸アルミニウム	アルミワイス(マイラン-ファイザー)、合成ケイ酸アルミニウム(各社)
－粘膜抵抗強化薬－	
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール(日本新薬)、ノズレン細粒(ザイダスファーマ)他
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・L-グルタミン	マーズレン(寿)、グリマック配合顆粒(沢井)他
アルギン酸ナトリウム	アルロイドG(カイゲンファーマ)他
アルジオキサ	イサロン(あすか-武田)他
エカベトナトリウム水和物	ガストローム顆粒(田辺三菱)他
スクラルファート水和物	アルサルミン(中外)他
ポラブレジンク	プロマック(ゼリア)他
メチルメチオニンスルホニウムクロリド	キャベジンUコーワ錠(興和-興和創薬)他
－粘液産生・分泌促進薬－	
テプレノン	セルベックス(エーザイ)他
レバミピド	ムコスタ(大塚)他
－胃粘膜微小循環改善薬－	
セトラキサート塩酸塩	ノイエル(第一三共エスファ)他
ソファルコン	ソロン(大正-大正富山)他
ベネキサート塩酸塩ベータデクス	ウルグートカプセル(塩野義)他
② 腹痛(鎮痙薬・粘膜分泌抑制薬)	
ブチルスコポラミン臭化物	ブスコパン錠(日本ベーリンガー)他
ブトロピウム臭化物	コリオパン(エーザイ)
ロートエキス	ロートエキス(各社)
③ 胃腸機能調整薬	
アコチアミド塩酸塩水和物	アコファイド錠(ゼリア-アステラス)
イトプリド塩酸塩	ガナトン錠(アボット-アステラス)他
ジメチルポリシロキサン	ガスコン(キッセイ)他
ドンペリドン	ナウゼリン(協和発酵キリン)他
メクロプラミド	エリーテン錠(高田)、テルペラン錠(あすか-武田)、プリンペラン錠・細粒・シロップ(アステラス)他
モサプリドクエン酸塩水和物	ガスモチン(大日本住友)他

(9) 総合消化酵素

- (注意)
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ジアスメン・ジアスターゼ・オノテース・モルシン・ボンラーゼ・セルロシン A.P.・パンクレアチン・ポリパーゼ・オノブローゼ A	タフマック E(小野)
濃厚膵臓性消化酵素・細菌性脂肪分解酵素・アスペルギルス産生消化酵素・繊維素分解酵素	ベリチーム配合顆粒(塩野義)
ヒロダーゼ・マミターゼ・リパーゼ A・セルラーゼ AP3・濃厚パンクレアチン	ポリトーゼ(武田)

(10) 便秘治療薬

- (注意)
- グリセロール(グリセリン)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
 - 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－緩下剤－ カルメロースナトリウム(カルボキシメチルセルロースナトリウム)	バルコーゼ顆粒(サンノーバーエーザイ)、カルメロースナトリウム原末「マルイシ」(丸石)
酸化マグネシウム (略称:カマ、カマグ)	酸化マグネシウム(各社)、重質酸化マグネシウム(各社)、マグラックス(吉田)、マグミット(協和化工-丸石、健栄、シオエ、日本新薬、ニプロ)他
－刺激性下剤－ センノシド A・B	プルゼニド錠(ノバルティス)、センノサイド(各社)他
ピコスルファートナトリウム水和物	ラキソベロン(帝人)、ピコダルム顆粒(日新:山形-ゼリア)、ピコベン錠(ザイダスファーマ)、チャルドール(テバ)、スナイリンドライシロップ(アボット)他
ビスコジル	テレミンソフト坐薬(味の素-サンド)他
－その他－ 炭酸水素ナトリウム・無水リン酸二水素ナトリウム	新レシカルボン坐剤(京都-ゼリア)、インカルボン坐剤(テバ)
ルビプロストン	アミティーザカプセル(スキャンポ-アボット)

(11) 止痢・整腸薬

- (注意)
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－止痢薬－ タンニン酸アルブミン	タンナルビン(各社)、タンニン酸アルブミン(各社)
天然ケイ酸アルミニウム	アドソルビン原末(第一三共)

ベルベリン塩化物水和物	キョウベリン錠(大峰堂-日本化薬)
ロペラミド塩酸塩	ロペミン(ヤンセン)他
—整腸薬— 耐性乳酸菌	エンテロノン-R 散(味の素)、エントモール散(長生堂-日本ジェネリック)、ビオフェルミン R(ビオフェルミン-武田)、ラックビーR 散(興和-興和創薬)、レベニン(わかもと)他
ビフィズス菌	ビオフェルミン錠剤(ビオフェルミン-武田)、ビフィズゲン散(日東-大日本住友)、ラックビー微粒 N(興和-興和創薬)他
酪酸菌	ミヤ BM(ミヤリサン)
ラクトミン	アタバニン散(日東-大日本住友)他
ラクトミン・糖化菌	ビオフェルミン配合散(ビオフェルミン-武田)
乾燥酵母	乾燥酵母エビオス(アサヒ-田辺三菱)、乾燥酵母(各社)
—過敏性腸症候群治療薬— チキジウム臭化物	チアトン(アボット)他
トリメブチンマレイン酸塩	セレキノン(田辺三菱)他
ポリカルボフィルカルシウム	コロネル(アステラス)、ポリフル(アボット)他
メペンゾラート臭化物	トランコロン錠(アステラス)他
ラモセトロン塩酸塩	イリボー(アステラス)

(12) 頻尿・過活動膀胱治療薬

（注意）

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
イミダフェナシン	ウリトス(杏林)、ステーブラ(小野)
コハク酸ソリフェナシン	ベシケア(アステラス)
酒石酸トルテロジン	デトルシトールカプセル(ファイザー)
フラボキサート塩酸塩	ブラダロン(日本新薬)他
プロピペリン塩酸塩	バップフォー(大鵬)他

(13) 肝疾患治療薬

（注意）

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ウルソデオキシコール酸	ウルソ(田辺三菱)他
グリチルリチン酸モノアンモニウム・グリシン-DL-メチオニン	グリチロン配合錠(ミノファージェン-エーザイ)、ネオファージェン C 配合錠(大鵬)他

(14) 高脂血症用薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ーHMG-CoA 還元酵素阻害薬ー アトルバスタチンカルシウム水和物	リピトール錠(アステラス)他
シンバスタチン	リポバス錠(MSD)他
ピタバスタチンカルシウム	リバロ(興和-興和創薬)
プラバスタチンナトリウム	メバロチン(第一三共)他
フルバスタチンナトリウム	ローコール錠(ノバルティス)他
ロスバスタチンカルシウム	クレストール錠(アストラゼネカ-塩野義)
ーフィブラート系ー	
クリノフィブラート	リポクリン錠(大日本住友)
フェノフィブラート	トライコア錠(アボット-帝人)、リピディル錠(あすか-科研、武田)他
ベザフィブラート	ベザトール SR 錠(キッセイ)、ベザリップ錠(中外)他
ープロブコールー	
プロブコール	シンレスタール(第一三共エスファ)、ロレルコ(大塚)他

(15) 血圧降下薬<①Ca拮抗薬、②ACE阻害薬、③アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬、④α遮断薬>

(注意)

- 全ての利尿薬は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および他の隠蔽薬)
- ベータ遮断薬は特定競技において禁止。(WADA 禁止表 P2.ベータ遮断薬)
→ベータ遮断薬は8種目の競技において禁止(アーチェリー、射撃は常時禁止)。
- Ca拮抗薬、ACE阻害薬、アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬は使用可能。
- テルミサルタンの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。
- 利尿薬が含有されている高血圧症治療配合剤(イルトラ、エカード、コディオ、プレミネント、ミコンビ 他)も複数発売されているので注意。利尿薬の配合剤も禁止。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① Ca拮抗薬	
ージヒドロピリジン系ー	
第一世代	
ニカルジピン塩酸塩	ペルジピン錠・散・LAカプセル(アステラス)他
ニフェジピン	アダラート(バイエル)、エマベリンLカプセル(高田)、セバミット(MSD)他
第二世代	
ニソルジピン	バイミカード錠(バイエル)他
ニルバジピン	ニバジュール錠(アステラス)他
バルニジピン塩酸塩	ヒポカカプセル(アステラス)
ベニジピン塩酸塩	コニール錠(協和発酵キリン)他
マニジピン塩酸塩	カルスロット錠(武田)他

第三世代 アゼルニジピン	カルブブロック錠(第一三共)
アムロジピンベシル酸塩	アムロジン(大日本住友)、ノルバスク(ファイザー)他
ーベンゾチアゼピン系ー ジルチアゼム塩酸塩	ヘルベッサー錠・Rカプセル(田辺三菱)他
② ACE 阻害薬	
アラセプリル	セタプリル錠(大日本住友)他
イミダプリル塩酸塩	タナトリル錠(田辺三菱)他
エナラプリルマレイン酸塩	レニベース錠(MSD)他
カプトプリル	カプトリル(第一三共エスファ)他
キナプリル塩酸塩	コナン錠(田辺三菱)
シラザプリル水和物	インヒベース錠(中外)他
テモカプリル塩酸塩	エースコール錠(第一三共)他
デラプリル塩酸塩	アデカット錠(武田)
トランドラプリル	オドリック錠(日本新薬)、プレラン錠(サノフィ)他
ベナゼプリル塩酸塩	チバセン錠(ノバルティス)他
ペリンドプリルエルブミン	コバシル錠(協和発酵キリン)他
リシノプリル水和物	ゼストリル錠(アストラゼネカ)、ロンゲス錠(塩野義)他
③ アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬	
アジルサルタン	アジルバ錠(武田)
イルベサルタン	アバプロ錠(大日本住友)、イルベタン錠(塩野義)
オルメサルタンメドキシミル	オルメテック錠(第一三共)
カンデサルタンシレキセチル	ブロプレス錠(武田)他
テルミサルタン	ミカルディス錠(日本ベーリンガー―アステラス)
バルサルタン	ディオバン(ノバルティス)他
ロサルタンカリウム	ニューロタン錠(MSD)他
④ α遮断薬	
ドキサゾシンメシル酸塩	カルデナリン(ファイザー)他
ブナゾシン塩酸塩	デタントール(エーザイ)
ブラゾシン塩酸塩	ミニプレス錠(ファイザー)他

(16) 抗狭心薬

- (注意)
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
硝酸イソソルビド	ニトロール錠・Rカプセル・スプレー(エーザイ)、フランドル錠・テープ(トーアエイヨー―アステラス)、イソコロナール Rカプセル(佐藤-共和、日医工)他
ニトログリセリン	ニトロダーム TTS(ノバルティス)、ニトロペン舌下錠(日本化薬)、バソレーターテープ(三和化学)、ミオコールスプレー(トーアエイヨー―アステラス)、ミリステープ(日本化薬)他

(17) 催眠・鎮静・抗不安薬

(注意)

- 国境を越えた移動には厳重な規制があるので要注意！
→入国する国の規制、また、日本国内へ持ち込む際の規制がある。
- フルニトラゼパム製剤(販売名:サイレース、ロヒプノールなど)の米国への持ち込みは量に関係なく一切禁止。
→不明な点は各国大使館に問い合わせる。
- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ーベンゾジアゼピン系ー	
<u>超短期作用型</u> トリアゾラム	ハルシオン錠(ファイザー)他
<u>短期作用型</u> プロチゾラム	レンドルミン(日本ベーリンガー)他
リルマザホン塩酸塩水和物	リスミー錠(塩野義)他
ロルメタゼパム	エバミール錠(バイエル)、ロラメット錠(あすか-武田)
<u>中期作用型</u> アルプラゾラム	コンスタン錠(武田)、ソラナックス錠(ファイザー)他
ニトラゼパム	ネルボン(第一三共)、ベンザリン(塩野義)他
フルニトラゼパム	サイレース錠(エーザイ)、ロヒプノール錠(中外)他
フルラゼパム塩酸塩	ベノジールカプセル(協和発酵キリン)、ダルメートカプセル(共和)
プロマゼパム	セニラン(サンド)、レキシタン(中外-エーザイ)
ロラゼパム	ワイパックス錠(ファイザー)他
<u>長期作用型</u> ジアゼパム	セルシン錠・散・シロップ(武田)他
<u>超長期作用型</u> ロフラゼプ酸エチル	メイラックス(Meiji Seika ファルマ)他
ーチエノジアゼピン系ー	
エチゾラム	デパス(田辺三菱)他
クロチアゼパム	リーゼ(田辺三菱)他
ーバルビツール酸系ー	
ペントバルビタールカルシウム	ラボナ錠(田辺三菱)
ーその他ー	
<u>超短期作用型</u> エスゾピクロン	ルネスタ錠(エーザイ)
ゾピクロン	アモバン錠(サノフィ-日医工)他
ゾルピデム酒石酸塩	マイスリー錠(アステラス)他
<u>短期作用型</u> プロモバレリル尿素	プロバリン原末(日本新薬)、ブロムワレリル尿素(各社)
<u>メラトニン受容体アゴニスト</u> ラメルテオン	ロゼレム錠(武田)

(18) 抗精神病薬(悪心・嘔吐)

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
アリピプラゾール	エビリファイ(大塚)
オランザピン	ジブレキサ(イーライリリー)他
クエチアピンフマル酸塩	セロクエル(アステラス)他
クロザピン	クロザリル錠(ノバルティス)
スルピリド	ドグマチール(アステラス)、アビリット(大日本住友)他
パリペリドン	インヴェガ錠(ヤンセン)他
プロクロルペラジン	ノバミン(塩野義)
ブロナンセリン	ロナセン(大日本住友)
ペロスピロン塩酸塩	ルーラン錠(大日本住友)他
リスペリドン	リスパダール(ヤンセン)他

(19) 抗うつ薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
エスシタロプラムシュウ酸塩	レクサプロ錠(持田-田辺三菱)
塩酸セルトラリン	ジェイゾロフト錠(ファイザー)
デュロキセチン塩酸塩	サインバルタカプセル(塩野義-イーライリリー)
パロキセチン塩酸塩水和物	パキシル(GSK)他
フルボキサミンマレイン酸塩	デプロメール錠(Meiji Seika ファルマ)、ルボックス錠(アヅヴィ)他
ミルタザピン	リフレックス錠(Meiji seika ファルマ)、レメロン錠(MSD)
ミルナシبران塩酸塩	トレドミン錠(旭化成-ヤンセン)他

(20) 抗てんかん薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ガバペンチン	ガバペン(ファイザー)
カルバマゼピン	テグレート(ノバルティス)他

クロバザム	マイスタン(大日本住友-アルフレッサ)
クロナゼパム	リボトリール(中外)、ランドセン(大日本住友)
ゾニサミド	エクセグラン(大日本住友)他
バルプロ酸ナトリウム	セレニカ R(興和-田辺三菱、興和創薬)、デパケン(協和発酵キリン)他
フェニトイン	アレビアチン錠・散(大日本住友)、ヒダントール(藤永-第一三共)他
フェノバルビタール	フェノバル(藤永-第一三共)、フェノバルビタール(各社)他
フェノバルビタールナトリウム	ルピアール坐剤(久光)、ワコビタール坐剤(高田)
ラモトリギン	ラミクタール(GSK)
レベチラセタム	イーケプラ(ユーシービー-大塚)

(21) 自律神経系作用薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
トフィソパム	グランダキシン(持田)他

(22) 鉄欠乏性貧血薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
一経口用鉄剤ー クエン酸第一鉄ナトリウム	フェロミア(サンノーバ-エーザイ)他
フマル酸第一鉄	フェルムカプセル(日医工)
硫酸鉄	テツクール徐放錠(あすか-武田)、フェロ・グラデュメット錠(アボット)

(23) 痛風・高尿酸血症治療薬<①発作治療薬、②尿酸排泄促進薬、③尿酸生成阻害薬、④尿アルカリ化薬>

(注意)

- プロベネシドは常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
- ベンズブロマロンはプロベネシドと同じ尿酸排泄促進薬に分類されるが使用可能。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 発作治療薬	
コルヒチン	コルヒチン錠「タカタ」(高田)
② 尿酸排泄促進薬	
ベンズブロマロン	ユリノーム錠(鳥居)、ムイロジン細粒(寿)他
③ 尿酸生成阻害薬	
アロプリノール	ザイロリック錠(GSK)、リポール(メディサ-化研生薬)他
トピロキソスタット	ウリアデック錠(三和化学)、トピロリック錠(富士薬品)
フェブキソスタット	フェブリック錠(帝人)
④ 尿アルカリ化薬	
クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム水和物	ウラリット配合錠(日本ケミファ)他

(24) 糖尿病用薬

- (注意)
- インスリンは常時禁止物質。(WADA 禁止表 S4.ホルモン調節薬および代謝調節薬)
 - インスリンを治療目的に使用する場合は、事前に『TUE 申請』が必要。
 - 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－スルホニルウレア系－	
グリクロピラミド	デアメリン S 錠(杏林)
グリベンクラミド	オイグルコン錠(中外)、ダオニール錠(サノフィ)他
グリメピリド	アマリール(サノフィ)他
クロルプロパミド	アベマイド錠(小林化工)
トルブタミド	ヘキストラスチノン(サノフィ)
－ビグアナイド系－	
メトホルミン塩酸塩	メトグルコ錠(大日本住友)、グリコラン錠(日本新薬)他
－インスリン抵抗性改善薬－	
ピオグリタゾン塩酸塩	アクトス(武田)他
－食後過血糖改善薬－	
アカルボース	グルコバイ(バイエル-富士フィルム)他
ボグリボース	ベイスン(武田)他
ミグリトール	セイブル錠(三和化学)
－DPP-4 阻害薬－	
アナグリプチン	スイニー錠(三和化学-興和、興和創薬)
アログリプチン安息香酸塩	ネシーナ錠(武田)
サキサグリプチン水和物	オングリザ錠(協和発酵キリン)
シタグリプチンリン酸塩水和物	グラクティブ錠(小野)、ジャヌビア錠(MSD)
テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物	テネリア錠(田辺三菱-第一三共)
ビルダグリプチン	エクア錠(ノバルティス)
リナグリプチン	トラゼンタ錠(日本ベーリンガー)

－GLP-1 受容体作動薬－ エキセナチド	バイエッタ(アストラゼネカ)、ビデュリオン(アストラゼネカ)
リキシセナチド	リクスミア(サノフィ)
リラグルチド	ビクトーザ(ノボ)
－SGLT2 阻害薬－ イプラグリフロジン L-プロリン	スーグラ錠(アステラス)
カナグリフロジン水和物	カナグル錠(田辺三菱)
ダパグリフロジン	フォシーガ錠(ブリストル-小野)
トホグリフロジン水和物	アプルウェイ錠(サノフィ)、デベルザ錠(興和-興和創薬)
ルセオグリフロジン水和物	ルセフィ錠(大正-大正富山、ノバルティス)

(25) 抗菌薬・抗生物質

- (注意)
- ほとんどの抗菌薬、抗生物質は使用可能。
 - 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－ペニシリン系－ アモキシシリン水和物	アモリン(武田)、サワシリン(アステラス)、パセトシン(協和発酵キリン)、ワイドシリン細粒(Meiji Seika ファルマ)他
アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム	オーグメンチン配合錠(GSK)、クラバモックス小児用配合ドライシロップ(GSK)
アンピシリン水和物	ビクシリンカプセル・ドライシロップ(Meiji Seika ファルマ)
スルタミシリンチル酸塩水和物	ユナシン(ファイザー)
－セフェム系－ <u>第一世代</u> セファクロル	ケフラル(塩野義)他
セファレキシン	L-ケフレックス(塩野義)、ケフレックス(塩野義)、ラリキシン(富山化学-大正富山)、センセファリン(武田)他
セフロキサジン水和物	オラスポア小児用ドライシロップ(アルフレッサ)
<u>第二世代</u> セフォチアムヘキセチル塩酸塩	パンスポリン T 錠(武田)
セフロキシムアキセチル	オラセフ錠(GSK-第一三共)
<u>第三世代(セファロスポリン系)</u> セフィキシム水和物	セフспан(長生堂-日本ジェネリック)他
セフカペンピボキシル塩酸塩水和物	フロモックス(塩野義)他
セフジトレンピボキシル	メイアクト MS(Meiji Seika ファルマ)他
セフジニル	セフゾン(アステラス)他
セフテラムピボキシル	トミロン(富山化学-大正富山)他
セフチブテン水和物	セフテムカプセル(塩野義)
セフボドキシムプロキセチル	バナン(第一三共-GSK)他
－アミノ配糖体系－ カナマイシン－硫酸塩 (略称:カナマイ)	カナマイシン(Meiji Seika ファルマ)

ーテトラサイクリン系ー	
テトラサイクリン塩酸塩	アクロマイシン(ポーラファルマ)
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	ビブラマイシン錠(ファイザー)
ミノサイクリン塩酸塩	ミノマイシン錠・カプセル・顆粒(ファイザー)他
ーマクロライド系ー	
アジスロマイシン水和物	ジスロマック(ファイザー)他
エリスロマイシン	エリスロシン(アボット)、エリスロマイシン錠(沢井)
クラリスロマイシン	クラリシッド(アボット)、クラリス(大正-大正富山)他
ジョサマイシン	ジョサマイシン錠(アステラス)他
ホスホマイシンカルシウム水和物	ホスミン錠・ドライシロップ(Meiji Seika ファルマ)他
ロキシスロマイシン	ルリッド錠(サノフィ)他

(26)化学療法剤

- (注意)
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ーニューキノロン系ー	
塩酸シプロフロキサシン	シプロキサシン錠(バイエル)他
オフロキサシン	タリビッド錠(第一三共)他
シタフロキサシン水和物	グレースビット(第一三共)
トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス(富山化学-大正富山)、トスキサシン錠(アボット)他
ノルフロキサシン	バクシダール錠(杏林)他
メシル酸ガレノキサシン水和物	ジェニナック錠(富山化学-アステラス)
モキシフロキサシン塩酸塩	アベロックス錠(バイエル-富士フィルム)
レボフロキサシン水和物	クラビット錠・細粒(第一三共)他
ーST合剤ー	
スルファメトキサゾール・トリメプリーム	バクタ(塩野義)、バクトラミン配合錠・配合顆粒(中外)他

(27)抗真菌薬

- (注意)
- ほとんどの抗真菌薬は使用可能。
 - 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
イトラコナゾール	イトリゾールカプセル・内用液(ヤンセン)他
テルビナフィン塩酸塩	ラミシール錠(ノバルティス)他
フルコナゾール	ジフルカンカプセル・ドライシロップ(ファイザー)他
ミコナゾール	フロリード(持田)他

(28) 抗ウイルス薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。
- ラピアクタは、1回60mLの点滴になるが、「医療機関の受診過程(救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む)、外科手術、または臨床的検査において正当に受けるもの」は禁止ではない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ーヘルペスウイルス感染症治療薬ー	
アシクロビル	ゾビラックス錠・顆粒・軟膏・クリーム(GSK)他
バラシクロビル塩酸塩	バルトレックス(GSK)他
ビダラビン	アラセナ-A軟膏・Aクリーム(持田)他
ーインフルエンザ治療薬ー	
アマンタジン塩酸塩	シンメトレル(ノバルティス)他
オセルタミビルリン酸塩	タミフル(中外)
ザナミビル水和物	リレンザ(GSK)
ラニナミビルオクタン酸エステル水和物	イナビル吸入粉末剤(第一三共)
ペラミビル水和物	ラピアクタ(塩野義)

(29) ワクチン(保険適用外)

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
インフルエンザ HA ワクチン	インフルエンザ HA ワクチン(各社)
組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	サーバリックス(GSK)
組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	ガーダシル(MSD)

(30) 甲状腺疾患治療薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ー甲状腺ホルモンー	
リオチロンナトリウム	チロナミン錠(武田)
レボチロキシンナトリウム水和物	チラーヂン S(あすか-武田)他

ー抗甲状腺薬ー チアマゾール	メルカゾール錠(中外)
プロピルチオウラシル	チウラジール錠(田辺三菱)、プロパジール錠(中外)

(31) 経口避妊薬(保険適用外)

- (注意)
- 既往歴、喫煙により危険性あり。
 - 性感染症の予防にはならない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
エチニルエストラジオール・デソゲストレル	マーベロン 21、28(MSD)、ファボワール錠 21、28(富士製薬)
エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	オーソ 777-21 錠(ヤンセン-持田)、オーソ M-21 錠(ヤンセン-持田)、シンフェーズ T28 錠(科研)
エチニルエストラジオール・レボノルゲストレル	アンジュ 21 錠、28 錠(あすか-武田)、トリキュラー錠 21、28(バイエル)、ラベルフィーユ 21 錠、28 錠(富士製薬)
レボノルゲストレル	ノルレボ錠(あすか-武田)

(32) 卵胞、黄体、混合ホルモン

- (注意)
- 卵胞ホルモンは経口避妊薬としても用いられる。
 - 黄体ホルモン、卵胞及び黄体ホルモン配合剤は月経周期の移動、避妊にも用いられる。
 - ドロスピレノンの使用は禁止されない。
 - 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ー卵胞ホルモンー 結合型エストロゲン	プレマリン錠(ファイザー)
ー黄体ホルモンー ジドロゲステロン	デュファストン錠(アボット)
ノルエチステロン	ノアルテン錠(塩野義-富士製薬)
ー卵胞・黄体ホルモン配合剤ー エチニルエストラジオール・ドロスピレノン	ヤーズ配合錠(バイエル)
エストラジオール・酢酸ノルエチステロン	メノエイドコンビパッチ(あすか-武田)
エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	ルナベル配合錠 LD、ULD(ノーベル-日本新薬、富士製薬)
エチニルエストラジオール・ノルゲストレル	プラノバール配合錠(あすか-武田)
ノルエチステロン・メストラノール	ソフィア A 配合錠(あすか-武田)、ソフィア C 配合錠(あすか-武田)

(33) 痔疾用薬

(注意)

- 坐薬・軟膏には糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質を含むものがある。(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
- グリセロール(グリセリン)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ー経口剤ー	
トリベノシド	ヘモクロンカプセル(天藤-武田)他
ブロメライン・トコフェロール酢酸エステル	ヘモナーゼ配合錠(ジェイドルフ-堀井)
ー坐薬・軟膏ー	
大腸菌死菌製剤	ポステリザン(軟膏)(マルホ)
トリベノシド・リドカイン	ボラザ G(天藤-武田)
リドカイン・アミノ安息香酸エチル・次没食子酸ビスマス	ヘルミチン S 坐剤(長生堂-日本ジェネリック)

(34) 耳鼻咽喉科用薬

(注意)

- 多くの点鼻薬には、ナファゾリンなどの血管収縮剤や糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質、またはその関連物質が含まれている。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。
 - ナファゾリン、テトラヒドロゾリン、トラマゾリンなどのイミダゾール誘導体は、点鼻などの局所使用は許される。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ー血管収縮薬ー	
ナファゾリン硝酸塩	プリピナ液(ノバルティス)
塩酸テトラヒドロゾリン	テトラヒドロゾリン鼻用スプレー「ミナト」(原沢-ミナト)
トラマゾリン塩酸塩	トラマゾリン点鼻液「AFP」(アルフレッサ)
ーアレルギー性鼻炎治療薬ー	
クロモグリク酸ナトリウム	インタール点鼻液(サノフィ)他
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン点鼻液(ノバルティス)他
フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルナーゼ(GSK)他

(35)眼科用薬<①感染症、②ビタミン類・疲れ目、③アレルギー性結膜炎、④緑内障治療薬、⑤その他>

(注意)

- 眼科用薬には、ナファゾリンなどの血管収縮剤や、糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質または関連物質が含まれているものがある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。
 - ナファゾリンなどのイミダゾール誘導體は、点眼などの局所使用は許される。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
- 緑内障治療薬のドルゾラミド(トルソプト点眼液)および布林ゾラミド(エイゾプト懸濁性点眼液)の局所使用は禁止されない。
- ベータ遮断薬は、特定競技において禁止。(WADA 禁止表 P2.ベータ遮断薬)
 - ベータ遮断薬は8種目の競技において禁止(アーチェリー、射撃は常時禁止)。
 - ベータ遮断薬を含む配合剤(アゾルガ配合懸濁性点眼液、コソプト配合点眼液、ザラカム配合点眼液、デュオトラバ配合点眼液 等)に注意。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 感染症	
－抗生物質－	
エリスロマイシンラクチオン酸塩・コリスチンメタンサルホン酸ナトリウム	エコリシン(参天)他
ゲンタマイシン硫酸塩	リフトマイシン点眼液(わかもと)他
－抗菌薬－	
オフロキサシン	タリビッド(参天)他
ガチフロキサシン水和物	ガチフロ点眼液(千寿-武田)
トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス点眼液(富山化学-大塚)、トスフロ点眼液(日東メディック)
モキシフロキサシン塩酸塩	ベガモックス点眼液(日本アルコン)
レボフロキサシン水和物	クラビット点眼液(参天)他
－抗ウイルス薬－	
アシクロビル	ゾビラックス眼軟膏(GSK-参天)他
② ビタミン類・疲れ目	
シアノコバラミン	サンコバ点眼液(参天)、ソフティア点眼液(千寿-武田)他
フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	FAD 点眼液(各社)、フラビタン(トーアエイヨー-アステラス)他
③ アレルギー性結膜炎	
エピナスチン塩酸塩	アレジオン点眼液(参天)
オロパタジン塩酸塩	パタノール点眼液(日本アルコン-協和発酵キリン)
クロモグリク酸ナトリウム	インタール点眼液(サノフィ)他
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン点眼液(日本アルコン)他
トラニラスト	リザベン点眼液(キッセイ)、トラメラス(ニッテン-日本点眼薬)他
ペミロラストカリウム	アレギサール点眼液(参天)、ペミラストン点眼液(アルフレッサ)他
レボカバステチン塩酸塩	リボスチン点眼液(ヤンセン-参天、日本新薬)他

④ 緑内障治療薬	
イソプロピルウノプロストン	レスキュラ点眼液(アールテック-参天)他
タフルプロスト	タプロス(参天)
トラボプロスト	トラバタンズ点眼液(日本アルコン)
ラタノプロスト	キサラタン点眼液(ファイザー)他
ドルゾラミド塩酸塩	トルソプト点眼液(MSD)
プリンゾラミド	エイゾプト懸濁性点眼液(日本アルコン)
⑤ その他	
ジクアホソルナトリウム	ジクアス点眼液(参天)
ホウ酸・塩化ナトリウム・塩化カリウム・乾燥炭酸ナトリウム・リン酸水素ナトリウム水和物	人工涙液マイティア点眼液(千寿-武田)
ヒアルロン酸ナトリウム	オペガン(生化学-参天)、オペリード(資生堂-千寿、武田)、ヒーロン(エイエムオー)、ヒアレイン(参天)他
レバミピド	ムコスタ点眼液 UD(大塚)
プラノプロフェン	ニフラン点眼液(千寿-武田)他

(36) 口腔用薬

- (注意)
- 糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用はすべて禁止 (WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドの口腔内の疾患に対する局所的使用は禁止されない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－含嗽薬－	
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール(日本新薬)、マズレニンガーグル散(丸石-ニプロ)他
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・炭酸水素ナトリウム	含嗽用ハチアズレ顆粒(東洋製化-小野)他
ポビドンヨード	イソジンガーグル液(Meiji Seika ファルマ)他
－口腔内炎症治療薬－	
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール ST 錠口腔用(日本新薬)、他
デキサメタゾン	アフタゾロン口腔用軟膏(昭和薬化工)、デキサルチン口腔用軟膏(日本化薬)他
トリアムシノロンアセトニド	アフタッチ口腔用貼付剤(帝人)、ケナログ口腔用軟膏(ブリストル)他
－殺菌消毒薬－	
デカリニウム塩化物	SPトローチ「明治」(Meiji Seika ファルマ)他

(37) 皮膚外用薬

- (注意)
- 糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用はすべて禁止 (WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドの皮膚の疾患に対する局所的使用は禁止されない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－抗生物質製剤－ オキシテトラサイクリン塩酸塩・ポリミキシン B 硫酸塩	テラマイシン軟膏(ポリミキシン B 含有)(陽進堂)
クリンダマイシンリン酸エステル	ダラシン T(佐藤)他
ゲンタマイシン硫酸塩	ゲンタシン(MSD)他
ナジフロキサシン	アクアチム(大塚)他
フラジオマイシン硫酸塩	ソフラチュール貼付剤(サノフィ)
フラジオマイシン硫酸塩・バシトラシン	バラマイシン軟膏(東洋製化-小野)
－アトピー性皮膚炎治療薬－ タクロリムス水和物	プロトピック軟膏(アステラス-マルホ)他
－外用抗ヒスタミン剤－ ジフェンヒドラミン	レスタミンコーワクリーム(興和-興和創薬)他
－抗真菌薬－ エフィナコナゾール	クレナフィン爪外用液(科研)
ネチコナゾール塩酸塩	アトラント(久光-田辺三菱、鳥居)
テルビナフィン塩酸塩	ラミシール(ノバルティス)他
ブテナフィン塩酸塩	メンタックス(科研)、ボレー(久光)他
－非ステロイド性消炎鎮痛薬－ インドメタシン	インサイドパップ(久光)、イドメシンコーワ(興和-興和創薬)、カトレップ(帝國)他
ウフェナマート	コンベック(田辺三菱)他
ケトプロフェン	ミルタックスパップ(ニプロパッチ-第一三共エスファ)、モーラス(久光-祐徳)他
ジクロフェナクナトリウム	ボルタレン(同仁-ノバルティス)、ナボール(久光)他
フェルピナク	ナパゲルン(ファイザー)他
フルルビプロフェン	アドフィードパップ(リードケミカル-科研)、ステイバンパップ(トクホン-大正富山)、フルルバンパップ(大協-科研、大正富山、三笠)、ヤクバンテープ(トクホン-科研、大正富山)他
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン(リードケミカル-第一三共)他
－副腎皮質ステロイド外用剤－ ジフルコルトロン吉草酸エステル	ネリゾナ(バイエル)他
ジフルプレドナート	マイザー(田辺三菱)他
デキサメタゾンプロピオン酸エステル	メサデルム(岡山大鵬-大鵬)他
ヒドロコルチゾン酪酸エステル	ロコイド(鳥居)他
プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル	リドメックスコーワ(興和-興和創薬)他
ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	リンデロン-DP(塩野義)、ダイプロセル(佐藤)他
ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	アンテベート(鳥居)他
ベタメタゾン吉草酸エステル	ベトネベート(GSK-第一三共)、リンデロン-V(塩野義)他
－副腎皮質ステロイド・抗生物質配合剤－ ベタメタゾン吉草酸エステル・ゲンタマイシン硫酸塩	リンデロン-VG(塩野義)、デルモゾール G(岩城)他

ー尋常性ざ瘡治療剤ー アダパレン	ディフェリンゲル(ガルデルマ-塩野義)
イブプロフェンピコノール	スタデルム(鳥居)、ベシカム(久光)
ー皮膚保護剤ー 亜鉛華軟膏	亜鉛華軟膏(各社)
ヘパリン類似物質	ヒルドイド(マルホ)他
ーその他ー マキサカルシトール	オキサロール軟膏・ローション(中外-マルホ)他

(38)消毒薬

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
クロルヘキシジングルコン酸塩	ヒビテン(大日本住友)他
ベンザルコニウム塩化物	オスバン(日本製薬-武田)、チアミトール(丸石)、逆性石ケン(各社)他
ポビドンヨード	イソジン(Meiji Seika ファルマ)、ネオヨジン(岩城)他

7. 歯科領域で汎用される医療用医薬品 2015 年版

(注意)

- 禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法(添付文書記載の用法・用量)を守れば許可される国内の医療用医薬品の例をあげました。
- 禁止物質には「常に禁止される物質(競技会(時)及び競技会外)」と「競技会(時)に禁止される物質」があります。
- 使用可能薬リストの医薬品は、主要な製品を記載してあります。「他」と書いてあるものは、記載以外にも医薬品があることを意味します。メーカー名は(製造販売-発売・販売)です。
- 生薬や植物由来成分等は、その全ての詳細な内容成分を把握することが困難なため、これらを含む製品は、基本的に使用可能薬には掲載していません。
- ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。
- 歯科麻酔におけるフェリプレシンの局所投与は禁止されません。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
- エピネフリン(アドレナリン)の局所使用(鼻、眼等)あるいは局所麻酔薬との同時投与は禁止されません。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
- 糖質コルチコイドの経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用は競技会(時)禁止。(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドは投与形態により申請方法が異なる。経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用は TUE 申請、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 局所麻酔薬	
アミノ安息香酸エチル	ハリケイン(アグサジャパン-サンデンタル)、ビーゾカイン 歯科用ゼリー(福地-ビーブランド)他
プロピトカイン塩酸塩・フェリプレシン	歯科用シタネスト-オクタプレシン(デンツプライ三金)
メピバカイン塩酸塩	スカンドネスト(日本歯科)
リドカイン・エピネフリン(アドレナリン)	オーラ注 歯科用(昭和薬化工)、歯科用キシロカイン(デンツプライ三金)他
② 吸入麻酔薬	
亜酸化窒素	笑気ガス(各社)他
③ 歯科用軟膏・口腔用軟膏・挿入剤等	
オキシテトラサイクリン塩酸塩	オキシテトラコーン 歯科用挿入剤(昭和薬化工)
オキシテトラサイクリン塩酸塩・ヒドロコルチゾン	テラ・コートリル軟膏(陽進堂)
テトラサイクリン塩酸塩	テトラサイクリン塩酸塩パスタ(昭和薬化工)
ミノサイクリン塩酸塩	ペリオクリン 歯科用軟膏(サンスター)、ペリオフィール 歯科用軟膏(昭和薬化工)
クロルヘキシジン塩酸塩・ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ヒドロコルチゾン酢酸エステル・ベンザルコニウム塩化物	デスパコーワ 口腔用クリーム(興和-興和創薬)
ヒドロコルチゾン酢酸エステル・アミノ安息香酸エチル・ヒノキチオール	ヒノポロン 口腔用軟膏(昭和薬化工)
デキサメタゾン	アフタゾロン 口腔用軟膏(昭和薬化工)、デキササルチン 口腔用軟膏(日本化薬)他

トリアムシノロンアセトニド	アフタッチ口腔用貼付剤(帝人)、ケナログ口腔用軟膏(ブリストル)他
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	サルコートカプセル外用(帝人)
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール ST 錠口腔用(日本新薬)他
塩化ナトリウム・塩化カリウム・塩化カルシウム水和物・塩化マグネシウム・リン酸ニカリウム	サリベートエアゾール(帝人)
④ トローチ・含嗽薬	
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール(日本新薬)、マズレニンガーグル散(丸石-ニプロ)他
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・炭酸水素ナトリウム	含嗽用ハチアズレ顆粒(東洋製化-小野)他
セチルピリジニウム塩化物水和物	セチルピリジニウム塩化物トローチ(岩城)
デカリニウム塩化物	SPトローチ「明治」(Meiji Seika ファルマ)他
ドミフェン臭化物	オラドール(テバ)
フラジオマイシン硫酸塩	デンターグル含嗽用散(昭和薬化工)
ベンゼトニウム塩化物	ネオステリングリーンうがい液(日本歯科)他
ポビドンヨード	イソジンガーグル液(Meiji Seika ファルマ)他
⑤ 解熱・鎮痛・抗炎症薬	
アスピリン	アスピリン(各社)
アスピリン・ダイアルミネート	バファリン配合錠 A330(ライオン-エーザイ)他
アセトアミノフェン(パラセタモール)	アニルーメ(長生堂-日本ジェネリック)、カロナール(昭和薬化工)他
アセメタシン	ランツジールコーワ錠(興和-興和創薬)
アンフェナクナトリウム水和物	フェナゾックスカプセル(Meiji Seika ファルマ)
イソプロピルアンチピリン・アセトアミノフェン・アリルイソプロピルアセチル尿素・無水カフェイン	SG 配合顆粒(塩野義)
イブプロフェン	ブルフェン(科研)他
インドメタシン	インテバン SP(帝國)他
エトドラク	オステラック錠(あすか-武田)、ハイペン錠(日本新薬)他
エピリゾール(メピリゾール)	メブロン顆粒(第一三共)
オキサプロジン	アルボ錠(大正-大正富山)
ケトプロフェン	アネオール坐剤(岩城)、エパテック坐剤(ビオメディクス)他
ザルトプロフェン	ソルトン錠(日本ケミファ)、ペオン錠(ゼリア)他
ジクロフェナクナトリウム	ボルタレン(ノバルティス)他
シメトリド・無水カフェイン	キョーリン AP2 配合顆粒(杏林)
セレコキシブ	セレコックス錠(アステラス)
チアラミド塩酸塩	ソランタール錠(アステラス)
ナプロキセン	ナイキサン錠(田辺三菱-田辺製薬販売)
プラノプロフェン	ニフラン(田辺三菱)他
フルルビプロフェン	フロベン(科研)他
メフェナム酸	ポンタール(第一三共)他
モフェゾラク	ジソペイン錠(田辺三菱)
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン(第一三共)他
ロルノキシカム	ロルカム錠(大正-大正富山)

⑥ 抗菌薬・抗生物質・抗真菌薬	
ーペニシリン系ー アモキシシリン水和物	アモリン(武田)、サワシリン(アステラス)、パセトシン(協和発酵キリン)、ワイドシリン細粒(Meiji Seika ファルマ)他
アンピシリン水和物	ビクシリンカプセル・ドライシロップ(Meiji Seika ファルマ)
ーセフェム系ー 第一世代 セファクロル	ケフラル(塩野義)他
セファレキシン	ケフレックス(塩野義)、ラリキシン(富山化学-大正富山)、センセファリン(武田)他
第二世代 セフロキシムアキセチル	オラセフ錠(GSK-第一三共)
第三世代 セファペンピボキシル塩酸塩水和物	フロモックス(塩野義)他
セフジレンピボキシル	メリアクトMS(Meiji Seika ファルマ)他
セフジニル	セフゾン(アステラス)他
セフテラムピボキシル	トミロン(富山化学-大正富山)他
セフポドキシムプロキセチル	バナナ(第一三共-GSK)他
ーマクロライド系ー アジスロマイシン水和物	ジスロマック錠・SR(ファイザー)他
エリスロマイシン	エリスロシン(アボット)、エリスロマイシン錠(沢井)
クラリスロマイシン	クラリシッド(アボット)、クラリス(大正-大正富山)他
ジョサマイシン	ジョサマイシン錠(アステラス)他
ロキシスロマイシン	ルリッド錠(サノフィ)他
ーテトラサイクリン系ー テトラサイクリン塩酸塩	アクロマイシン(ポーラファルマ)
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	ビブラマイシン錠(ファイザー)
ミノサイクリン塩酸塩	ミノマイシン錠・カプセル・顆粒(ファイザー)他
ーニューキノロン系ー オフロキサシン	タリビッド錠(第一三共)他
トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス錠(富山化学-大正富山)、トスキサシン錠(アボット)他
レボフロキサシン水和物	クラビット錠・細粒(第一三共)他
ー抗真菌薬ー イトラコナゾール	イトリゾールカプセル・内用液(ヤンセン)他
ミコナゾール	フロリドゲル(持田-昭和薬化工)
⑦ 健胃消化整腸薬	
ー酸中和薬ー 合成ケイ酸アルミニウム	アルミワイス(マイラン-ファイザー)、合成ケイ酸アルミニウム(各社)
天然ケイ酸アルミニウム	アドソルビン原末(第一三共)
酸化マグネシウム (略称:カマ、カマグ)	酸化マグネシウム(各社)
炭酸水素ナトリウム	炭酸水素ナトリウム(各社)
ー粘膜抵抗強化薬ー アズレンスルホン酸ナトリウム水和物 ・L-グルタミン	マーズレン(寿)他
スクラルファート水和物	アルサルミン(中外)他

－胃粘膜微小循環改善薬－ ベネキサート塩酸塩ベータデクス	ウルグートカプセル(塩野義)他
－総合消化酵素－ ジアスメン・ジアスターゼ・オノテース・モ ルシン・ボンラーゼ・セルロシン A.P.・パン クレアチン・ポリパーゼ・オノプローゼ A	タフマック E(小野)
濃厚膵臓性消化酵素・細菌性脂肪分解 酵素・アスペルギルス産生消化酵素・織 維素分解酵素	ベリチーム配合顆粒(塩野義)
ヒロダーゼ・マミターゼ・リパーゼ A・セル ラーゼ AP3・濃厚パンクレアチン	ポリトーゼ(武田)
－整腸薬－ 耐性乳酸菌	エンテロノン-R 散(味の素)、エントモール散(長生堂-日本ジェネリ ック)、ビオフェルミン R(ビオフェルミン-武田)、ラックビーR 散(興和 -興和創薬)、レベニン(わかもと)他
ビフィズス菌	ビオフェルミン錠剤(ビオフェルミン-武田)、ビフィズゲン散(日東-大 日本住友)、ラックビー微粒 N(興和-興和創薬)他
酪酸菌	ミヤ BM(ミヤリサン)
ラクトミン・糖化菌	ビオフェルミン配合散(ビオフェルミン-武田)
⑧ 精神神経用薬	
－ベンゾジアゼピン系－ <u>超短期作用型</u> トリアゾラム	ハルシオン錠(ファイザー)他
<u>短期作用型</u> プロチゾラム	レンドルミン(日本ベーリンガー)他
リルマザホン塩酸塩水和物	リスミー錠(塩野義)他
ロルメタゼパム	エバミール錠(バイエル)、ロラメット錠(あすか-武田)
<u>中期作用型</u> アルプラゾラム	コンスタン錠(武田)、ソラナックス錠(ファイザー)他
ニトラゼパム	ネルボン(第一三共)、ベンザリン(塩野義)他
フルニトラゼパム	サイレース錠(エーザイ)、ロヒプノール錠(中外)他
フルラゼパム塩酸塩	ベノジールカプセル(協和発酵キリン)、ダルメートカプセル(共和)
ブロマゼパム	セニラン(サンド)、レキシタン(中外-エーザイ)
ロラゼパム	ワイパックス錠(ファイザー)他
<u>長期作用型</u> ジアゼパム	セルシン錠・散・シロップ(武田)他
<u>超長期作用型</u> ロフラゼパム酸エチル	メイラックス(Meiji Seika ファルマ)他
－チエノジアゼピン系－ エチゾラム	デパス(田辺三菱)他
クロチアゼパム	リーゼ(田辺三菱)他
－バルビツール酸系－ ペントバルビタールカルシウム	ラボナ錠(田辺三菱)
－その他－ <u>超短期作用型</u> ゾピクロン	アモバン錠(サノフィ-日医工)他
<u>短期作用型</u> ブロムバレリル尿素	ブロバリン原末(日本新薬)、ブロムワレリル尿素(各社)

⑨ 抗ヒスタミン薬	
クレマスチンフマル酸塩	タベジール(ノバルティス)他
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ポララミン錠・散・シロップ・ドライシロップ(高田)他
クロルフェニラミンマレイン酸塩	アレルギーン散(第一三共)他
ジフェンヒドラミン塩酸塩	ペナ錠(佐藤)、レスタミンコーワ錠(興和-興和創薬)
シプロヘプタジン塩酸塩水和物	ペリアクチン(日医工)他
ホモクロルシクリジン塩酸塩	ホモクロミン錠(エーザイ)他
メキタジン	ゼスラン(旭化成)、ニポラジン(アルフレッサ)他
⑩ ビタミン製剤	
ピリドキサルリン酸エステル水和物	ピドキサール錠(中外)他
フルスルチアミン	アリナミンF糖衣錠(武田)他
フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	フラビタン(トーアエイヨー-アステラス)他
チアミン硝化物・リボフラビン・ピリドキシン塩酸塩・ニコチン酸アミド・パントテン酸カルシウム・アスコルビン酸	ワッサーV 配合顆粒(東亜-サンド)
⑪ 止血薬	
カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物	アドナ錠・散(田辺三菱-田辺製薬販売)他
トラネキサム酸	トランサミンカプセル・錠・散・シロップ(第一三共)他
⑬ その他	
カルバマゼピン	テグレートール(ノバルティス)他

8. 使用可能薬リスト 2015 年版 携帯用

- 本リストは、主に選手・トレーナー等が切り離して携帯することを想定して作成しています。
- 26 ページから 65 ページの使用可能薬リストの中から、主に急性の症状に用いられる医薬品(内用薬・外用薬)をピックアップして掲載しています。
- 本リストでは、禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法等を守れば許可される国内の医薬品の例を挙げています。
- 本リストは一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。
- 注射の場合、取扱いが異なる場合があるので、不明点等は別途、スポーツファーマシスト(4 ページ)等にご相談下さい。その他、疑問点がある場合にも、自己判断せずに必ずスポーツファーマシスト等にご相談下さい。

一般用医薬品・要指導医薬品(薬局で買える薬)使用可能薬例 2015年版

- 熱・痛み(坐薬を含む) -

エルペインコーワ、グレラン・ビット、タイレノール A、ノーシンホワイトジュニア、バイエルアスピリン、パファリン A、リングルアイビー200、ルミフェン、ロキソニン S、アルピニーA 坐剤、こどもパブロン坐薬 他

- かぜ -

新エスタック 12、新エスタック「W」、新ルルエース、ストナアイビー、ニシミドン液小児用 他

- せき・たん(トローチ等含む) -

エスペナンせきどめ内服液エース、コンタックせき止め ST、ストナ去たんカプセル、ニッシンせき止め顆粒、新パブロンせき止め液、新ブロン液エース、コデミン G トローチ、新エスペナントローチ、ベンザブロックトローチ 他

- 胃炎・腹痛・健胃・消化薬 -

アバロン Z、イノセアワンプロック、ガスター10、ガスドック 10、コランチル A 顆粒、サクロン Q、ストパン、ブスコパン A 錠、ブスコパン M カプセル、イノセアバランス、ガストール錠、スクラート胃腸薬(顆粒)、パンシロン N10、ミルマグ液、第一三共胃腸薬コアブロック錠剤、エビオス錠、ビオラクターゼ、ミヤリサン U 錠、新ビオヂアス、ワカモト消化薬 他

- 便秘 -

カイベール C、コーラック、コーラックソフト、サトラックスエース、新レシカルボン坐剤 S、スラーリア便秘薬、ツージーQ、ピオフェルミン便秘薬、ピコラックス、ラクトール S 他

- 下痢・整腸薬 -

新タントーゼ A、小中学生用ストッパ下痢止め EX、ストッパ下痢止め EX、トメダインコーワフィルム、新ピオフェルミン S 錠、ロペラマックサット、強ミヤリサン(錠)、ヤクルト BL 整腸薬、ラッパ整腸薬 BF、わかもと整腸薬 他

- 痔 -

ブリザクールジェル、ボラギノール M 軟膏、ボラギノール M 坐剤、レック H 軟膏、レック H 坐剤 他

- アレルギー -

<内服薬>アレギサル鼻炎、アレギトール、アレグラ FX、アレジオン 10、アレルギー錠、エバステル AL、コンタック 600ST、コンタック鼻炎 Z、ザジテン AL 鼻炎カプセル、スカイナーAL 錠、ストナリニガード、ストナリニ Z、タミナス A 錠、ピロッド A 錠、プラタギン、レスタミンコーワ糖衣錠 他
<点鼻薬>ケールワン鼻スプレー、コンタック鼻炎スプレー(季節性アレルギー専用)、ザジテン AL 鼻炎スプレーα、新ルル点鼻薬、ナザール AR(季節性アレルギー専用)、ナシピン M スプレー、パブロン点鼻クイック、ベンザ鼻炎スプレー 他

- 吐き気・乗り物酔い -

アネロンチュアブル、ケーシック、スカイラブソフト、こどもセンバア S、センバア S、トラベルミン、トラベルミン チュロップぶどう味、トラベルミン チュロップレモン味、トリブラ S 錠、ポード錠 他

- 不眠 -

グ・スリーP、ドリエル、ナイトール、ネオデイ、プロリズム 他

- 貧血 -

エミネトン、ファイチ、ヘマニック、マスチゲン-S 錠 他

- 目薬 -

<感染症>抗菌アイリスα サンテ抗菌新目薬、ノアールワン SG、マイティア抗菌目薬、ロート抗菌目薬 EX 他
<ビタミン類・疲れ目>アイリス Rinc、サンテ 40 プラス、サンテドゥ、ポボンピュメリ目薬 R、ロートゴールド 40 他
<人口涙液・ドライアイ>New マイティア CL、アイリス CL-I ネオ、アスバラ目薬ソフト、スマイルコンタクトピュア、ソフトサンティア、なみだロートコンタクト 他
<洗眼薬>アイボン c、アルガード目すっきり洗眼薬α、スマイルアミノウォッシュ、フレッシュアイ AG、ロート C キューブアミノモイスト 他
<アレルギー>アイフリーコーワ AL、アイリス AG ガード、エーゼットアルファ、ザジテン AL 点眼薬、サンテアルフリー新目薬、ノアール P ガード点眼液、ロートアルガードプレテクト 他

- うがい薬・口腔内殺菌薬・口内炎用薬 -

イソジンうがい薬、フィニッシュコーワ、うがい薬コロロ SP、パブロンうがい薬 AZ、ルルのどスプレー、ヴィックスメディケイテッドドロップ B・C・GF・L・O・R・U、のどぬーるスプレークリアミント a、ノバポン L トローチ、ペレックストローチ、サトウ口内軟膏 他

- 皮膚外用薬 -

<消毒薬>イソジンきず薬、オキシドール、オスバン S、キズアワワ、ケンエイオダイン、新レブメント-FN、ヒビスコール S、マキロン S、ムヒのきず液、ラビネット P 他
<しもやけ・あかぎれ>HP クリーム、白色ワセリン 他
<液体絆創膏>コロスキん、サカムケア a 他
<痛み・炎症・かゆみ>アイスラブゲル、アンメルツココヨコ、イブアウターゲル、イブアウターパップ L、オムニードケトプロフェンパップ、サロンパス EX、ジクロテクトテープ、ゼノールエクサム FX、チール A、トクホン E、ナボリン フェルピナク 70、パスタタイム FX7、貼るアクテージ L、バンテリンコーワクリーム LT、バンテリンコーワ新ミニパット、ボルタレン AC ローション、メンブラ A、オイラックスソフト、近江兄弟社メンターム EX ソフト、フェミニーナ軟膏 S、ムヒ S、ムヒソフト GX 乳状液、ユースキン I、ユースキン N、レスタミンコーワパウダークリーム、ロバック U 他
<殺虫薬>キンカン虫よけスプレーP、サラテクト FA、ムヒの虫よけムシペールα 他
<にきび・化膿>エバユースにきび薬、オロナイン H 軟膏、ドルマイシン軟膏、ペアアクネクリーム W、レダマイシン軟膏 他
<水虫>ウィンダムクリーム、エーワン L スプレー、スコルバ EX、ダマリン L、ダマリンエース、トークール液、ニュータムシチンキゴールド a、バリアクト Hi クリーム、ラマストン MX2 ゲル、ラミシル AT 液 他
<ヘルペス>アクチビア軟膏、アラセナ S、ヘルペシア軟膏 他

※ 薬を購入する際には、名前全体が完全に一致することを確かめて下さい。ほとんど同じ名前でも、接頭語として「新」がついたり、接尾語として「錠」や「会社名」、アルファベットがついているだけで、成分の組成が異なることもあります。

(例) ○:ストナアイビー ×:ストナアイビージェル(禁止物質のメチルエフェドリンを含む)

※ 糖質コルチコイドの耳・口腔内・皮膚・歯肉・鼻・眼・肛門周囲の疾患に対する局所使用は禁止されません。

- 熱・痛み(片頭痛含む) -

カロナール、PL 配合顆粒、ピーエイ配合錠、ベレックス配合顆粒、ミグレン、アスピリン、インフリー、セレコックス、ナイキサン、ハイベン、パキソ、ブルフェン、フロベン、ボルタレン、ポンタール、モービック、ロキソニン、ロルカム、ソランタール、リリカ、ジヒデルゴット、アマージ、イミグラン、ゾーミッグ、マクサルト、レルパックス、テラナス、ミグシス 他

- 筋肉の痛み・こわばり -

アロフト、テルネリン、ミオナール、リンラキサー 他

- せき・たん(酵素製剤含む) -

アストミン、アスピリン、コデインリン酸塩、コルドリン、トクレスパンスール、フスタゾール、フラベリック、メジコン、レスプレン、エンピナーズ・P、クリアナール、ノイチーム、ビソルボン、ムコソルバン、ムコダイン 他

- 気管支喘息・COPD -*

テオドール、ネオフィリン、アコレート、オノン、キプレス、シングレア、アトロVENT、スピリーバ、テルシガン、アイロミールエアゾール、オーキシスタービューヘイラー、サルタノールインヘラー、セレベント、ベネトリン吸入液、アドエア、シムビコートタービューヘイラー、フルティフォームエアゾール、キューバルエアゾール、パルミコート、フルタイド 他
※吸入サルブタモール(24時間で最大 1600 μ g)、吸入ホルモテロール(24時間で最大投与量 54 μ g)、吸入サルメテロールが製造販売会社によって推奨される治療法で使用される場合は禁止されない。糖質コルチコイドの吸入使用は禁止されない。

- アレルギー(点鼻薬含む) -

アイピーディ、アゼプチン、アタラックス、アレグラ、アレジオン、アレルギン、アレロック、インター、エバステル、クラリチン、ザイザル、ザジテン、ジルテック、ゼスラン、タベジール、タリオン、トランサミン、バイナス、ヒベルナ、ペリアクチン、ポララミン、リザベン、レスタミンコーワ、レミカット、インター点鼻液、ザジテン点鼻液、トラマゾリン点鼻液、フルナーゼ 他

- めまい・乗り物酔い -

トラベルミン配合錠、ドラマミン、セファドール、メリスロン 他

- 胃炎・胃潰瘍・腹痛・健胃 吐き気・消化 -

アシン、アルタット、ガスター、ザンタック、タガメット、オメプラール、オメプラゾン、タケブロン、ネキシウム、パリエット、合成ケイ酸アルミニウム、マーロックス、アルサルミン、イサロン、ウルグート、ガストローム、セルベックス、プロマック、マーズレン、ムコスタ、プスコパン、ロートエキス、ガスコン、ガスマチン、ガナトン、ナウゼリン、プリンペラン、ペリチウム配合顆粒、タフマックE、ポリトーゼ 他

- 便秘 -

アミティーザ、酸化マグネシウム、新レシカルボン坐剤、テレミンソフト、バルコーゼ、ブルゼニド、ラキソベロン 他

- 下痢・整腸(過敏性腸症候群を含む) -

アドソルピン、キョウベリン、タンニン酸アルブミン、ロベミン、アタパニン、乾燥酵母、ピオフェルミンR、ピオフェルミン配合散、ミヤBM、ラックビー微粒N、イリボー、コロネル、セレキノン、チアトン、トランコロン 他

- 痔 -

ヘモクロン、ヘモナーゼ、ポステリザン(軟膏)、ボラザG、ヘルミチンS 他

- 不眠・不安 -

アモバン、エバミール、コンスタン、サイレース、セルシシ、ソラナックス、デパス、ハルシオン、プロムワレリル尿素、ベノジール、ベンザリン、マイスリー、メイラックス、ラボナ、リーゼ、リスミー、ルネスタ、レキソタン、レンドルミン、ロゼレム、ロヒプノール、ロラメット、ワイパックス 他

- 貧血 -

テツクール、フェロ・グラデュメット、フェルム、フェロミア 他

- 感染症 -

<抗菌薬・抗生物質> サワシリン、ビクシリン、ケフラール、オラセフ、セフゾン、パナン、フロモックス、メイアクトMS、カナマイシン、アクロマイシン、ピブラマイシン、ミノマイシン、エリスロマイシン、クラリシッド、クラリス、ジスロマック、ジョサマイシン、ホスミシン、ルリッド、アベロックス、オゼックス、クラビット、グレースピット、ジェニナック、シプロキササン、タリビッド、バクシダール、バクタ 他
<抗真菌薬> イトリゾール、ジフルカン、フロリード、ラミシール 他
<抗ウイルス薬> アラセナーA、ゾビラックス、バルトレックス、イナビル、シンメトレル、タミフル、ラビアクタ、リレンザ 他

- ワクチン -

インフルエンザ HA ワクチン、ガーダシル、サーバリックス 他

- 卵胞・黄体ホルモン -

ソフィアA、ソフィアC、デュファストン、ノアルテン、プラノバル、プレマリオン、メノエイドコンビパッチ、ヤーズ、ルナベル 他

- 目薬 -

<感染症> エコリシン、リフタマイシン、オゼックス、ガチフロ、クラビット、タリビッド、トスフロ、ベガモックス、ゾビラックス 他
<ビタミン類・疲れ目> FAD、サンコバ、ソフティア、フラビタン 他
<アレルギー> アレギサール、アレジオン、インター、ザジテン、パタノール、リザベン、リボスチン 他
<その他> ジクアス、ニフラン、ヒアレイン、マイティア、ムコスタ 他

- うがい薬・口腔内殺菌薬・口内炎用薬 -

アズノール、イソジンガーゲル、含嗽用ハチアズレ、マズレニンガーゲル、アフタゾロン、アフタッチ、ケナログ、デキサルチン、SPトローチ 他

- 皮膚外用薬 -

<抗生物質> アクアチム、ゲンタシン、ダラシンT、バラマイシン 他
<抗真菌薬> アトラン、クレナフィン、メンタックス、ラミシール 他
<消炎鎮痛> アドフィード、インサイドパップ、コンベック、ナパゲルン、ボルタレン、モーラス、ロキソニン 他
<かゆみ・炎症・にきび> レスタミンコーワクリーム、アンテベート、ネリゾナ、ベトネベート、マイザー、メサデルム、リンデロン-DP、リンデロン-VG、ロコイド、スタデルム、ディフェリン 他
<皮膚保護> 亜鉛華軟膏、ヒルドイド 他
<消毒薬> イソジン、オスバン、ヒピテン 他

※ 糖質コルチコイドの耳・口腔内・皮膚・歯肉・鼻・眼・肛門周囲の疾患に対する局所使用は禁止されません。

※ 右記のQRコードを読み込むとドーピング防止ホットラインのリストが表示されます。医薬品のお問い合わせはこちらまで →



9. よくある質問

(JADA ホームページ: <http://www.realchampion.jp/faq> より転載、一部改変)

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

<ドーピングについて>

Q ドーピングとは何ですか？

A ドーピングとは、スポーツの価値・精神に反する行為です。競技力を高めるために禁止された薬物や方法などを使用する等、全世界的に定められたルールに基づき、厳しく禁止されています。ドーピング検査で禁止物質が検出されれば、治療目的でその物質を使用していた場合でも制裁が課されることもありますので、ルールをよく理解しておきましょう。

Q ドーピングは何故いけないのですか？

A 全世界で共有されているスポーツ全体のルールです。(1)フェアプレーの精神に反する、(2)アスリートの健康を害する、(3)反社会的行為である、といった、スポーツの価値の根幹を損なう、スポーツに正々堂々と向かうことができない「ずる」くて「危険」な行為でもあります。

Q 禁止物質・禁止方法を教えてください

A 禁止物質・禁止方法は、世界アンチ・ドーピング機構(WADA)の禁止表に掲載されており、次の3つに分類されています。

- I. 常に禁止される物質と方法(競技会(時)および競技会外)
- II. 競技会(時)に禁止対象となる物質と方法
- III. 特定競技において禁止される物質

です。WADAの禁止表は、毎年1月1日に更新されます。

<検査について>

Q ドーピング検査はどういうものですか？

A ドーピング検査は尿や血液を採取し、これをWADA認定分析機関で分析します。ドーピング検査には「競技会検査」と「競技会外検査」とがあります。

「競技会検査」ではすべての禁止物質と禁止方法が対象となりますが、「競技会外検査」では、禁止表のI.常に禁止される物質と方法(S1.蛋白同化薬、S2.ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質、S3.ベータ2作用薬、S4.ホルモン調節薬および代謝調節薬、S5.利尿薬および隠蔽薬、M1.血液および血液成分の操作、M2.化学的および物理的操作、M3.遺伝子ドーピング)が対象となります。

Q ドーピング尿検査はどのように行われますか？

A ドーピング検査は、以下の流れで行なわれます。

通告:検査対象者は競技終了後にシャペロンから通告されます。

受付:通告されたら、速やかにドーピング検査室に行かなければなりません。検査を拒否するとドーピング防止規則違反とみなされます。検査室には1人の付き添いが認められます。

採尿:採尿カップを選び、同性の検査員の立会いのもとトイレで採尿します。

分注・封印:サンプルキットを選び、尿をA・B二つの検体用ボトルに分注し、封をします。

薬物の申告:7日以内に使用した薬物とサプリメントを申告します。

コメント:検査手続き中に気づいたことがあれば、補足報告書に記入します。

署名:公式記録書の記載内容、手続きに問題がなかったかを確認して署名します。アスリート用の写しを大事に保管してください。

Q 競技会外検査とはどういうものですか？

A ドーピングによる不正をより効果的に防ぐため、またアスリートのクリーンさを証明するため、トレーニング期間中などに検査が行われます。対象アスリートより提出された居場所情報などに基づき、事前の通告なしに実施され、採尿等の手続きは競技会検査と基本的に同じです。

Q 検査で陽性になったらどうなりますか？

A A 検体の分析結果に疑わしい所見が見られた場合、アスリート本人に通知が届き、本人が要求すれば B 検体の確認分析が行われます。B 検体も A 検体と同じ所見であればドーピング防止規則違反となり制裁が課せられる可能性があります。なお、違反の認定・制裁内容を決定する前に、聴聞会が開かれ、本人には弁明の機会が与えられます。制裁には成績・記録の抹消、資格停止などがあります。また、アスリート以外にもサポートスタッフなど違反に関与した者に対する制裁が課せられることがあります。

<治療薬の服用について>

Q 治療のため、どうしても禁止物質を使用したいのですが？

A 治療のために禁止物質がどうしても必要な場合には、TUE(治療使用特例)を申請します。(詳細：http://www.playtruejapan.org/testing_tue.php)
所定の用紙(TUE 申請書)に確認書と医療情報を添えて申請し、審査で許可されれば(承認書が送られる)、使用できます。ただし、治療上必要であり、他に治療法がなく、使用しても競技力を高めないものに限定されています。
TUE 申請書類は、JADA の TUE 委員会へ提出します。所属の競技団体または都道府県体育協会を経由して提出することも可能です。
なお、国際大会に参加するアスリートは国際競技連盟などに提出する必要がありますので、所属競技団体に問い合わせてください。

Q ぜん息治療薬の注意点は何か？

A ①吸入サルブタモール、吸入サルメテロール、吸入ホルモテロールおよび糖質コルチコイドの吸入は禁止されていませんので、TUE は不要です。
②「吸入サルブタモール、吸入サルメテロールおよび吸入ホルモテロール」以外の吸入ベータ 2 作用薬を使用する際には、あらかじめ医療情報を添えて、TUE 申請が必要です。
※JADA への提出には JADA のホームページから「JADA 吸入ベータ 2 作用薬使用に関する情報提供書」をダウンロードし、使用して下さい。

Q 風邪のときはどうしたらよいですか？

A 禁止物質を含まない薬がありますので、症状に応じて医師から適切な処方を受けてください。その際には、(1)自分がドーピング検査の対象となる可能性があること、(2)禁止物質が含まれていない薬を処方してもらうことを伝えてください。

Q 関節に注射をしたときはどうしたらよいですか？

A 糖質コルチコイドの非全身的使用(関節内注射、関節周囲注射、腱周囲注射、硬膜外注射、皮内注射、吸入)は、禁止されていませんので、TUE は不要です。

Q 治療のために医師から薬を処方されていますが、大丈夫ですか？

A 病気の治療薬にも禁止物質があります。たとえば、(1)糖尿病治療薬のインスリン、(2)ぜん息治療薬の内服薬・吸入薬・貼付薬・注射薬、(3)痛風治療薬のプロベネシド、(4)高血圧治療薬の利尿薬・ベータ遮断薬などです。

処方される薬については主治医から良く説明を受けて、薬物名を記録しておきます。なお製品に関する問い合わせ先は、「薬について問い合わせ」のページを参照に、また Global DRO でも検索してみましょう。

Q 病院で点滴(静脈内注入)をしたときはどうしたらよいですか？

A 「静脈内注入(点滴)」という方法と、「注入した薬剤」について確認が必要です。

①「静脈内注入(点滴)」について

静脈内注入(点滴)は禁止されています。

しかし、医療機関の受診過程(救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む)や外科手術、臨床的検査において正当にうけるものは禁止されず、TUE は必要ありません。

②「注入(点滴)した薬剤」について

注入(点滴)した薬剤について禁止物質が含まれるか否かを確認してください。

禁止物質が含まれる場合には、その物質に対する TUE 申請が必要です。

Q 花粉症の治療をしたいのですが、どの薬であればドーピングになりませんか？

A ①病院の場合

医師に自分がドーピング検査の対象となる可能性があるため、禁止物質が含まれない薬を処方してもらうよう伝えてください。

医師の禁止物質に対する知識が乏しい場合は、「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」または「スポーツファーマシスト」に問合せてもらえるよう伝えましょう。

②ドラッグストアや薬局の場合

薬に禁止物質が含まれていないか「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」または「スポーツファーマシスト」に問合せを確認しましょう。

事前にスポーツファーマシストが在籍する薬局を「スポーツファーマシスト検索ページ」で調べておくと、いざという時安心です。

また、Global DRO を活用し、処方してもらった薬や購入した薬の成分を自分で確認しましょう。

Q 大会直前にケガをして、緊急に病院で「糖質コルチコイド」を関節に局所注射(局所使用)し、点滴をしました。どうしたらいいですか？

A 医療記録(カルテ、様式任意)を必ず保存して下さい。

医療機関における糖質コルチコイドの局所注射(局所使用)は禁止されていませんので、TUE は不要です。

競技会のドーピング検査の結果、糖質コルチコイドが検出された場合には、

(1) JADA が、アスリートに使用状況を問い合わせる。

(2) アスリートは、上記の医療記録を JADA に提出し、局所使用であることを証明する。

(3) JADA が、検出結果がその医療記録と矛盾しないか確認し、局所注射使用かどうかを判断する。

(4) JADA が局所注射使用であると確認した場合、アスリートは違反なしと判断される。

上記(2)において必要となりますので、アスリートは、病院での医療行為を受けた際には、必ず医療記録を残しておきましょう。

Q 薬の使用についての問い合わせ先は？

A 以下のページを参照下さい。

<http://www.realchampion.jp/knowledge/medicine>

10. 医薬品の使用可否検索の手順について

Q.

ドーピング禁止薬に関する問合せがあったときは、どのような手順で使用の可否を調べればよいのですか？

A.

本書は、使用可能薬を一般用医薬品等・医療用医薬品に分け、さらにそれぞれ薬効群別に細分しており、使用可能薬を探す上で利便性の高いものとなっています。一方、ある医薬品が使用できるのかできないのかは、索引を使うことで手軽に検索することが出来ます。本書の使用に慣れるまでは、下記のような流れでの検索をお勧めします。

- ① 選手・コーチ等からドーピング禁止薬に関する質問を受けた場合には、まず本書 82 ページの『索引（使用可能薬リスト掲載医薬品の一覧表(50 音順)）』を開き、該当の医薬品名があるかどうかをご確認ください。後発医薬品の場合には、先発品の販売名か一般名で検索して下さい。



- ② 索引に該当の医薬品がある場合には、そのページの内容や注意をご確認の上、質問者にご回答下さい。



- ③ 索引に該当の医薬品がない場合には、本書 4 ページからの『2015 年 WADA 禁止表掲載のドーピング禁止薬物の作用と禁止医薬品例』で、該当の医薬品が禁止物質に該当するかどうかをご確認下さい。成分が禁止リストに掲載されていた場合には、使用不可の旨をご回答下さい。



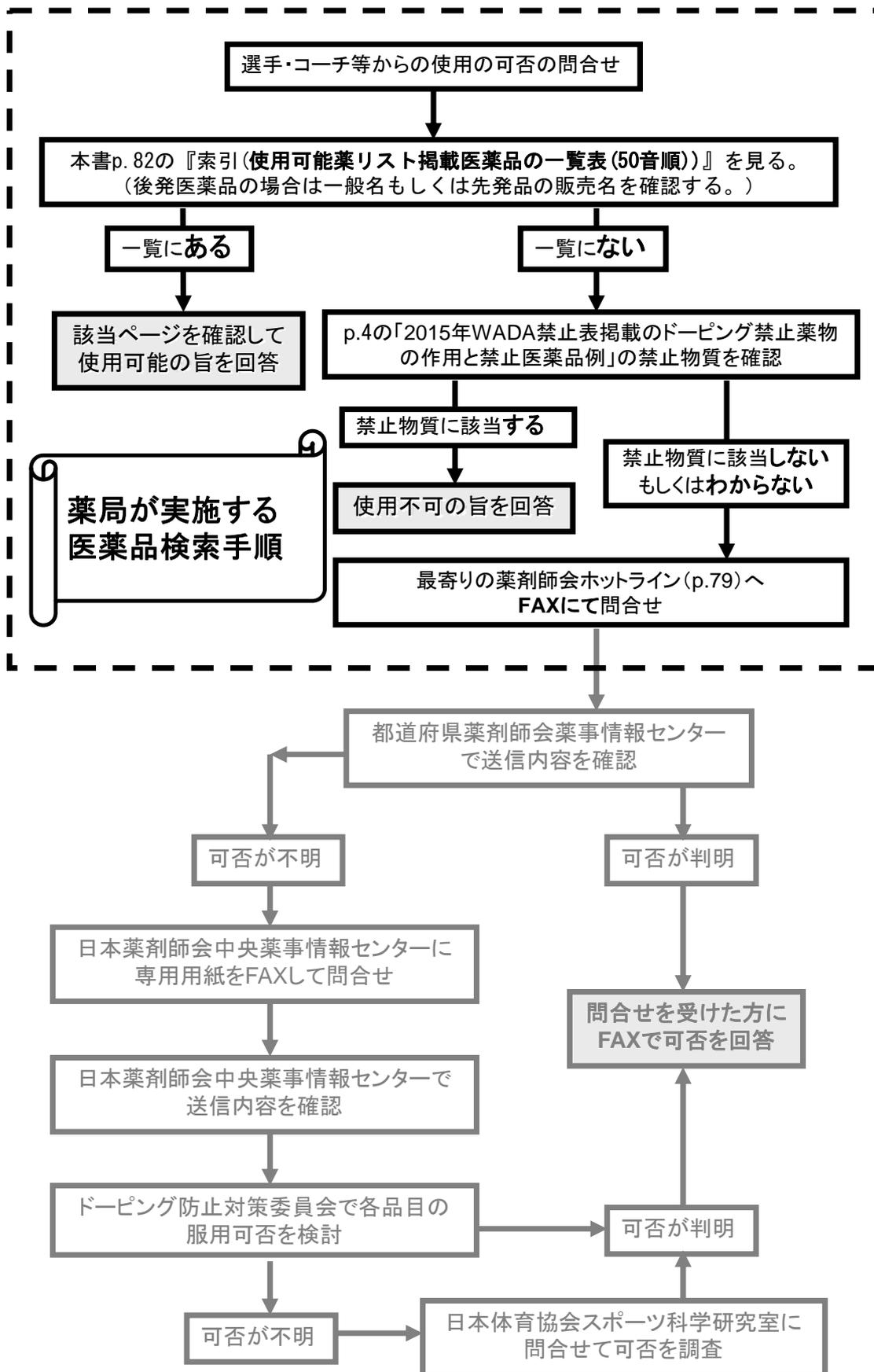
- ④ 該当の医薬品が索引にも禁止リストにも掲載されていない場合、80 ページの『薬剤師会ホットライン用問合せ用紙』を、最寄りの薬剤師会ホットライン(79 ページ)宛に FAX でお送り下さい。なお、和歌山国体に関する質問の場合は、本書 80 ページの用紙を用いて和歌山県薬剤師会に問合せすることも可能です(81 ページ)。



- ⑤ FAX 送信後は、医薬品の内容を確認して、出来るだけ速やかにご回答致します。

なお、医薬品の内容によっては、日本体育協会スポーツ科学研究室への問合せを実施致します関係上、回答にお時間がかかることがあります。どうぞ、ご了承下さい。

医薬品使用の可否の検索手順は、次ページにフローチャートでも示しております。本ページの内容と合わせてご参照下さい。



11. 薬剤師会ドーピング防止ホットライン

原則として、次ページの専用用紙を FAX でお送り下さい。

名称	電話番号	FAX番号
日本薬剤師会 消費者薬相談窓口	03-3353-2251	03-3353-8160
ほっかいどう・おくすり情報室	011-815-0093	011-831-6133
青森県薬剤師会薬事情報センター	017-742-8822	017-743-7075
岩手県薬剤師会くすりの情報センター	019-653-4591	019-653-4592
宮城県薬剤師会くすりの相談室	022-391-1175	022-391-6630
秋田県薬剤師会くすり110番	018-834-8931	018-835-2576
山形県薬剤師会薬事情報センター	023-622-3550	023-625-3970
福島県薬剤師会薬事情報センター	024-549-2203	024-549-2209
茨城県薬剤師会 くすりの相談室	029-306-8945	029-306-8040
栃木県薬剤師会薬事情報センター	028-658-9877	028-658-9847
群馬県薬剤師会薬事情報センター	027-243-6650	027-223-5308
埼玉県薬剤師会情報センター	048-653-4466	048-667-5580
千葉県薬剤師会薬事情報センター	043-247-4401	043-247-4402
東京都薬剤師会 薬事情報課	03-3295-9532	03-3295-2333
神奈川県薬剤師会薬事情報センター	045-751-7066	045-751-4460
新潟県薬剤師会薬事情報センター	025-281-7730	025-281-7735
富山県薬剤師会 くすり相談	076-422-3111	076-422-3633
石川県薬剤師会薬事情報センター	076-231-6711	076-231-6721
福井県薬剤師会薬事情報センター	0776-61-6566	0776-61-6561
山梨県薬剤師会薬事情報センター	055-255-1507	055-254-3401
長野県薬剤師会医薬品情報室	0263-34-5511	0263-34-6177
岐阜県薬剤師会ぎふ薬事情報センター	058-247-5122	058-247-5757
静岡県薬剤師会医薬品情報管理センター	054-281-9998	054-203-2028
静岡県薬剤師会 高齢者くすりの相談室	054-281-9989	054-203-2028
愛知県薬剤師会薬事情報センター	052-231-2261	052-222-3326
三重県薬剤師会 薬の相談テレホン	059-228-1113	059-225-4728
滋賀県薬剤師会薬事情報センター	077-565-3535	077-563-9033
京都府薬剤師会薬事情報センター	075-525-1511	075-525-2332
大阪府薬剤師会 おくすり相談窓口	06-6947-0709	06-6947-5487
兵庫県薬剤師会薬事情報センター	078-341-6089	078-341-6099
奈良県薬剤師会薬事情報センター	0742-27-6072	0742-24-1291
和歌山県薬剤師会薬事情報センター	073-433-0166	073-424-3353
鳥取県薬剤師会薬事情報センター	0859-38-1411	0859-38-5758
島根県薬剤師会情報センター	0852-25-0900	0852-26-5358
岡山県薬剤師会薬事情報センター	086-294-9080	086-294-9056
広島県薬剤師会 薬事情報センター	082-243-6660	082-248-1904
山口県薬剤師会 くすりの相談室	083-923-1193	083-924-7704
徳島県薬剤師会薬事情報センター	088-655-0025	088-625-5763
香川県薬剤師会 営業局県庁前	087-832-7805	087-833-2132
愛媛県薬剤師会 おくすり相談窓口	089-932-2141	089-921-5353
高知県薬剤師会情報センター	088-820-5011	088-820-5010
福岡県薬剤師会 くすりなんでもテレホン	092-271-1585	092-281-4104
佐賀県薬剤師会薬事情報センター	0952-23-2771	0952-23-8941
長崎県薬剤師会 薬相談窓口	095-846-5918	095-848-6160
熊本県薬剤師会医薬情報センター	096-351-5333	096-288-1818
大分県薬剤師会薬事情報センター	097-544-9512	097-544-8060
宮崎県薬剤師会薬事情報センター	0985-27-0129	0985-29-8127
鹿児島県薬剤師会薬事情報センター	099-257-2515	099-257-2516
沖縄県薬剤師会 おくすり相談室	098-963-8935	098-963-8937

12. 和歌山国体におけるドーピング防止相談窓口について

ご注意ください!

薬をのむ前に必ず薬剤師にご相談を!

うっかりドーピング!

競技ルール*で、ドーピング違反に問われた場合、
「うっかり」「ついつい」「知らなかった」
ではすまされません!

*ドーピング防止規定

●病院で出された薬や薬局で購入した薬の中には
ドーピング違反になるものもあります。

使用する前に必ず薬剤師にご相談ください!

お薬に関する相談は

ドーピング防止相談薬局・病院薬局

■和歌山県薬事情報センターで
ご覧いただけます。



<http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php>

和歌山県薬事情報センター

受付時間：月～金 9:00～18:00
(2015年の国わかやま国体期間中は、24時間対応をしています。)

●Eメール

doping@wpa.or.jp

●電話

073-433-0166

●FAX

073-424-3353

※ご相談の際は、氏名・年齢・性別・競技名・
ご自身の立場(選手・監督等、医師・看護師・薬剤師等、その他)
と薬品名を正確にお伝えください。



ドーピング安心カード

「薬局やドラッグストアで薬を買う時に、
このカードの付いた薬は安心して使用することができます」

2015 紀の国 わがやま国体
第70回国民体育大会 運動と歓喜、そして絆

2015 紀の国 わがやま大会
第15回全国障害者スポーツ大会 運動と歓喜、そして絆

一般社団法人 和歌山県薬剤師会

〒640-8249

和歌山県和歌山市雑賀屋町19

13. 索引(使用可能薬リスト掲載医薬品の一覧表(50音順))

本ガイドブックに掲載されている医薬品のうち、使用方法を守り正しく使用した場合に使用できる医薬品を50音順に並べたものです(一部、使用方法や投与経路等によっては禁止されるものを含む)。索引の使用に際しましては、以下の点にご注意下さい。

- ◇ 成分名と販売名のどちらでも検索できます。
- ◇ 成分等が変更になっている場合がありますので、索引にある医薬品につきましても必ず該当ページでご確認下さい。

D

dI-カンフル.....	38, 39
DL-メチオニン.....	50
d-カンフル.....	38
d-クロールフェニラミンマレイン酸塩.....	28, 33, 46, 70

F

FAD 点眼液.....	62
--------------	----

H

HP クリーム.....	37
--------------	----

L

L-アスパラギン酸カリウム.....	35, 36
L-カルボシステイン.....	28, 45
L-グルタミン.....	29, 48, 68
L-ケフレックス.....	57
l-メントール.....	34, 38, 39, 40

N

New マイティア CL.....	35
-------------------	----

P

PL 配合顆粒.....	42
--------------	----

S

SG 配合顆粒.....	43, 67
SP トローチ「明治」.....	63, 67

あ

アイスラブゲル.....	38
アイピーディ.....	47
アイフリーコーワ AL.....	36
アイブル-AG II.....	36
アイブル-CL.....	35
アイボン c.....	36
アイラート AG.....	36
アイリス AG ガード.....	36
アイリス CL-I ネオ.....	36
アイリス Rinc.....	35
アイロミールエアゾール.....	46
亜鉛華軟膏.....	65
アカルボース.....	56
アクアチム.....	64
アクアナチュラル便秘薬.....	30
アクチビア軟膏.....	40
アクディーム.....	44
アクトス.....	56
アクロマイシン.....	58, 68
アコチアミド塩酸塩水和物.....	48
アコファイド錠.....	48
アコレート錠.....	45
浅田飴のどクールスプレー.....	36
亜酸化窒素.....	66
アシクロビル.....	40, 59, 62
アジスロマイシン水和物.....	58, 68
アシタザノラスト水和物.....	36
アシドフィルス菌.....	29, 31
アシノン錠.....	48
アジルサルタン.....	52
アジルバ錠.....	52
アスコルビン酸.....	27, 34, 70
アスコルビン酸散.....	31
アストミン.....	44
アズノール.....	48, 63, 67
アズノール ST 錠口腔用.....	63, 67
アスパラ目薬ソフト.....	35
アスピリン.....	26, 42, 43, 67
アスベリン.....	44

アスペルギルス産生消化酵素	49
アズマネックスツイストヘラー	46
アズレンスルホン酸ナトリウム	29, 30, 37
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	29, 36, 37, 48, 63, 67, 68
アセトアミノフェン	26, 27, 42, 43, 67
アゼプチン	47
アセメタシン	43, 67
アゼラスチン塩酸塩	32, 47
アゼルニジピン	52
アタバニン散	50
アダパレン	65
アダラート	51
アタラックス	47
アットノン	37
アデカット錠	52
アドエア	46
アドソルビン原末	49, 68
アドナ錠・散	70
アドフィードバップ	64
アトラント	64
アトルバスタチンカルシウム水和物	51
アドレナリン	66
アトロベントエロゾル	46
アナグリプチン	56
アニルメ	42, 67
アネオール坐剤	43, 67
アネロンチュアブル	33
アバプロ錠	52
アバロン Z	29
アビリット	54
アフタゾロン口腔用軟膏	63, 66
アフタッチ口腔用貼付剤	63, 67
アブルウェイ錠	57
アフロクアロン	44
アベマイド錠	56
アベロックス錠	58
アマージ錠	43
アマリール	56
アマンタジン塩酸塩	59
アミティーザカプセル	49
アミノ安息香酸エチル	61, 66
アミノフィリン水和物	45
アミロリシン-5	29
アムロジピンベシル酸塩	52
アムロジン	52
アモキシシリン水和物	57, 68
アモバン錠	53, 69
アモリン	57, 68
アモロルフィン塩酸塩	39
アラセナ-A 軟膏・A クリーム	59
アラセナ S	40
アラセナ S クリーム	40
アラセプリル	52
アラントイン	34, 37, 38
アリナミン F 糖衣錠	70
アリピプラゾール	54
アリルイソプロピルアセチル尿素	43, 67
アルガード目すっきり洗眼薬 α	36

アルサルミン	48, 68
アルジオキサ	30, 48
アルタットカプセル・細粒	48
アルピニーA 坐剤	27
アルプラゾラム	53, 69
アルボ錠	43, 67
アルミノプロフェン	26
アルミワイス	48, 68
アレキサール点眼液	62
アレキサール鼻炎	32
アレギトール	31
アレグラ	47
アレグラ FX	32
アレジオン	47
アレジオン 10	32
アレジオン点眼液	62
アレビアチン錠・散	55
アレルギール錠	31
アレルギン散	46, 70
アレロック	47
アログリプチン安息香酸塩	56
アロフト錠	44
アロプリノール	56
アンジュ 21 錠、28 錠	60
アンチピリン	42
アンテベート	64
アンピシリン水和物	57, 68
アンピロキシカム	43
アンフェナクナトリウム水和物	43, 67
アンブロキシソール塩酸塩	45
アンブロン細粒	45
アンメルツヨコヨコ	38

い

イーケブラ	55
イサロン	48
イソコナゾール硝酸塩	34
イソコナゾール R カプセル	52
イソジン	65
イソジンうがい薬	36
イソジンガーグル液	63, 67
イソジンきず薬	37
イソジン軟膏	37
イソプロピルアンチピリン	43, 67
イソプロピルウノプロストン	63
イソプロピルメチルフェノール	38, 39, 40
イトプリド塩酸塩	48
イドメシニコワ	64
イトラコナゾール	58, 68
イトリゾールカプセル・内用液	58, 68
イナビル吸入粉末剤	59
イノセアバランス	29
イノセアワンブロック	29
イノック下痢止め	31
イブ	26
イブアウターゲル	38
イブアウターテープ	38
イブアウターパップ L	38

イブシロン-アミノカプロン酸	35, 36
イブプロフェン	26, 27, 43, 67
イブプロフェンピコノール	39, 65
イブラグリフロジン L-プロリン	57
イブラトロピウム臭化物水和物	46
イミグラン	43
イミダフェナシン	50
イミダプリル塩酸塩	52
イリボー	50
イルベサルタン	52
イルベタン錠	52
インヴェガ錠	54
インカルボン坐剤	49
インサイドパップ	64
インタール	47
インタール点眼液	62
インタール点鼻液	61
インテバン SP	43, 67
インドメタシン	38, 43, 64, 67
インドメタシンファルネシル	43
インヒベース錠	52
インフリー	43
インフルエンザ HA ワクチン	59

う

ヴァイクスメディケイテッドドロップ B・C・GF・L・O・R・U	37
ウインダム液	39
ウインダムクリーム	39
ウインダム軟膏	39
うがい薬コロロ SP	36
ウフェナマート	39, 64
ウラリット配合錠	56
ウリアデック錠	56
ウリトス	50
ウルグートカプセル	48, 69
ウルソ	50
ウルソデオキシコール酸	30, 31, 50

え

エイゾプト懸濁性点眼液	63
エースコール錠	52
エーゼットアルファ	36
エーワン L	40
エーワン L クリーム	40
エーワン L スプレー	40
エカベトナトリウム水和物	48
エキセナチド	57
エクア錠	56
エクセグラン	55
エコリシン	62
エシタロプラムシュウ酸塩	54
エソピクロン	53
エストラジオール	60
エスペナンせきどめ内服液エース	28
エソメプラゾール	48
エチゾラム	53, 69

エチニルエストラジオール	60
エトドラク	43, 67
エナラプリルマレイン酸塩	52
エバステン	32, 47
エバステル	47
エバステル AL	32
エパテック坐剤	43, 67
エバミール錠	53, 69
エバユースにきび薬	39
エビオス錠	30
エピナスチン塩酸塩	32, 47, 62
エピネフリン	66
エピリゾール	43, 67
エビリファイ	54
エフィナコナゾール	64
エフストリン去たん錠	28
エフストリントローチ	28
エブラジノン塩酸塩	44
エペリゾン塩酸塩	44
エマベリン L カプセル	51
エミネトン	34
エメダステンフマル酸塩	47
エリーテン錠	48
エリスロシン	58, 68
エリスロマイシン	58, 68
エリスロマイシン錠	58, 68
エリスロマイシンラクトビオン酸塩	62
エルペインコーワ	26
エルトリブタン臭化水素酸塩	43
塩化カリウム	35, 36, 63, 67
塩化カルシウム水和物	67
塩化セチルピリジニウム	28
塩化ナトリウム	35, 36, 63, 67
塩化マグネシウム	67
塩酸シプロフロキサシン	58
塩酸セルトラリン	54
塩酸テトラヒドロゾリン	32, 34, 35, 61
塩酸ピリドキシン	30, 34
塩酸メクリジン	33
塩酸リドカイン	32, 34, 39
塩酸ロペラミド	31
塩酸ロメリジン	43
エンテロノン-R 散	50, 69
エントモール散	50, 69
エンピナース・P	44
エンペシド L	34

お

オイグルコン錠	56
オイラックスソフト	38
近江兄弟社メンターム EX ソフト	38
オーキシスタービューヘイラー	46
オーグメンチン配合錠	57
オーソ 777-21 錠	60
オーソ M-21 錠	60
オーラ注歯科用	66
オキサトミド	47
オキサプロジン	43, 67

オキサロール軟膏・ローション	65
オキナゾール L100	34
オキシコナゾール硝酸塩	34, 40
オキシテトラコーン歯科用挿入剤	66
オキシテトラサイクリン塩酸塩	64, 66
オキシドール	37
オキシトロピウム臭化物	46
オキシメタゾリン塩酸塩	32
オキセサゼイン	29, 47
オステラック錠	43, 67
オスバン	65
オスバン S	37
オゼックス	58
オゼックス錠	68
オゼックス点眼液	62
オセルタミビルリン酸塩	59
オドリック錠	52
オノテース	49, 69
オノプローゼ A	49, 69
オノン	45, 47
オフロキサシン	58, 62, 68
オベガン	63
オペリド	63
オムニードケトプロフェンパップ	38
オメプラール錠	48
オメプラゾール	48
オメプラゾン錠	48
オラスポア小児用ドライシロップ	57
オラセフ錠	57, 68
オラドール	67
オランザピン	54
オルベスコインヘラー	46
オルメサルタンメドキシミル	52
オルメテック錠	52
オロナイン H 軟膏	39
オロパタジン塩酸塩	47, 62
オングリザ錠	56

か

ガーダシル	59
カイペール C	30
カイラックス	30
カイロック細粒	48
学童用ケーシック	33
ガスコン	48
ガスター10	29
ガスター10 S 錠	29
ガスター10 内服液	29
ガスター10(散)	29
ガスター錠・D 錠・散	48
ガストール細粒	29
ガストール錠	29
ガスドック 10	29
ガストローム顆粒	48
ガスマチン	48
カゼイ菌	31
ガチフロキサシン水和物	62
ガチフロ点眼液	62

カトレップ	64
カナグリフロジン水和物	57
カナグル錠	57
ガナトン錠	48
カナマイシン	57
カナマイシン-硫酸塩	57
ガバペン	54
ガバペンチン	54
カフェイン	42
カフェイン水和物	27
カプトプリル	52
カプトリル	52
カルスロット錠	51
カルデナリン	52
カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物	70
カルバマゼピン	54, 70
カルブロック錠	52
カルボキシメチルセルロースナトリウム	49
カルメロースナトリウム	49
カルメロースナトリウム原末「マルイシ」	49
カロナル	42, 67
乾燥酵母	30, 50
乾燥酵母エビオス	50
乾燥水酸化アルミニウムゲル	29, 48
乾燥炭酸ナトリウム	63
含嗽用ハチアズレ顆粒	63, 67
カンデサルタンシレキセチル	52

き

キオフィーバ	27
キサラタン点眼液	63
キズアワワ	37
キナプリル塩酸塩	52
キプレス	45
逆性石ケン	65
キャベジン U コーワ錠	48
キューバルエアゾール	46
キョウベリン錠	50
強ミヤリサン(錠)	31
キョーリン AP2 配合顆粒	42, 67
キンカン虫よけスプレーP	39

く

グ・スリーP	33
グアイフェネシン	28
グアヤコールスルホン酸カリウム	27, 28
クールワン去たんソフトカプセル	28
クールワン鼻スプレー	32
クエチアピソフマル酸塩	54
クエン酸	42
クエン酸カリウム	56
クエン酸第一鉄ナトリウム	55
クエン酸ナトリウム水和物	56
組換え沈降 2 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	59
組換え沈降 4 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	59
グラクティブ錠	56

クラバモックス小児用配合ドライシロップ	57
クラビット錠・細粒	58, 68
クラビット点眼液	62
クラプラン酸カリウム	57
クラリシッド	58, 68
クラリス	58, 68
クラリスロマイシン	58, 68
クラリチン	47
グランダキシシ	55
クリアナール	45
グリクロピラミド	56
グリコピロニウム臭化物	46
グリコラン錠	56
グリシン	50
グリチルリチン酸	31, 35, 36, 37, 38
グリチルリチン酸カリウム	31
グリチルリチン酸ニカリウム	31, 35, 36, 37, 40
グリチルリチン酸モノアンモニウム	50
グリチルレチン酸	34, 37, 38, 39, 40
グリチロン配合錠	50
クリノフィブラート	51
クリノリル錠	43
グリベンクラミド	56
グリマック配合顆粒	48
グリメピリド	56
クリンダマイシンリン酸エステル	64
グルコバイ	56
グルコン酸カルシウム水和物	31
グレースビット	58
クレストール錠	51
クレゾールスルホン酸カリウム	45
クレナフィン爪外用液	64
クレマスチンフマル酸塩	46, 70
グレラン・ビット	26
クロザピン	54
クロザリル錠	54
クロタミトン	38, 39, 40
クロダミンシロップ	46
クロチアゼパム	53, 69
クロトリマゾール	34
クロナゼパム	55
クロバザム	55
クロフェダノール塩酸塩	44
クロペラスチン	44
クロモグリク酸ナトリウム	32, 36, 47, 61, 62
クロルフェニラミンマレイン酸塩	27, 28, 31, 32, 34, 35, 36, 37, 38, 43, 46, 70
クロルフェネシンカルバミン酸エステル	44
クロルプロパミド	56
クロルヘキシジン塩酸塩	34, 66
クロルヘキシジングルコン酸塩	36, 37, 39, 65

け

ケイ酸アルミン酸マグネシウム	29
ケイ酸マグネシウム	29
ケーシック	33
結合型エストロゲン	60
ケトチフェンフマル酸塩	32, 36, 47, 61, 62

ケトプロフェン	38, 43, 64, 67
ケナログ口腔用軟膏	63, 67
ケフラル	57, 68
ケフレックス	57, 68
ケンエイオダイン	37
ゲンタシン	64
ゲンタマイシン硫酸塩	62, 64

こ

抗菌アイリスα	35
合成ケイ酸アルミニウム	48, 68
合成ヒドロタルサイト	26, 29, 30
コーラック	30
コーラック坐薬タイプ	30
コーラックソフト	30
コデインリン酸塩	44
コデインリン酸塩水和物	44
コデステシントローチ	28
コデミン G トローチ	28
こどもセンペア S	33
こどもパブロン坐薬	27
こどもリングルサット	26
コナン錠	52
コニール錠	51
コハク酸ソリフェナシン	50
コバシル錠	52
コランチル A 顆粒	29
コリオパン	48
コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	62
コリスチン硫酸塩	39
コルドリン	44
コルヒチン	56
コルヒチン錠「タカタ」	56
コロスキ	38
コロネル	50
コンスタン錠	53, 69
コンタック 600ST	32
コンタック 600 ファースト	32
コンタックせき止め ST	28
コンタック鼻炎 Z	32
コンタック鼻炎スプレー〈季節性アレルギー専用〉	32
コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	35, 36
コンドロイチン硫酸ナトリウム	35, 36
コンベック	64

さ

サーバリックス	59
細菌性脂肪分解酵素	49
ザイザル錠	47
サイレース錠	53, 69
ザイロリック錠	56
サインバルタカプセル	54
サカムケア a	38
サキサグリブチン水和物	56
酢酸 d-αトコフェロール	35, 36
酢酸トコフェロール	34

酢酸ノルエチステロン	60
サクロン Q	29
サクロン S	29
ザジテン	47
ザジテン AL 点眼薬	36
ザジテン AL 鼻炎カプセル	32
ザジテン AL 鼻炎スプレー α	32
ザジテン点眼液	62
ザジテン点鼻液	61
サトウ口内軟膏	37
サトラックスエース	30
ザナミビル水和物	59
サラテクト FA	39
サリチルアミド	27, 42, 43
サリチル酸グリコール	38
サリチル酸メチル	38
サリベートエアゾール	67
サルコートカプセル外用	67
サルタノールインヘラー	46
ザルトプロフェン	43, 67
サルブタモール硫酸塩	46
サルメテロールキシナホ酸塩	46
サロンパス EX	38
サワシリン	57, 68
酸化亜鉛	34, 39
酸化マグネシウム	29, 49, 68
サンコバ点眼液	62
ザンタック錠	48
サンテ 40 プラス	35
サンテアルフリー新目薬	36
サンテ抗菌新目薬	35
サンテドゥ	35
サンプローゼ F	29

し

ジアスターゼ	49, 69
ジアズメン	49, 69
ジアゼパム	53, 69
シアノコバラミン	34, 35, 62
シーブリ吸入用カプセル	46
ジェイゾフト錠	54
ジェニナック錠	58
ジオクチルソジウムスルホサクシネート(DSS)	30
歯科用キシロカイン	66
歯科用シタネスト-オクタプレシン	66
ジキリオンシロップ	47
ジクアス点眼液	63
ジクアホソルナトリウム	63
シグナル下痢止め	31
シクレソニド	46
ジクロテクトゲル	38
ジクロテクトテープ	38
ジクロテクトテープ L	38
ジクロテクトローション	38
ジクロフェナクナトリウム	38, 43, 64, 67
ジサイクロミン塩酸塩	29
ジスロマック	58
ジスロマック錠・SR	68

ジソペイン錠	43, 67
シタグリプチンリン酸塩水和物	56
シタフロキサシン水和物	58
ジドロゲステロン	60
ジヒデルゴット錠	43
ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩	43
ジヒドロコデインリン酸塩	27, 28
ジフェニドール塩酸塩	47
ジフェニルピラリン塩酸塩	27
ジフェンヒドラミン	37, 39, 64
ジフェンヒドラミン塩酸塩	31, 33, 37, 38, 39, 40, 47, 70
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩	33, 47, 66
ジブカイン塩酸塩	37
ジフルカンカプセル・ドライシロップ	58
ジフルコルトロン吉草酸エステル	64
ジフルプレドナート	64
ジブレキサ	54
シブロキサシ錠	58
ジブロフィリン	28, 33, 47
シブロヘプタジン塩酸塩水和物	47, 70
ジベンゾイルチアミン	26
次没食子酸ビスマス	61
シムビコートタービュヘイラー	46
シメチジン	48
ジメチルポリシロキサン	31, 48
シメトリド	42, 67
ジメモルファンリン酸塩	28, 44
ジメンヒドリナート	33, 47
ジャヌビア錠	56
重質酸化マグネシウム	49
酒石酸トルテロジン	50
笑気ガス	66
硝酸イソソルビド	52
小中学生用ストッパ下痢止め EX	31
小児用バファリン C II	26
小児用ベレックス配合顆粒	43
ジョサマイシン	58, 68
ジョサマイシン錠	58, 68
シラザプリル水和物	52
ジルチアゼム塩酸塩	52
ジルテック	47
新エスタック「W」	27
新エスタック 12	27
新エスベナントローチ	28
シングレア	45
人工涙液マイティア点眼液	63
新サルファ・ルビー	35
新タントーゼ A	31
新タントーゼ錠 L	30
シンバスタチン	51
新パブロンせき止め液	28
新ビオヂアス	30
新ビオフェルミン S 細粒	31
新ビオフェルミン S 錠	31
シンフェーズ T28 錠	60
新ブロン液エース	28
シンメトレル	59
新ルピカップ	28
新ルルエース	27

新ルル点鼻薬	32
新レシカルボン坐剤	49
新レシカルボン坐剤 S	30
シンレスタール	51
新レブメント-FN	37

す

水酸化アルミナマグネシウム	29
水酸化マグネシウム	29, 30, 48
スイニー錠	56
スイマグ	30
スーグラ錠	57
スカイナーAL錠	32
スカイラブソフト	33
スキヤンドネスト	66
スクラート胃腸薬(顆粒)	29
スクラルファート	29
スクラルファート水和物	29, 48, 68
スコボラミン臭化水素酸塩水和物	33
スコルバEX	39
スタデルム	65
ステイパンパップ	64
ステーブラ	50
ストッパ下痢止めEX	31
ストナアイビー	27
ストナ去たんカプセル	28
ストナリニ・ガード	31
ストナリニ Z	32
ストパン	29
ストマオフ糖衣錠	29
スナイリンドライシロップ	49
スピリーバ	46
スプラタストシル酸塩	47
スマイルアミノウオッシュ	36
スマイルコンタクトピュア	36
スマトリブタンコハク酸塩	43
スリンダク	43
スルタミシリントシル酸塩水和物	57
スルピリド	54
スルファメキサゾール	35, 58
スルファメキサゾールナトリウム	35
スロービッド	45

せ

セイブル錠	56
セキトローチ	28
ゼストリル錠	52
ゼスラン	47, 70
セタブリル錠	52
セチリジン塩酸塩	32, 47
セチルピリジニウム塩化物水和物	28, 37, 67
セチルピリジニウム塩化物トローチ	67
セトラキサート塩酸塩	30, 48
セニラン	53, 69
ゼノールエクサム FX	38
ゼノールエクサム SX	38

ゼノールエクサム液ゲル	38
セパミット	51
セピーAZのどスプレークール	37
セファクロル	57, 68
セファドール	47
セファレキシン	57, 68
セフィキシム水和物	57
セフォチアムヘキサセチル塩酸塩	57
セフカペンピポキシル塩酸塩水和物	57, 68
セフジトレンピポキシル	57, 68
セフジニル	57, 68
セフスパン	57
セフゾン	57, 68
セフチブテン水和物	57
セフテムカプセル	57
セフテラムピポキシル	57, 68
セフポドキシムプロキセチル	57, 68
セフロキサジン水和物	57
セフロキシムアキセチル	57, 68
セルシン錠・散・シロップ	53, 69
セルテクト	47
セルベックス	48
セルラーゼ AP3	49
セルロシン A.P.	29, 49, 69
セレキノン	50
セレコキシブ	43, 67
セレコックス錠	43, 67
セレニカ R	55
セレベント	46
セロクエル	54
繊維素分解酵素	49
センセファリン	57, 68
センノサイド	49
センノシド	30
センノシド A・B	49
センバア	33
センバア S	33

そ

ゾーミグ	43
ゾニサミド	55
ゾピクロン	53, 69
ゾビラックス眼軟膏	62
ゾビラックス錠・顆粒・軟膏・クリーム	59
ソファルコン	48
ソフィアA配合錠	60
ソフィアC配合錠	60
ソフティア点眼液	62
ソフトサンティア	35
ソフラチュール貼付剤	64
ソラナックス錠	53, 69
ソランター錠	43, 67
ゾルピデム酒石酸塩	53
ゾルミトリブタン	43
ソレトン錠	43, 67
ソロン	48

た

ダイアルミネート	42, 67
第一三共胃腸薬コアブロック散剤	30
第一三共胃腸薬コアブロック錠剤	30
大正胃腸薬 Z	29
耐性乳酸菌	50, 69
大腸菌死菌製剤	61
ダイプロセル	64
タイレノール A	26
タイワケシノールトローチ	28
タウリン	35, 36
ダオニール錠	56
タガメット錠・細粒	48
タクロリムス水和物	64
タケダ乗り物酔い止め	33
タケブロンカプセル・OD 錠	48
タナトリル錠	52
ダバグリフロジン	57
タフマック E	49, 69
タフルプロスト	63
タプロス	63
タベジール	46, 70
ダマリン L	40
ダマリン S	40
ダマリンエース	39
ダマリンエース液	39
タミナス A 錠	31
タミフル	59
ダラシン T	64
タリオン	47
タリビッド	62
タリビッド錠	58
ダルメートカプセル	53, 69
炭酸水素ナトリウム	29, 30, 49, 63, 67, 68
タンナルビン	49
タンニン酸アルブミン	31, 49
タンニン酸ベルベリン	31

ち

チアトン	50
チアマゾール	60
チアミトール	65
チアミン硝化物	34, 70
チアラミド塩酸塩	43, 67
チール A	38
チウラジール錠	60
チオトロピウム臭化物水和物	46
チキジウム臭化物	29, 50
チザニジン塩酸塩	44
チバセン錠	52
チベピジンヒベンズ酸塩	28, 44
チモール	38
チャルドール	49
チラーゼン S	59
チロナミン錠	59
沈降炭酸カルシウム	29, 30

つ

ツージーQ	30
-------	----

て

デアメリン S 錠	56
ディート	39
ディオバン	52
ディフェリンゲル	65
テオドール	45
テオフィリン	45
テオロング	45
デカリニウム塩化物	37, 63, 67
デキサメタゾン	63, 66
デキサメタゾンプロピオン酸エステル	64
デキササルチン口腔用軟膏	63, 66
デキストロメトルフアン臭化水素酸塩水和物	28, 44, 45
デキストロメトルフアンフェノールフタリン塩	28
テグレートール	54, 70
デスパコーワ口腔用クリーム	66
デソゲストレル	60
デタントール	52
テツクール徐放錠	55
テトラサイクリン塩酸塩	58, 66, 68
テトラサイクリン塩酸塩/パスタ	66
テトラヒドロゾリン鼻用スプレー「ミナト」	61
デトルシトールカプセル	50
テネリア錠	56
テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物	56
デパケン	55
デパス	53, 69
テプレノン	48
デプロメール錠	54
デベルザ錠	57
デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	39
テモカプリル塩酸塩	52
デュファストン錠	60
デュロキセチン塩酸塩	54
テラ・コートリル軟膏	66
テラナス錠	43
テラプリル塩酸塩	52
テラポニンセキトローチ	28
テラマイシン軟膏(ポリミキシン B 含有)	64
テルギン G	46
テルシガンエロゾル	46
テルネリン	44
テルビナフィン塩酸塩	39, 40, 58, 64
テルベラン錠	48
テルミサルタン	52
デルモゾール G	64
テレミンソフト坐薬	49
デンターグル含嗽用散	67
天然ケイ酸アルミニウム	49, 68

と

糖化菌	29, 30, 50, 69
-----	----------------

銅クロロフィリンカリウム	29, 34
銅クロロフィリンナトリウム	34
トークール	39
トークール液	39
トーフチーム配合顆粒	42
ドキサゾシンメシル酸塩	52
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	58, 68
トクホン E	38
ドグマチール	54
トクレススパンスールカプセル	45
トコフェロール酢酸エステル	34, 36, 38, 39, 61
トスキサシン錠	58, 68
トスフロキサシントシル酸塩水和物	58, 62, 68
トスフロ点眼液	62
トピロキソスタット	56
トピロリック錠	56
トフィソパム	55
トホグリフロジン水和物	57
ドミフェン臭化物	67
トミロン	57, 68
トメダインコーワフィルム	31
トライコア錠	51
トラゼンタ錠	56
トラニラスト	36, 47, 62
トラネキサム酸	47, 70
トラバタンズ点眼液	63
トラベラソフト	33
トラベルミン	33
トラベルミン チュロップぶどう味	33
トラベルミン チュロップレモン味	33
トラベルミン配合錠	47
トラボプロスト	63
トラマゾリン塩酸塩	61
トラマゾリン点鼻液「AFP」	61
ドラマミン錠	47
トラメラス	62
トランコロン錠	50
トランサミンカプセル・錠・散・シロップ	47, 70
トランドラプリル	52
トリアゾラム	53, 69
トリアムシノロンアセトニド	63, 67
ドリエル	33
トリキュラー錠 21、28	60
トリブラ S 錠	33
トリベノシド	61
トリメトプリム	58
トリメプチンマレイン酸塩	50
トルソプト点眼液	63
ドルゾラミド塩酸塩	63
トルブタミド	56
ドルマイシン軟膏	39
トレドミン錠	54
トロキシピド	29
ドロスピレノン	60
ドンベリドン	48

な

ナイキサン錠	43, 67
--------	--------

ナイトール	33
ナウゼリン	48
ナザール AR〈季節性アレルギー専用〉	32
ナザールブロック	32
ナシビン M スプレー	32
ナジフロキサシン	64
納豆菌	29, 30
ナパゲルン	64
ナファゾリン塩酸塩	32, 37
ナファゾリン硝酸塩	61
ナブメトン	43
ナプロキセン	43, 67
ナボール	64
ナボール SR カプセル	43
ナボリン フェルビナク 70	38
なみだロートコンタクト	35
ナラトリブタン塩酸塩	43

に

ニカルジピン塩酸塩	51
ニコチン酸アミド	31, 34, 70
ニザチジン	48
ニシミドン液小児用	27
ニソルジピン	51
ニツシンせき止め顆粒	28
ニトラゼパム	53, 69
ニトロール錠・R カプセル・スプレー	52
ニトログリセリン	52
ニトロダーム TTS	52
ニトロペン舌下錠	52
ニバジール錠	51
ニフェジピン	51
ニフラン	43, 67
ニフラン点眼液	63
ニボラジン	47, 70
乳酸菌	30
ニュータムシチンキゴールド	40
ニューラーゼ	30
ニューロタン錠	52
尿素	40
ニルバジピン	51

ね

ネオスチグミンメチル硫酸塩	35
ネオステリングリーンうがい液	67
ネオデイ	33
ネオファーゲン C 配合錠	50
ネオフィリン原末・錠	45
ネオヨジン	65
ネオヨジンうがいぐすり	36
ネオレスタミンコーワ散	46
ネキシウムカプセル	48
ネシーナ錠	56
ネチコナゾール塩酸塩	64
ネリゾナ	64
ネルボン	53, 69

の

ノアール P ガード点眼液	36
ノアール SG	35
ノアールワン SG	35
ノアルテン錠	60
ノイエル	48
ノイチーム	44
ノイロトロピン錠	43
濃厚膵臓性消化酵素	49
濃厚パンクレアチン	49
ノーシンホワイトジュニア	26
ノスカピン	27, 28
ノスカピン塩酸塩水和物	27
ノズレン細粒	48
ノドロップコフ	28
ノナン酸バニリルアミド	38
ノニル酸ワニリルアミド	38
ノニル酸ワニリルアミド	38
ノバボン L トローチ	37
ノバミン	54
乗り物酔い止め QD 錠	33
ノルエチステロン	60
ノルゲストレル	60
ノルバスク	52
ノルフロキサシン	58
ノルレボ錠	60

は

バイエッタ	57
バイエルアスピリン	26
バイナス錠	47
ハイペン錠	43, 67
バイミカード錠	51
パキシル	54
パキソ	43
バクシダール錠	58
白色ワセリン	37
バクタ	58
バクトラミン配合錠・配合顆粒	58
バシトラシン	39, 64
パスタタイム FX7	38
パスタタイム FX7-L	38
パセトシン	57, 68
パソレーターテープ	52
パタノール点眼液	62
ハッカ油	38
パップフォー	50
バナナ	57, 68
バファリン A	26
バファリン配合錠 A330	42, 67
バファリンルナ J	26
パブロンうがい薬 AZ	37
パブロン点鼻クイック	32
バラシクロビル塩酸塩	59
パラセタモール	42, 67
バラマイシン軟膏	64

バリアクト Hi 液	40
バリアクト Hi クリーム	40
パリエット錠	48
ハリケイン	66
パリペリドン	54
貼るアクテージ L	38
バルコーゼ顆粒	49
バルサルタン	52
ハルシオン錠	53, 69
バルトレックス	59
バルニジピン塩酸塩	51
バルプロ酸ナトリウム	55
パルミコート	46
パロキセチン塩酸塩水和物	54
パンクレアチン	49, 69
パンシロン N10	29
パンスポリン T 錠	57
パンテノール	35, 36, 38, 39
バンテリンコーワ液 W	38
バンテリンコーワクリーム LT	38
バンテリンコーワ新ミニパット	38
パントテン酸カルシウム	70

ひ

ヒアルロン酸ナトリウム	63
ヒアレイン	63
ピーエイ配合錠	42
ビーゾカイン歯科用ゼリー	66
ヒーロン	63
ピオグリタゾン塩酸塩	56
ピオチアスターゼ	29, 30
ピオチアスターゼ 2000	29, 30
ピオフェルミン R	50, 69
ピオフェルミン錠剤	50, 69
ピオフェルミン配合散	50, 69
ピオフェルミン便秘薬	30
ピオラクターゼ	30
ピクシリンカプセル・ドライシロップ	57, 68
ピクトーザ	57
ピコスルファートナトリウム水和物	30, 49
ピコダラム顆粒	49
ピコベン錠	49
ピコラックス	30
ピサコジル	30, 49
ヒスタール	46
ヒストミン鼻炎カプセル Z	32
ビソルボン錠・細粒・シロップ	45
ピタバスタチンカルシウム	51
ビタミン B6	36
ビダラビン	40, 59
ヒダントール	55
ビデュリオン	57
ビドキシサル錠	70
ヒドロキシエチルセルロース	35
ヒドロキシジン	47
ヒドロコルチゾン	66
ヒドロコルチゾン酢酸エステル	66
ヒドロコルチゾン酪酸エステル	64

ヒノキチオール	66
ヒノボロン口腔用軟膏	66
ヒビスコール S	37
ヒビテン	65
ピフィスゲン散	50, 69
ピフィス菌	29, 30, 31, 50, 69
ビブラマイシン錠	58, 68
ヒベルナ散・糖衣錠	47
ヒポカプセル	51
ビホナゾール	40
ヒポラール錠	43
ビュークリア AL クール	36
ピリドキサルリン酸エステル水和物	70
ピリドキシン塩酸塩	31, 33, 34, 35, 36, 70
ビルダグリプチン	56
ヒルドイド	65
ピレチア	47
ピレンゼピン塩酸塩水和物	29
ピロキシカム	43
ピロキシリン	38
ヒロダーゼ	49
ピロット A 錠	31

ふ

ファイチ	34
ファボワール錠 21、28	60
ファモチジン	29, 48
フィニッシュコーワ	36
フェイタスシップ	38
フェカリス菌	29, 31
フェキシフェナジン塩酸塩	32, 47
フェナゾックスカプセル	43, 67
フェントイン	55
フェノバル	55
フェノバルビタール	55
フェノバルビタールナトリウム	55
フェノフィブラート	51
フェブキソスタット	56
フェブリク錠	56
フェミニーナ 腔カンジダ錠	34
フェミニーナ軟膏 S	39
フェリア	26
フェリプレシン	66
フェルビナク	38, 64
フェルムカプセル	55
フェロ・グラデュメット錠	55
フェロミア	55
フォシーガ錠	57
フォスターALG	36
フキディア	39
ブスコパン A 錠	29
ブスコパン M カプセル	29
ブスコパン錠	48
フスタゾール	44
ブスポン S	29
ブチスコミン	29
ブチルスコポラミン臭化物	26, 29, 48
ブデソニド	46

ブテナフィン塩酸塩	39, 64
ブドウ糖	35
ブドステイン	45
ブトロピウム臭化物	48
ブナゾシン塩酸塩	52
フマル酸第一鉄	34, 55
フラジオマイシン硫酸塩	64, 67
プラゾシン塩酸塩	52
プラタギン	31
プラダロン	50
プラノバル配合錠	60
プラノプロフェン	43, 63, 67
プラバスタチンナトリウム	51
フラビタン	62, 70
フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	62, 70
フラベリック錠	45
フラボキサート塩酸塩	50
フランドル錠・テープ	52
ブランルカスト水和物	45, 47
ブリザクールジェル	34
ブリビナ液	61
プリンゾラミド	63
プリンペラン錠・細粒・シロップ	48
フルカムカプセル	43
フルコナゾール	58
フルスルチアミン	70
プルゼニド錠	49
フルタイド	46
フルチカゾンプロピオン酸エステル	46, 61
フルティフォームエアゾール	46
フルナーゼ	61
フルニトラゼパム	53, 69
フルバスタチンナトリウム	51
ブルフェン	43, 67
フルボキサミンマレイン酸塩	54
フルラゼパム塩酸塩	53, 69
フルルバンパップ	64
フルルビプロフェン	43, 64, 67
プレガバリン	43
フレッシュアイ AG	36
フレッシュングアクネクリーム	39
プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル	64
プレマリン錠	60
プレラン錠	52
プロクロルペラジン	54
プロチゾラム	53, 69
プロテカジン	48
プロトピック軟膏	64
プロナーゼ	44
プロナンセリン	54
プロバジール錠	60
プロバリン原末	53, 69
プロピトカイン塩酸塩	66
プロピペリン塩酸塩	50
プロピルチオウラシル	60
プロブコール	51
プロプレス錠	52
フロベン	43, 67
ブロマゼパム	53, 69

プロマック	48
ブロムヘキシン塩酸塩	28, 45
ブロムフレリル尿素	53, 69
プロメタジン	47
プロメタジンメチレンジサリチル酸塩	42
ブロメライン	32, 61
フロモックス	57, 68
ブロモバレリル尿素	53, 69
フロリード	58
フロリードゲル	68
プロリズム	33

へ

ペアアクネクリーム W	39
ベイスン	56
ペオン錠	43, 67
ベガモックス点眼液	62
ヘキストラステノン	56
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	32, 46, 67
ベザトール SR 錠	51
ベザフィブラート	51
ベザリップ錠	51
ベシカム	65
ベシケア	50
ベタヒスチンメシル酸塩	47
ベタメタゾン吉草酸エステル	64
ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	64
ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	64
ベッセン H2	29
ベトネベート	64
ベナ錠	47, 70
ベナゼプリル塩酸塩	52
ベニジピン塩酸塩	51
ベネキサート塩酸塩ベータデクス	48, 69
ベネトリン吸入液	46
ベノジールカプセル	53, 69
ヘパリン類似物質	37, 65
ベポタチンベシル酸塩	47
ヘマニック	34
ペミラストン点眼液	62
ペミロラストカリウム	32, 36, 62
ヘモクロンカプセル	61
ヘモナーゼ配合錠	61
ペラミビル水和物	59
ペリアクチン	47, 70
ペリオクリン歯科用軟膏	66
ペリオフィール歯科用軟膏	66
ベリチーム配合顆粒	49, 69
ペリンドプリルエルブミン	52
ペルジピン錠・散・LA カプセル	51
ヘルペシア軟膏	40
ヘルベッサ錠・R カプセル	52
ベルベリン塩化物水和物	31, 50
ヘルミチン S 坐剤	61
ペレックストローチ	37
ペレックス配合顆粒	43
ペロスピロン塩酸塩	54
ペロット下痢止め	31

ベンザ鼻炎スプレー	32
ベンザブロックトローチ	28
ベンザリン	53, 69
ベンザルコニウム塩化物	32, 34, 37, 39, 65, 66
ベンズプロマロン	56
ベンゼトニウム塩化物	32, 37, 67
ペントキシペリクエン酸塩	27, 45
ペントバルビタールカルシウム	53, 69
ペンプロペリンリン酸塩	45

ほ

ホウ酸	63
ポード錠	33
ボグリボース	56
ポジナール M 錠	31
ポステリザン(軟膏)	61
ホスホマイシンカルシウム水和物	58
ホスミン錠・ドライシロップ	58
ポビドンヨード	36, 37, 63, 65, 67
ポポンピュメリ目薬 R	35
ホモクロミン錠	47, 70
ホモクロルシクリジン塩酸塩	47, 70
ボラギノール M 坐剤	34
ボラギノール M 軟膏	34
ボラザ G	61
ポラプレジック	48
ポララミン錠・散・シロップ・ドライシロップ	46, 70
ポリカルボフィルカルシウム	50
ポリトーゼ	49, 69
ポリパーゼ	49, 69
ポリフル	50
ポリミキシン B 硫酸塩	64
ボルトレン	43, 64, 67
ボルトレン AC ゲル	38
ボルトレン AC テープ	38
ボルトレン AC テープ L	38
ボルトレン AC ローション	38
ホルモテロールフマル酸塩水和物	46
ボレー	64
ポンタール	43, 67
ボンラーゼ	49, 69

ま

マーズレン	48, 68
マーベロン 21、28	60
マーロックス懸濁用配合顆粒	48
マイザー	64
マイスタン	55
マイスリー錠	53
マイティア抗菌目薬	35
マイトラベル錠	33
マキサカルシトール	65
マキロン S	37
マクサルト	43
マクト OZ	29
マグミット	49

マグラックス	49
マスチゲン-S錠	34
マズレニンガーグル散	63, 67
マニジピン塩酸塩	51
マミターゼ	49
マルファ	48

み

ミオコールスプレー	52
ミオナール	44
ミカルディス錠	52
ミグシス錠	43
ミグリトール	56
ミグレニン	42
ミコナゾール	58, 68
ミコナゾール硝酸塩	34, 40
ミニプレス錠	52
ミノキシジル	39
ミノサイクリン塩酸塩	58, 66, 68
ミノマイシン錠・カプセル・顆粒	58, 68
ミヤ BM	50, 69
宮入菌(酪酸菌)末	30, 31
ミヤリサンU錠	30
ミリステープ	52
ミルタザピン	54
ミルタックスパップ	64
ミルナシبران塩酸塩	54
ミルマグ液	30

む

ムイロジン細粒	56
ムコサール	45
ムコスタ	48
ムコスタ点眼液 UD	63
ムコソルバン	45
ムコダイン	45
無水カフェイン	27, 28, 42, 43, 67
無水リン酸水素カルシウム	29
無水リン酸二水素ナトリウム	30, 49
ムヒ S	39
ムヒソフト GX	39
ムヒソフト GX 乳状液	39
ムヒのきず液	37
ムヒの虫よけムシペール PS	39
ムヒの虫よけムシペール α	39

め

メイアクト MS	57, 68
メイラックス	53, 69
メキタジン	31, 47, 70
メサデルム	64
メジコン散・錠	44
メジコン配合シロップ	45
メシル酸ガレノキサシン水和物	58
メストラノール	60

メゼック配合シロップ	45
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	29
メチルメチオニンスルホニウムクロリド	48
メイトリート	34
メイトリートクリーム	34
メトグルコ錠	56
メトクロプラミド	48
メトホルミン塩酸塩	56
メノエイドコンビパッチ	60
メバロチン	51
メピバカイン塩酸塩	66
メピリゾール	43, 67
メフェナム酸	43, 67
メブロン顆粒	43, 67
メベンゾラート臭化物	50
メリスロン錠	47
メルカゾール錠	60
メロキシカム	43
メンソレータムフレディ CC クリーム	34
メンソレータムフレディ CC 錠	34
メンソレータムヘパソフトクリーム	37
メンタックス	64
メンフラ A	38

も

モービック錠	43
モーラス	64
モキシフロキサシン塩酸塩	58, 62
モサプリドクエン酸塩水和物	48
モフェゾラク	43, 67
モメタゾンフランカルボン酸エステル	46
モルシン	49, 69
モンテルカストナトリウム	45

や

ヤーズ配合錠	60
ヤクバンテープ	64
ヤクルト BL 整腸薬	31

ゆ

ユースキン I	39
ユースキン I ローション	39
ユースキン N	39
有孢子性乳酸菌	30
ユナシン	57
ユニーサルファ目薬	35
ユニフィル LA 錠	45
ユニベインL	26
ユリノーム錠	56

よ

ヨウ化イソプロパミド	32
葉酸	34

幼児用 PL 配合顆粒.....	42
------------------	----

ら

ラキソベロン.....	49
酪酸菌.....	50, 69
ラクトール S.....	30
ラクトミン.....	29, 30, 31, 50, 69
ラタノプロスト.....	63
ラックビーR 散.....	50, 69
ラックビー微粒 N.....	50, 69
ラッパ整腸薬 BF.....	31
ラニチジン塩酸塩.....	29, 48
ラニナミビルオクタ酸エステル水和物.....	59
ラノコナゾール.....	39
ラピアクタ.....	59
ラビネット P.....	37
ラフチジン.....	48
ラベプラゾールナトリウム.....	48
ラベルフィーユ 21 錠、28 錠.....	60
ラボナ錠.....	53, 69
ラマストン MX2.....	39
ラマストン MX2 液.....	39
ラマストン MX2 ゲル.....	39
ラマトロバン.....	47
ラミクタール.....	55
ラミシール.....	64
ラミシール AT 液.....	39
ラミシール AT クリーム.....	39
ラミシール錠.....	58
ラメルテオン.....	53
ラモセトロン塩酸塩.....	50
ラモトリギン.....	55
ラリキシン.....	57, 68
ランソプラゾール.....	48
ランツジールコーワ錠.....	43, 67
ランドセン.....	55

り

リアップ.....	39
リアップ X5.....	39
リアップレディ.....	39
リーゼ.....	53, 69
リオチロニンナトリウム.....	59
リキシセナチド.....	57
リクスミア.....	57
リザトリプタン安息香酸塩.....	43
リザベン.....	47
リザベン点眼液.....	62
リシノプリル水和物.....	52
リスパダール.....	54
リスベリドン.....	54
リスミー錠.....	53, 69
リゾチーム塩酸塩.....	28, 37, 44
リドカイン.....	32, 34, 38, 39, 40, 61, 66
リドメックスコーワ.....	64
リナグリプチン.....	56

リパーゼ A.....	49
リパーゼ AP12.....	30
リパロ.....	51
リピディル錠.....	51
リピトール錠.....	51
リフタマイシン点眼液.....	62
リフレックス錠.....	54
リポール.....	56
リポクリン錠.....	51
リボスチン点眼液.....	62
リボトリール.....	55
リポバス錠.....	51
リポフラビン.....	31, 34, 70
硫酸コバルト.....	34
硫酸鉄.....	55
硫酸銅.....	34
硫酸マンガン.....	34
リラグルチド.....	57
リリカカプセル.....	43
リルマザホン塩酸塩水和物.....	53, 69
リレンザ.....	59
リングルアイビー200.....	26
リン酸水素カルシウム.....	34
リン酸水素ナトリウム水和物.....	63
リン酸ニカリウム.....	67
リン酸二水素ナトリウム.....	35
リン酸ピリドキサル.....	31
リンデロン-DP.....	64
リンデロン-V.....	64
リンデロン-VG.....	64
リンラキサー錠.....	44

る

ルーラン錠.....	54
ルセオグリフロジン水和物.....	57
ルセフィ錠.....	57
ルナベル配合錠 LD、ULD.....	60
ルネスタ錠.....	53
ルピアール坐剤.....	55
ルビプロストン.....	49
ルボックス錠.....	54
ルミフェン.....	26
ルリッド錠.....	58, 68
ルルのどスプレー.....	37

れ

レキソタン.....	53, 69
レクサプロ錠.....	54
レスキュラ点眼液.....	63
レスタミンコーワクリーム.....	64
レスタミンコーワ錠.....	47, 70
レスタミンコーワ糖衣錠.....	31
レスタミンコーワパウダークリーム.....	39
レスプレ錠.....	44
レダマイシン軟膏.....	39
レック H 坐剤.....	34

レックH軟膏	34
レニベース錠	52
レバミピド	48, 63
レフトーゼ	44
レベチラセタム	55
レベニン	50, 69
レボカバステン塩酸塩	62
レボセチリジン塩酸塩	47
レボチロキシシンナトリウム水和物	59
レボノルゲストレル	60
レボフロキサシン水和物	58, 62, 68
レミカットカプセル	47
レメロン錠	54
レリフェン錠	43
レルパックス錠	43
レンドルミン	53, 69

ろ

ローコール錠	51
ロートCキューブアミノモイスト	36
ロートアルガードプレテクト	36
ロートエキス	29, 31, 48
ロートエキス3倍散	29, 30, 31
ロートエキス散	30
ロートエキス3倍散C	29
ロート抗菌目薬EX	35
ロートゴールド40	35
ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	29, 48
ロキシスロマイシン	58, 68
ロキソニン	43, 64, 67
ロキソニンS	26

ロキソプロフェンナトリウム水和物	26, 43, 64, 67
ロコイド	64
ロサルタンカリウム	52
ロスバスタチンカルシウム	51
ロゼレム錠	53
ロナセン	54
ロバックU	39
ロヒプノール錠	53, 69
ロフラゼプ酸エチル	53, 69
ロペミン	50
ロペラマックサット	31
ロペラミド塩酸塩	50
ロミノン三宝 Oz	29
ロラゼパム	53, 69
ロラタジン	47
ロラメット錠	53, 69
ロルカム錠	43, 67
ロルノキシカム	43, 67
ロルメタゼパム	53, 69
ロレルコ	51
ロンゲス錠	52

わ

ワイドシリン細粒	57, 68
ワイパックス錠	53, 69
ワカモト消化薬	30
わかもと整腸薬	31
ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	43
ワクナガ胃腸薬U	30
ワコビタール坐剤	55
ワッサーV配合顆粒	70

薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック 2015年版

2015年6月1日 発行

著者

日本薬剤師会 ドーピング防止対策委員会

石井 甲一、藤原 英憲、明石 文吾

足永 貴義、上田 泰之、大石 順子(WG委員)、

笠師 久美子、川瀬 晶子、中野 正治、原 博、

本田 昭二、山下 真経、山本 将之

和歌山県薬剤師会

日本体育協会 ドーピング防止部会ドーピングデータベース作業班

植木 眞琴、東 宏一郎、廣崎 正彰、伊藤 静夫、大石 順子、

小杉 義幸、寺澤 孝明、向井 直樹、渡辺 一夫

協力

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会実行委員会

和歌山県体育協会

静岡県薬剤師会 埼玉県薬剤師会 岡山県薬剤師会 兵庫県薬剤師会

秋田県薬剤師会 大分県薬剤師会 新潟県薬剤師会 千葉県薬剤師会

山口県薬剤師会 岐阜県薬剤師会 東京都薬剤師会 長崎県薬剤師会

赤間 高雄(早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)

編集・発行 日本薬剤師会

〒160-8389 東京都新宿区四谷三丁目3-1 富士・国保連ビル7階

電話 03(3353)1170 FAX 03(3353)6270

E-mail di@nichiyaku.or.jp

印刷 興和印刷株式会社
